

絶対に笑ってはいけない財団X 2 4 時

鳴神 ソラ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

Dr.クロさんと共に共同で書き上げた笑ってはいけません！
様々なキャラが登場！

中には書いてる作者の脳内にある作品でのキャラも出て来ちゃう
！
笑ってけると嬉しいな！

目次

スタートから目的地到着まで	1
到着からの机ネタからお昼決定戦まで	24
お昼決めゲームからマリオメーカープレイまで	59
捕まっつてはいけないまで	77
交代の理由からレクレーション大会まで	96
部屋戻りからの所長挨拶まで	115
ヒーロー侵入からおやつまで	133
コンサートからアクシデント発生まで	146
クイズから楽屋裏話まで	160
スペシャルゲスト登場から楽屋裏話その2まで	172
団体バトル開始から終了まで	182
第2の机ネタから報告会へ行くまで	194
報告会から夜の定番始まる前まで	217
驚いてはいけないから終了まで	229
驚いてはいけないから終了まで	240
後半	

スタートから目的地到着まで

とある場所、そこで6人の男達がいた。

明久「なんで集められたんだろう？」

雄二「知らん」

秀吉「じゃな」

榊「なんか嫌な予感がするな…」

京谷「嫌な予感？」

鬼矢「ふあゝあ。眠い…」

集められた面々が各々に言っていると誰かが来る。

はやて「お待たせな〜」

秀吉「む？はやて殿ではないか」

明久「あれ？確か僕達狂治くんと呼ばれたんだけど？」

京谷「なんかややこしいな」

榊「確かに同じ読みだな」

鬼矢「んでなんでお前がここにいるんだ？」

何やら白衣を着たはやてに誰もが首を傾げる中で鬼矢が聞く。

はやて「それはね。私が適任やと言う事で選ばれたのと、君達には

今から財団X研修生になって貰います」

明久「え？もしかしてこの流れ…」

雄二「だな…」

鬼矢「あれか…」

榊「年末恒例の…」

そう言ったはやてのに6人はまさかとなった後にははやては言う。

はやて「ここに来るバスに乗ったら、笑ったら罰があるから気を付

けてや〜」

明久&秀吉「あ、やっぱり；」

雄二「やっぱあれか；」

榊「マジか…」

鬼矢「面倒だなあ…」

誰もがうわーとなる中でははやては置かれていた人1人入れるケ〜

スを指す。

はやて「と言う訳であそこに入って置かれてるのに着替えてな〜」

明久「はい」

榊「まさか俺たちがやるとはな」

京谷「つてことはあれもあるか…」

はやてに促されてそれぞれケースに入る。

しばらくして…

はやて「それじゃあまは明久くん」

明久「…：足が寒いな」

明久の服装：財団Xの白服だけど下が短パン

雄二「寒そうだな…：つてか俺の黒いな」

雄二の服装：財団Xの白服を黒く塗ったバージョン

榊「俺のはなんでボロボロなんだ？」

榊の服装：財団Xの白服だがダメージジーンズのようにボロボロに

なっている。

京谷「俺なんかサイズが違うぞ!」

京谷の服装：財団Xの白服だがサイズが小さくてピチピチ

鬼矢「…：青いなこれ」

鬼矢の服装：財団Xの白服を青く塗ったバージョン

雄二「後は秀吉か…」

明久「秀吉くどうしたの〜?」

その後5人は秀吉の入った所を見る。

そして出て来た秀吉は…

秀吉「…：酷いのじゃ；」

秀吉：財団Xの白服だが女性ものでボン・キュ・ボン+ガーターベ

ルト付き

明久「秀吉!」

雄二「…：ぷっ」

秀吉「…：この服とついでに絶対飲めとトリコ殿の世界のペアが

あつたのじゃ…」

榊「ぷはははははははは!」

京谷「お、恐ろしいな……ペア」

鬼矢「て言うか女体化までさせるのかよ……」

それに明久は驚き、雄二と榊は爆笑して、京谷と鬼矢は冷や汗を流す。

はやて「はいはくい。そろそろバスが来るから行こうな」

そんなメンバーへとはやては手をパンパンさせて注目を集めて促す。

言われた通り、6人は移動するとバスが来る。

はやて「それじゃあバスの乗車口に足に乗せた瞬間、始まるから注意してな」

言われた通り、明久が足を乗せるとどこからともなくプアーンと言う音が響き渡る。

その後6人とはやては乗り込むとバスが発進する。

はやて「ちなみにバスを運転するのはメドゥーサさんです」

メドゥーサ「どうも私です」

明久「メドゥーサさんも役者として出てるのね」

鬼矢「つてことは俺らの知り合いが役者になっているってことか……」

そう言うはやてにメドゥーサも前を見ながら声を出して言い、鬼矢は誰が出るのやら……と思う。

はやて「まあ、頑張つてや」

そう言つてはやてが笑つた時！

デーン！

一同「？」

なぜかアウトになった際の音声が響き……

はやて、OUT！

はやて「……はあ!？」

明久「え？」

榊「は？」

京谷「あ？」

まさかの展開にはやても含めて誰もが唾然とした後に黒服を来た

兵隊が来て：

パシーン!!

はやて「あいた!?!」

はやてのお尻を叩いて退散する。

雄二「どういうこった?」

ブラックキング「はいども!」

サンダーダランビア「良い感じに引つかかって良かったツス!」

それに疑問に思っているとバスに乗車していたメドゥーサラン

サーこそアナのフードから声がした後にアナがブラックキングとサ

ンダーダランビアのスパークドールズを出す。

はやて「どういうこっちゃ!?!」

ブラックキングSD「実は：はやてはんも笑っちゃうとアウトにな

るんやで!」

サンダーダランビアSD「ちなみに自分等がホントの案内役ツス

!」

アナ「私は彼らの運び役です」

明久「そうなの!?!」

京谷「マジか……」

告げられた言葉に誰もが驚く。

はやて「打ち合わせの際にそんなのなかった筈やで!?!」

ブラックキング「そりゃあ、はやてはんを抜いて本当の打ち合わせ

してましたからな」

サンダーダランビア「だからあの時いた面々は仕掛け人とも言え

るツス」

アナ「ご愁傷様です」

鬼矢「哀れだなはやて」

榊「ドンマイだぜ;」

叫ぶはやてにブラックキングとサンダーダランビアが種明かしし

て、アナのに鬼矢と榊はそう言う。

はやて「ああ、どうりでなんか皆が温かい目をして桂さんも強く

生きろって言ってたんか!?!」

秀吉「それはまた；」

京谷「まあ取りあえず頑張ろうな；」

思い出して言うはやてに明久達は冷や汗を掻く。

ブラツクキング「と言う訳ではやてはんも含めて再開や！」

その言葉と共にバスは再び動き出す。

明久「はやてさんも入れてか；」

はやて「うう、まさかうちも参加者だったとは…」

鬼矢「まあ今日一日宜しくな」

そうこうしてる間にバスが停車する。

そして…入って来たのに誰もが噴いた。

王蛇「やっと来たか」

ガイ「待ちくたびれたよね〜」

こあみ「とか〜」

こまみ「ち〜」

仮面ライダー王蛇&仮面ライダーガイ+こあみとこまみの登場

ただし、仮面ライダー2人組は…サイと蛇の着ぐるみを着ていた。

しかもお互いにモチーフが違うのを着てる。

デデーン！

全員、OUT！

明久「逆www」

雄二「なんでお互いに契約してる奴を入れ替えて着てるんだよw」

榊「くくくwww」

鬼矢「なにやってるんだよwww」

バシーン！

雄二の言う通り、王蛇はサイ、ガイが蛇のを着ていると言うのに笑いのツボを突き、7人は尻を叩かれる。

ガイ「そう言えばこんな事あったよ」

王蛇「ほう、どんな事だ？」

そんなメンバーを気にせずガイと王蛇は話を続ける…顔にこあみとこまみを張り付けて…

明久「そのまま話すのww」

はやて「よお出来るなw」

榊「器用だなww」

京谷「どかせよwww」

デデーン！

明久、はやて、榊、京谷、OUT！

パシーン！！

叩かれるのを見た後にガイは話を続ける。

ガイ「いやね。食レポの収録の時に貴音がさ…ボリユームたっぷりな肉を食べた後…ラーメンをチャーシュー多めの大盛りで食べたんだよ」

雄二「食レポので食べたのに自分の好きなのを食べたのかよw」

鬼矢「こんなことで笑うなよ雄二；」

明久「と言うか雄二だって似た様な感じに食べるじゃん」

デデーン！

雄二、OUT！

パシーン！！

雄二「つう！仕方ねえだろ大盛りが腹持ち良いんだからよ」

明久のツツコミに雄二はそう返す。

王蛇「ああ、そうらしいな…着ぐるみを着た状態で」

榊「ぶっww!?!」

京谷「っww!?!」

秀吉「そのまままで食べるとはw」

はやて「なんでぬがへんねんw」

王蛇の言った事と共に現れたカンペに張られた写真に写る着ぐるみに4人は笑う。

デデーン！

榊、京谷、秀吉、はやて、OUT！

パシーン！！

4人が叩かれている間にバスが停止して王蛇とガイは降りる。

ガクッ！

ガイ「おおっ!?!」

こまみ「ちー！」

その際、ガイがこけた。

鬼矢「おいおい、大丈夫か…」

それに鬼矢は呆れた後に嘖いた。

ガイ「はい、大丈夫」

顔を上げたガイの…：貴音のお面が…

はやて「何時付けたんやwww」

鬼矢「つw…：ww！」

明久「不意打ち過ぎるwww」

秀吉「まったくじゃwww」

榊&雄二&京谷「wwwwww」

デーン！

全員、OUT！

流石にそれには鬼矢も含めて爆笑してしまう。

バシーン！

叩かれた後にバスは動き出し、流石にあれは不意打ちだった…と鬼

矢は呟く。

明久「いやー…：ガイさんまさかこけたのも笑いの範囲だったのかな？；」

アナ「それはノーコメントです」

雄二「だよな」

鬼矢「流石に教えてはくれないか」

榊「まあ仕方ないか」

お尻を摩りながら呟く明久の…：アナはそう返し、流石に教えられたら企画じゃないしな…：と思っっている…

パラリラパラリラ

ブラックキングSD「は、暴走族や、暴走族が外におるぜ！」

サンダーダランビアSD「外を見るッス」

軽快な音が聞こえて来て、2匹の…：見なきや強制アウトになるなど考えて6人は外を見る。

外を見ると…：ビーストIS数取団参上と言うのにバイクに乗った

数取団がいた。

明久「暴走族じゃない!？」

榊「なんだよ数取団って!？」

京谷「聞いたことねえぞ!？」

思わずそれにツツコミ組は叫ぶ。

ビーストI S数取団初代ぶっ込み総長　メガトロン（メガロ・ボー
デヴィツヒ）

メガトロン「数取団初代ぶっ込み総長やらせてもらってるメガトロ
ンだけど、笑ってはいけないと言う事で笑わせようと頑張るんで夜露
死苦!」

『夜露死苦!』

鬼矢「んなことより数取団って随分なつかしいな!」

名乗りあげるのを聞きながら鬼矢はそう言う。

ペングー「おっしやあ!」

ビーストI S数取団副総長　南極の爆裂ペンギン　ペングー（ブレ
イク）

ペングー「ビーストI S数取団副総長をやらせて貰うペングーだけ
どよおおお!!後ろのジャーイイのでバランス取るのが大変だけど夜露
死苦!」

『夜露死苦ww』

ジャーイ「ジャーイ!!」

ビーストI S数取団乱闘生　黒毛バカツファロー　ジャーイ（ビツ
グホーン）

ジャーイ「ビイイイストI S数取団乱闘生のおおおお!ジャーイ
だけどよおおおおお!流石にリアルで走るのに乗っても大丈夫か

とライオコンボイに心配されたけどおおおおお！無視しましたああああ!!馬鹿やろおおお!!今バランス取るのに必死なんじやよおおお!!」

明久「必死なのww」

はやて「と言うか無理し過ぎやろww」

榊「wwwwww」

デデーン!

明久、はやて、榊、OUT!

ペンダーのは我慢できたがジャーイのに上記の3人は耐え切れず笑ってしまい、バスが止まるとビーストIS数取団も止まる。

バシーン!!

明久「普通に笑っちゃうよ」

京谷「だよな」

鬼矢「つかチャンネル違うだろ」

そう漏らす明久に京谷も頷くと鬼矢がそう言う。

メガトロン「そこは気にしちやいかんでしょ!お仕置き!」

そう言つてメガトロンは何かを取り出してぽちつと押す。

はははははwwww!

すると京谷の声が流れる。

デデーン!

京谷、OUT!

明久&秀吉&はやて「ええ!?!」

京谷「なんで!?!」

流れるに鬼矢が強制アウトになると思っていたらなぜか京谷だったのに本人も含めて驚く。

パシーン!!

メガトロン「あ、いけねえ、間違えたべえ」

ペンダー「おいおい、間違えちゃダメだろ総長」

京谷が叩かれている間にメガトロンはこっちこっちだこっち…と別を取り出してポチつと押す。

ふふつww

はははははははは w w w w

デデーン!

鬼矢、榊、OUT!

榊「今度は俺達の!?!」

鬼矢「おい、どういうことだ!」

鬼矢はなんとなく分かるが榊まで交じってるのになんで?と思っ
たら:

ビースト数取団乱闘生 ちっこいマスコット兎 ラツちゃん(ラウ
ラ・ボーデヴィツヒ)

ラツちゃん「数取団乱闘生のラツちゃんだけとおお!...母上に渡
されたのを押ししたらなんか鳴ったのだから?(・ω・?)」

ペンギー「あなたの仕業か w w」

どうやら総長の娘であるラツちゃんが興味本位で押した様だ。

パシーン!

雄二「押すなよ」

榊「つかそれガイアメモリ!?!」

思わず雄二がツツコミを入れる中で榊は叩かれたお尻を抑えなが
らメガトロンたちが何を押ししたかに気づいて叫ぶ。

ブラックキング「あれは財団X特製ボイスメモリ、押すと記憶され
た声が再生されるんやで」

はやて「ええ!?!」

鬼矢「なんだと!?!」

ブラックキングの説明に誰もがんなのあり!?!と思っただがバスは走
行を再開する。

ビーストIS数取団 アタリメル部長 イカ(スクーバ)

イカ「かあああず取団乱闘生イカですけどおお!すいませんがあ:
お宅の奥さん、僕のゲソをおつまみにしてるでしょ?」

雄二「外見のまんまかよww」

鬼矢「くつwww！」

デデーン！

雄二、鬼矢、OUT！

次のイカの自己紹介には雄二の他に我慢強い鬼矢も思わず吹いてしまう。

パシーン！

イカ「してるでしょ？イカ夜露死苦！」

ビーストIS数取団『夜露死苦！』

ビーストIS数取団乱闘生 地味な兎兄さん ラビット（スタンピー）

ラビット「数取団！乱闘生ラビット！地味枠の僕に一言、アカンカン、今回笑わせて地味じゃない事を広めないと！」

はやて「自分で地味枠ってww」

秀吉「普通に言わんぞw」

榊「つか地味なのかよw」

デデーン！

はやて、秀吉、榊、OUT！

続いているラビットのにははやてと秀吉に榊が笑う。

パシーン！

ラビット「外野で笑われてるけど夜露死苦！」

ビーストIS数取団『夜露死苦！』

ビースト数取団乱闘生 ツツコミ侍 モツピー（篠ノ之箒）

モツピー「数取団乱闘生のモツピーだけとおお！…総長、流石に間違えたのはいけないのとラツちゃん。もうちよい考えて押せ」

明久「あ、普通だ」

雄二「普通だな」

鬼矢「普通の奴だな」

京谷「普通だな」

次のモツピーのに誰もがほっこりした。

モツピー「なんかほっこりされたみたいで夜露死苦！」

『夜露死苦！』

ビーストIS数取団 π乙モンスター リンリン（鳳鈴音）

リンリン「数取団乱闘生のリンリンだけとお、いつもの場所でもないけどモツピーの胸を揉むぞ」

モツピー「おい」

『いつも通りじゃんww』

はやて「次の子が普通やないww」

鬼矢「ん？そうか？うちにも居るぞああいうの」

デデーン！

はやて、OUT！

明久「確かにこつちも知り合いに…ね…」

秀吉「ムツツリーニおったら鼻血噴いてたじやろうな」

榊「確かにそうだな；」

京谷「にしてもキャラ紹介長くねえか？あまり長いと着いちやうぜ？」

鬼矢のに頷く明久と秀吉の後に京谷がそう言う。

リンリン「長い仕方ないじゃない。数取団だから。夜露死苦」

ビーストIS数取団『夜露死苦ww』

その言葉の後に停車駅に止まる。

ブラックキング「はい、ここでお知らせや。遅刻していた8人目の参加者が今合流したで」

明久「8人目？」

雄二「まだいたのか？」

榊「おいおい、どんどん増えるな」

京谷「一体ラストは何人になるんだ？」

ブラックキングSDの報告に7人はがやがやしてると…
ティーチ「どーも、ティーチでございますw」

デーン！

ティーチ、OUT！

入って来て開口一番に笑ったティーチに音声が宣言する。

明久「いきなりw」

雄二「おまw」

はやて「バカやろw」

榊「ぶつwww」

京谷「卑怯だろこれwww」

まさかいきなり笑うと言うのに秀吉と鬼矢を除いてつられて笑う。

デーン！

明久、雄二、はやて、榊、京谷、OUT！

秀吉「まさか参加者がいきなり笑って、笑いを取るとは…」

鬼矢「新しいスタンスだな」

パシーン！

ティーチ「いや〜こういうのに参加出来る事に拙者は嬉しい限りでございますよ」

叩かれるのを見ながらそう言う秀吉と鬼矢にティーチはそう言う。

サンダーダランビア「と言う訳で8番目の参加者はエドワード」

ティーチさんツス」

アナ「ちなみに、最後まで行く参加者はこれで全員ですのぞ」

そう言うサンダーダランビアとアナのにさよか…と鬼矢は呟くと
バスが動き出し、ビーストIS数取団も発射する。

メガトロン「と言う訳で初めての走りになるけど今回もぶっこんで
行くんで夜露死苦!!」

ビーストIS数取団『夜露死苦!』

メガトロン「笑いも必要だけど、間違えたら罰があるのは忘れない
様に夜露死苦!」

ビーストIS数取団『夜露死苦!』

明久「あ、始まるみたい」

雄二「と言うか番組と言うのだから出来る事だな」

ブラックキング「ちなみに順番はメガ様&ラッチャン↓ペンギー&ジャーイ↓ラビット&イカ↓モツピー&リンリンと言う感じになるで」

榊「コンビでやるのか」

鬼矢「そこらへんは違うんだな」

説明を聞いてほうと感心する間にメガトロンがせーのと合図して始まる。

『ブン！ブン！ブブブン！』

ラッチャン「エビチャーハン！」

『ブン！ブン！』

ペンギー「1皿」↓GOOD

『ブン！ブン！』

ジャーイ「FX」↑溶かした顔

明久「ぶふっww」

雄二「その顔で反則だろw」

秀吉「くくくw」

はやて「あかんわw」

ティーチ「これは笑うw」

鬼矢「くっww」

榊「マジやべえww」

京谷「www」

数取団現象1 いきなりのFXのぶっこみで参加者全員の笑いを見事取ったジャーイ

ラビット「2ロット！」

『ブン！ブン』

イカ「FX」↑溶かした顔

『ブン！ブン！』

モツピー「3ロット」

『ブン！ブン』

リンリン「恋のホイホイチャーハン！」

『ブン！ブン』

メガトロン「4曲」↑GOOD

『ブン！ブン！』

ラッちゃん「エビチャーハン！」

『ブン！ブン！』

ペングー「5皿！」

『ブン！ブン！』

ジャーイ「恋のホイホイーン！」↑×

『アウト!!』

ペングー「おいコラバカ和牛！」

ジャーイ「ジャアアアアアアイ！」

パラリラパラリラ〜！

ペングー&ジャーイ（特別試合1試合目）

笑いを取ったのは良いが噛んじやったジャーイにペングーも巻き込まれ、バスと共に止まると土俵の様なのが現れてさらに相撲ロボットが現れる。

明久「なんか出た!？」

榊「相撲ロボット!？」

…
それに誰もが驚いている間にジャーイとペングーは連れて行かれ

ペングー「うおおおおお!?」

ジャーイ「ジャーイー!!」

見事に投げ飛ばされる。

デデーン!

全員、OUT!

秀吉「FXので笑ったのじゃな;」

鬼矢「あれは仕方ない……」

その後アウトの音声が鳴り響いて、あれはホントにねと誰もが頷く。

パシーン!!

夜露死苦二

ペングー「バカ和牛がやらかしてくれたけど、気合入れていくんで夜露死苦！」

『夜露死苦！』

ペングー「せーの！」

『ブン！ブン！ブブン!!』

ジャーイ「アチョー！」

『ブン！ブン！』

ラビット「1発！」

『ブン！ブン！』

イカ「アチョー……!!」

『ブン！ブン！』

モツピー「2発！」

『ブン！ブン』

リンリン「課長！」

『ブン！ブン！』

メガトロン「3発」↑？

『ブンブン！ブブン！』

ペングー「総長、さつきリンリンが言ったの…普通に課長だから3人じゃね？」

イカ「確かにペングーの言う通り人ですから3人が正解だな」

数取団現象2 かちよー× 課長○

メガトロン「は!?!しまった!?!」変顔

明久「なぜ変顔w」

はやて「唐突に入れよったw」

ティーチ「急な笑い取りはNGでござるぞww」

榊「だよなww」

パラリラパラリラ〜!

メガトロン&ラツちゃん（特別試合1試合目）

間違えた事でショックを受けたと見せかけて笑いを取ったメガトロンと巻き込まれたラツちゃんに…今度は禿げの軍団ロボットが現れた。

明久「あれ、色とり忍者のツボ押し軍団だ!」

鬼矢「あれ?色とり忍者は綱引きじゃなかったか?」

雄二「ああ、最初はツボ押しだよ。途中から綱引きになったんだよ」
「驚く明久の隣で首を傾げてそう言う鬼矢に雄二が教える。」

メガトロン「あいたたたたたた!」

ラッチちゃん「(ーωー)」

数取団現象3 ラッチちゃんは普通に気持ちいいマツサージ

雄二「おい、鼻肩されてるぞw」

鬼矢「確かにそうだか……それで簡単に笑うなよ雄二」

つい笑う雄二に鬼矢は呆れる。

デデーン!

明久、はやて、ティーチ、榊、雄二、OUT!

パシーン!!

夜露死苦三

メガトロン「時間的にこれが最後になると思うんで長く行くんで夜

露死苦!」

『夜露死苦!』

メガトロン「最後間違えたら特別篇だけにゴリさんのありがたい一
発が来るんで夜露死苦!」

『夜露死苦!』

明久「ゴリさんってメンバー的にビーストコンボイ?」

秀吉「じゃろうな」

鬼矢「さて次は誰がミスるんだろうな」

出て来た名前にそう言う明久に秀吉は同意する隣で鬼矢は興味
深そうに見る。

メガトロン「せーの!」

『ブン!ブン!ブブブン』

ラッチちゃん「田中!」

『ブン!ブン』

ペンギー「1タイキック!」

『ブン!ブン!』

ジャーイ「田中!!」

『ブン！ブン！』

ラビット「2タイキック！」

『ブン！ブン』

明久「あれれれれ!?なんか続いてる!？」

雄二「おい、もしかして笑ってはいけないだから特別ルールな感じか!？」

ティーチ「笑ってはいけないだけに田中はタイキック多いからでござるか!？」

榊「田中!!タイキックなのか!？」

数取団現象3 田中!!タイキック

まさかの誰かが驚く中でまだ続く。

イカ「田中!」

『ブン！ブン!』

モツピー「3タイキック!」

『ブン！ブン!』

リンリン『田中!』

『ブン！ブン』

メガトロン「4タイキック!」

『ブン！ブン!』

ラツちゃん「田中!」

数取団現象4 このまま田中押しか？

『ブン！ブン』

ペンギー「5タイキック!」

『ブン！ブン!』

ジャーイ「田中ああああああああああ!!」

『ブン！ブン!』

はやて「伸ばしたw」

ティーチ「なぜ無駄に伸ばしたしww」

榊「ぶっwww」

数取団現象5 笑いを取る為にわざと伸ばすジャーイ

ラビット「6タイキツクw」

『ブンブン！』

イカ「田中く」渋い声

明久「くふw」

秀吉「確実に笑いを取りに来とるぞw」

榎「ぶっwwww」

数取団現象6 同じく笑いを取りに行くイカ

雄二と京谷、鬼矢は耐えている。

モツピー「7タイキツクw」

『ブン！ブン』

リンリン「田中！」

『ブン！ブン』

メガトロン「8タイキツク！」

『ブン！ブン』

ラツちゃん「田中く」

『ブン！ブン！』

ペンギー「9タイキツク！」

『ブン！ブン』

ジャーイ「西原京谷！」

『ブン！ブン！』

ラビット「10タイキツク！」↑×

京谷「おい待て、なんで俺の名前が出るんだよ!？」

まさかの自分の名前が出た事に京谷はツツコミを入れる。

イカ「ラビット、流石に連続で続いたとはいえ、普通に10人だぞ」

ラビット「や、やっちゃった！」

デデーン！

明久、秀吉、はやて、ティーチ、榎、OUT！

ティーチ「む？何やらあちらのが始まる前に鳴りましたな」

宣言が流れた事にティーチが言い、確かに…とさつきまでのを見て

誰もが思っていると…

デデーン！

京谷、タイキツク！

京谷「……は？」

明久「あれ前振り!？」

雄二「もしかしたら俺らの可能性もあったと言う事か；」

鬼矢「あぶねえなおい」

それに京谷は呆気にとられ、明久も驚く隣で雄二と鬼矢はそう言う。
う。

パシーン！

黒服のが現れて、笑った5人を叩いた後に：

インペラー「じつとしとけよ：」

仮面ライダーインペラーが登場して、京谷を外に連れ出す。

京谷「おい待てやめ……」

インペラー「ほいさ!!」

待ったを聞かずにインペラーはタイキツクを叩き込む。

京谷は目を見開いて、タイキツクが炸裂したお尻を抑える。

明久「あれは……きついね；」

雄二「だな」

鬼矢「つか変身してやるなよ；」

ブラツクキング「いや、本人曰く、あれがデフォだそうやで」

アナ「変身しているのではなくライダーとして存在しているとか」

悶える京谷を見て言う明久と雄二の後に言う鬼矢へブラツクキングとアナはそう言う。

あふう「なの！」

そこにあふうが現れ：インペラーの男の急所に突撃した。

インペラー「ぼう!？」

明久&雄二「うわあ……」

はやて「いきなりwww」

ティーチ「拙者も経験した事あるのでこれはきついww」

鬼矢「男性にとっての急所だろアレ」

デデーン！

はやて、ティーチ、OUT！

崩れ落ちるインペラーを見て明久と雄二、秀吉に榊は顔を青ざめて抑え、はやてとティーチが笑う隣で鬼矢はそう言う。

パシーン!!

パラリラパラリラ〜!

2人が叩かれた後に音楽が鳴り響く。

明久「そう言えば数取団の奴」

秀吉「まだやってなかったから今やるみたいじゃな」

鬼矢「そうみたいだな」

ラビット&イカ（特別試合1試合目）

と言う訳でラビットとイカの前に奴が現れた!

ビーストコンボイ「ガツデム!!」

数取団現象7 サンガラスを付けたビーストモードのビーストコンボイ登場

明久「まさかの蝶野さん枠!」

はやて「あ、あかんわww」

ティーチ「凄くシユールww」

鬼矢「ぶつwwww」

現れたビーストコンボイの恰好に鬼矢も笑ってしまう。

ラビット「か、軽めでお願いツブ!」

言い切る前にラビットはビンタが炸裂する。

雄二「思いつきり行きやがったw」

秀吉「これは痛いw」

鬼矢「つかマジビンタだろあれ」

倒れるラビットの後にはイカは直立する。

イカ「覚悟は決めています!」

ビーストコンボイ「良い根性だ行くぞ!」

そう言った後にビーストコンボイは気合を入れ:

ビーストコンボイ「どりやあ!」

イカ「ノシイカ!」

明久「最後のww」

雄二「のされたからノシイカってかw」

榊「ぶっww」

デデーン！

全員、OUT！

最後の最後に笑いを取ったイカのについて全員アウトになった。

パシーン！！

ビーストコンボイ「あ、お疲れ様でした」

ビーストIS数取団『お疲れ様でした！』

数取団現象8 礼儀正しいゴリラさん

礼儀良く挨拶するビーストコンボイにビーストIS数取団も挨拶して、それぞれ帰る：徒歩で

明久「徒歩なのw」

ティーチ「バイクの意味はww」

鬼矢「それなら大丈夫のようだぞ」

それに思わず明久とティーチは笑ってしまう。

はやて「え？」

スダダダダダダダッ！

鉄人「キサマラア！不法投棄をするなあ！」

そこに警官姿で駆け足で来る鉄人が現れる。

雄二「鉄人ww」

秀吉「まさかの警官で登場とは」

メガトロン「あ、やべ、駐車する場所間違えた！皆の者！逃げるぞ

！」

リンリン「逃げるのね！」

そのまますたこらさつさと逃げる。

デデーン！

明久、ティーチ、雄二、OUT！

パシーン！

はやて「駐車する場所間違えた：ってそう言えば何時の間にか入口の様な場所に…」

ブラックキング「そう！此処こそ、舞台となる財団X支部やで！」
見届けてから気づくはやてのにブラックキングが告げる。

ついに目的の場所へ辿り着いた一同。
そこでも笑いの刺客が待ち受ける！

到着からの机ネタからお昼決定戦まで

前回の最後に目的地に到着した雄二はしつかし…と目の前の建物を見上げる。

雄二「でっけえな…」

鬼矢「此処が支部なのか……」

その大きさに誰もが声を漏らす。

アナ「階数は3階までであり、建物の広さは良くある小学校か中学校位あると思うてください。こことは別にバス移動になります。が野球場位の広いグラウンドもあります」

明久「そうなんだ」

秀吉「グラウンドと言う事は…」

鬼矢「アレもあるってことか。面倒だな…」

ブラックキング「はいそこ、メタ読みなしやで〜とにかく入るで〜」
アナの説明を聞いて、うげーとなる秀吉と鬼矢へブラックキングは注意した後に促して一同は中に入る。

サンダーダランビア「そうそう、入り口前に所長の絵があるから見るッス」

そう言われてメンバーは絵を見て…笑った。

つ、博士を恰好をし、ジユウシマツの頭を被った松野十四松

明久「読み繋がりwww」

はやて「あかんわこれ普通に笑うわ」

ティーチ「と言うか盛り過ぎwww」

秀吉&雄二「くふw」

榊&鬼矢&京谷「ぶっww！」

デーン！

全員、OUT！

パシーン！

不意打ちとも言える絵にこれは笑うよな…と実際に見て笑ったアナとブラックキングは叩かれるのを見ながら思った。

明久「凄い組み合わせだった…」

ティーチ「確かにあれは笑いを取るにはめっちゃ効果抜群な組み合わせでござるからな」

鬼矢「確かにな……」

榊「とりあえず中に入ろうぜ。他のが来る前によ」

確かにと誰もが絵をもう一度見ない様にアナの後ろを続く。

しばらくして何事もなく、とある部屋の前まで着く。

アナ「はい、この部屋でしばらく休憩してください」

そう言つてアナが扉を開けて、8人の中に入る様に促す。

8人が入ると良く本家で見える机が中央に配置されていた。

明久「入ってから何もなかったね」

雄二「そうだな」

榊「油断はするなよ。こつからは引き出しネタだぞ」

京谷「一体何が入っているんだ…」

それぞれの名前が書かれた机に着席する中で榊と京谷のに誰もが自分のを見る。

雄二「んじやあ…明久。お前から時計回りで」

明久「え？僕？」

雄二に言われて明久は自分を指す。

ちなみに時計回りだと明久↓榊↓雄二↓京谷↓秀吉↓鬼矢↓はやて↓ティーチとなる。

明久「それじゃあ行くよ」

ガラッ！

明久「…封筒？」

1段目の中身：封筒3枚

ティーチ「中に笑いの絵が入つてると見ましたな」

鬼矢「いやもしかしたら別のかもしれねえぞ」

封筒を見て言うティーチに鬼矢がそう指摘する。

明久「えっと二段目…ボタン？」

2段目の中身：スーパーキノコなボタン

秀吉「押したら何が起こるのじやろうか…」

榊「嫌な予感がするな……」

誰もがボタンにぐくりとなる中で明久は3段目のを開ける。

明久「おう……」

中身を見た明久は机に突っ伏す。

雄二「何があつた明久!？」

京谷「大丈夫か!？」

その様子に何が入ってるんだと7人が思うと明久は中身を出す。

3段目：胸を強調するポーズを取ってるスクール水着を着た吉井玲のフィギュア

明久「身内として：笑うより恥ずかしさが来ました（w|w）」

ティーチ「oh……」

はやて「玲さん：凄いアピールやで」

鬼矢「つかこれ誰が作ったんだ？」

顔を手で覆う明久にティーチはと言えば良いか分からず、はやて

は感嘆する中で鬼矢が精巧なのに首を傾げる。

雄二「んじゃあ、次は榊だな」

榊「何が出てくるんだ……」

ガラッ!

榊「ん？これはガイアメモリ？」

榊の1段目：ガイアメモリ

はやて「ま、まさかさつき出て来たボイスメモリやない？」

ティーチ「つまり榊氏の笑いの声か！」

カチッ

がはははははははははは!

デデーン!雄二、アウト!

雄二「おい待て!？」

試しに押してみたら雄二の笑い声が響き渡る。
パシーン!!

明久「まさか雄二の笑い声だったなんて；」

秀吉「うむ」

雄二「次の引き出し開けろよ」

カチッ

ガハハハハハハハハハ!

デデーン!雄二、アウト!

雄二「榊イイイイイイイイ!」

そう言った雄二に榊は引き出しを開ける前にもう1回ガイアメモ
リを押して雄二の笑い声を出す。

ティーチ「もう1回ww」

はやて「連続でしちゃうかww」

榊「くくくwこりやいな」

デデーン!

ティーチ、はやて、榊、アウト!

それに思わずティーチとはやては笑ってしまい、榊も笑う。
パシーン!!

秀吉「それで2段目は何が入っておるんじや?」

榊「えつと……」

促され、榊は2段目を開けて中を見る。

榊「……なんだこりや?」

榊の2段目:何の変哲もないガム?(いたずらガム)

明久「なんでガムが?」

雄二「1枚出てるな」

榊「食べるか雄二」

そうやって榊はガムを差し出す。

雄二「お、いいのか。んじやあ…」

そうやって雄二は手を伸ばして掴むと…

バシン!!

雄二「っう!」

はやて「ああ、いたずらガムやったんかw」

ティーチ「見事に引っかけたでござるなw」

榊「くくつww」

デデーン!

はやて、ティーチ、榊、OUT!

雄二「くそ、普通に抜いてた…」
パシーン!

挟まれた指を振りながらそう呟く雄二の後に榊は3段目の扉を開ける。

榊の三段目：現人神なみいこのフィギュア

榊「お、みいこ姉のフィギュアか」

明久「凄い違和感ない」

ティーチ「巫女服もまた似合っておりますな」

はやて「ほんまやな」

それを見て平然としてる榊の後に明久とティーチにはやても感嘆する。

鬼矢「次は雄二か」

雄二「んじゃあ開けるぞ」

それだけなので促す鬼矢に雄二は1段目のを開ける。

雄二の1段目：DVD

雄二「DVDだな」

ティーチ「まさか…」

鬼矢「取り敢えず再生してみるか」

それを見てそう言う鬼矢に全部開けてからのが良いだろうと雄二が言う。

雄二「2段目……ぶふw」

デデーン!

雄二、OUT!

2段目を開けて中身を見た雄二は笑う。

何を見たんだと誰もが思うと雄二は中身を見せる。

雄二の2段目：ハイテンションなりヨグだ子のぬいぐるみ

ティーチ「何これw」

はやて「凄い顔やなw」

榊「クククツw w w w」

カチッ

がははははははw w w w w w w

デデーン!

ティーチ、はやて、榊、雄二、アウト!

雄二「榊てめえええええ!!」

ティーチとはやて、榊は笑うが榊はガイアメモリで雄二もアウトに誘う。

パシーン!

明久「僕達のなくて良かったですね」

鬼矢「そうだな」

それを見てそう言う明久に鬼矢は同意する。

雄二「三段目は…なしか…んじやあ京谷だな」

京谷「俺の番か…おりや!」

ガラツ!

謎の箱(時限爆弾)

現れたのになんだと思つたら時間が表記されていて、さらにピツピツと言う音と共に減っていく。

ティーチ「まさか時限爆弾!」

はやて「うえ!」

京谷「何イ!」

パカツ!

その後の一部が開いてハサミと二本のコードが現れる。

秀吉「切れみたいじゃな」

京谷「マジかよ!」

ピツ…ピツ…ピツ…ピツ…

その間もタイマーは進んでおり、京谷以外は離れて見守っている。

京谷「ど、どっちを切れば良いんだ…」

ピツ…ピツ…ピツ…ピツ…

赤と青の配線を前に迷う京谷を知らずにタイマーは進む。

明久「京谷、君の好きな色に近いのを切るの?」

雄二「いや流石にそれは無理じゃねえか」

鬼矢「確かに好きな色がもしかしたらアウトかもしれないな」

ティーチ「そう思わせようとしたのが見た目は子供、頭脳は大人の

名探偵の劇場版1作目でありえましたしな」

そう提案する明久のに雄二と鬼矢がそう言い、ティーチも同意する。

榊「おい、あと20秒しかないぞ」

京谷「ええい！この色だ！」

ブチン！

榊に急かされて京谷は赤と青のウチ、赤色を切る。

秀吉「どうなったんじゃ？」

恐る恐る秀吉が言った時：

ピッー！

ズドオオオオオン！

凄まじい音と共に：：CO₂ガスが白い煙と共に噴射して京谷を真っ白にする。

はやて&雄二「ぶっw」

ティーチ「真っ白けwww」

明久「これはw」

榊「ぶぶっww」

デデーン！

明久、雄二、はやて、榊、ティーチ、OUT！

秀吉「大丈夫か京谷；」

鬼矢「真っ白になったな」

京谷「げほっ：大丈夫じゃねえよ」

声をかける秀吉と鬼矢に京谷はそう返す。

パシーン!!

少しして全身にかぶった白いのを落とした後に京谷は三段目のを開ける。

京谷「ぶっ!?!」

すると三段目を見た京谷がいきなり噴いた。

明久「いきなりどうしたの!?!」

ティーチ「何か噴き出させる物が!?!」

誰もがいきなりの驚いた後に京谷はそれを出す。

京谷の三段目：レースクイーンな咲のフィギュア

明久「あ、うん：なんか気持ち分かる；」

ティーチ「と言うか明久殿と似たネタｗｗｗ」

はやて「似たネタかいなw」

榊「確かにｗｗｗｗ」

デーン！

ティーチ、はやて、榊、OUT！

それに明久は同情し、上記3人は笑う。

秀吉「次はわしじゃな」

鬼矢「秀吉のは何だろうな」

緊張しながら秀吉は1段目のを開ける。

秀吉「1段目は：なしじゃな：」

秀吉の1段目：なし

次のを：と2段目を開ける。

秀吉「ん：服のボタン？」

2段目：服のボタン

明久「服のw」

雄二「なんでだよw」

はやて「不意打ち過ぎるわw」

ティーチ「ボタン違いですなｗｗ」

榊「違いすぎるだろｗｗ」

それに上記5人は笑う。

デーン！

明久、雄二、はやて、ティーチ、榊、OUT！

パシーン！

秀吉「不意打ちのじゃな：」

鬼矢「そうだな：。三段目はなんだ？」

そう言う秀吉に同意しながら鬼矢は促す。

早速三段目を開ける秀吉は：顔を赤くする。

秀吉「これは：はずい」

明久「どうしたの秀吉!？」

はやて「何が入っておったん？」

鬼矢「もしかして自分のフィギュアか？」

まさかの反応に誰もが見ると秀吉はおずおずと出す。

秀吉の三段目：秀吉をお姫様抱っこしている清水美春のフィギュア
明久「あ、なんか微笑ましい」

ティーチ「あ、これ笑いかじゃなくて微笑ましくなる奴ですわ」
はやて「確かに」

雄二「あー…」

鬼矢「彼女にお姫様抱っこされる彼氏か……新しいな」
それに思わず誰もがほっこりする。

デデーン！

秀吉以外、OUT！

秀吉「普通にはずいのじゃ…と、と言うか鬼矢殿、わ、わしと清水
はまだ／＼／＼」

明久「？」

鬼矢「あ？お前ら、まだシてもないのかよ」

首を傾げる明久はスルーして鬼矢はそう言うと言いつつ秀吉は顔をさらに
真っ赤にする。

ティーチ「ドストレートで聞いたでござるぞこの人…」

はやて「すっごいな…」

榊「そう言う本人はどうなんだろうな」

京谷「ああ、確か……」

鬼矢「そこ二人、短い命。今すぐ終わらせたいか？」

それに驚くティーチとはやての後の榊と京谷へと黒い笑みを浮か
ばせて言う鬼矢に終わりたくないでござると京谷と榊は返す。

デデーン！

鬼矢、OUT！

ティーチ「黒い笑みも入るのね!？」

バシーン！

秀吉「そ、それで次は鬼矢殿の番じゃな」

落ち着いた後にまだ顔が赤いが秀吉が促す。

鬼矢「俺か……よつと」
ガラッ

早速1段目を開けた鬼矢は？ん？となる。
誰もが何が入っているのか気になる。

明久「何が入ってました？」

鬼矢「……箱だ」

鬼矢の1段目：謎の箱

誰もが気になる中で鬼矢は怪しそうだな……と警戒する。

秀吉「何が入つとるんじやろうな？」

ティーチ「饅頭とか？」

鬼矢「開けてみるか」

パカッ

そう言つて鬼矢はぱかつと開けた瞬間：

ボフィン!!

煙が噴き出し、鬼矢は包まれる。

明久「煙!?!」

ティーチ「どうやって詰めたのでござろうな？」

はやて「鬼矢さん大丈夫かいな？」

煙に包まれた鬼矢にはやてが恐る恐る声をかける。

鬼矢「Orz」

煙が晴れると……女性となつて落ち込んでいる鬼矢の姿が……

明久&ティーチ「ええええええええ!!」

はやて「増えたww」

榊「マジか……」

デデーン!

はやて、OUT!

それに男性陣は驚き、はやてが笑う中でまさか女体化するとは……と
鬼矢は落ち込む。

雄二「あー、落ち込んでいる所悪いがそろそろ二段目のを開けてく
れないか? ; ;」

鬼矢「あ、ああ……」

そう言われて鬼矢は二段目を開けて突っ伏す。

明久と同じ反応にティーチは近づいてみる。

鬼矢の二段目：財団X女性服

ティーチ「1段目と連携してる…だと？」

明久「これ、強制的に着替えさせる気だったんだね；」

秀吉「鬼矢殿…」

鬼矢「…：アイツら後でブツ飛ばす…：」

冷や汗を掻く明久の後に同情する秀吉の隣で鬼矢はそう言う。

ブラックキングSD「ちなみに言っておくとワイらの提案やないかな」

サンダーダランピアSD「鬼矢さんの所でアンケートした結果ツス」

アナ「だから八つ当たりはなしですよ」

そこにひよこつとアナ達が現れてそう言ってからまた消える。

出て来た言葉に鬼矢は顔の前で腕を組んではあーと息を吐く。

明久「マジドンマイです；」

ティーチ「うーん、マジ笑う所だけどわらえねえですな」

はやて「んで服はどうするん？」

鬼矢「…：着替えてくる」

ろう明久とティーチの後のはやてのにまたはあと息を吐いて鬼矢は着替えを持って出て行く。

しばらくして…

着替えて帰って来た鬼矢だが…服が京谷と同じ様にピチピチです
タイルが強調されていた。

秀吉「きつそうじゃな鬼矢殿；」

はやて「凄い主張してるww」

鬼矢「…：これ用意したやつ、ぶっ飛ばす」

デーン！

はやて、OUT！

自分が着てるのを用意した人を後でぶん殴るを心に決め、鬼矢は3
段目を開ける。

女鬼矢ファイギュア

鬼矢「おいこれ作ったのは誰だあ！」

出て来たのに鬼矢は叫ぶ。

はやて「うわあ…明久くんや、西原くん、秀吉くんの時と同じように上手く出来てるな」

ティーチ「匠の腕でござるな」

秀吉「本当に誰が作ったんじゃこれ？」

誰もがうわーとなる中で次ははやてなのでははやては一段目を開ける。

はやて「……………なーにこれ？」

京谷「ん？」

誰もがはやての反応に疑問を思うとははやては取り出す。

はやての1段目：たぬうの耳

明久&秀吉「狸w」

雄二&ティーチ「くくつw」

榊&京谷「ぶつw w w」

それに思わず鬼矢とはやてを除いた面々は笑う。

デデーン！

明久、雄二、秀吉、ティーチ、榊、京谷、OUT！

パシーン！

はやて「おう、ここで出て来るんか…」

鬼矢「お前のネタだから仕方ねえな」

たぬう耳を持ち上げながら呟いたはやては鬼矢のに何時なったんやろうなどと返す。

はやて「んで…付けなきやあかんか」

ふうと息を吐いてたぬう耳を付けてから2段目を開ける。

はやての2段目：たぬう尻尾

はやて「うちも連続かい！」

明久「連続で来ちやうのw」

ティーチ「耳もあるから尻尾もと言う事ですなw」

雄二&秀吉「くくw」

鬼矢「ラストはたぬうはやてのフィギュアじゃねえのかwww」
デーン！

明久、ティーチ、雄二、秀吉、鬼矢、OUT！
バン！と机を叩くはやてに榊と京谷を除いて笑う。

パシーン！

はやて「ええい！とにかく三段目開けるで！」

そう言っちはやては勢いよく開ける。

はやての三段目：バニースーツ着てるけどバニーならずたぬうはや
て

はやて「少し変化球入れるんかい！」

はやてを除いた一同「ぶふwww」

デーン！

はやて以外、OUT！

少し違うがおおむね当たっていたのにはやて以外笑う。

ティーチ「さて、いよいよ拙者の出番ですな」

鬼矢「ティーチはどんなのか予想つかねえな」

確かにと鬼矢の言葉に誰もが思っているとティーチは1段目を上
げる。

ティーチ「あ、WiiUのスーパーマリオメーカーですな」

ティーチの1段目：スーパーマリオメーカー

明久「ああ、あったね」

鬼矢「でもなんでこれが？」

雄二「本家の方でもこれを使ったネタがあったんだよ」

なぜあるかを察する明久の隣で首を傾げる鬼矢に雄二が教える。

ティーチ「そうなるよ：絶対にあのネタが入ったステージが入って
そうでござるな」

はやて「へえくなんか笑いのネタが？」

秀吉「うむ」

榊「ゲーム機はあるのか？」

明久「モニターの下にあるね」

まあ、これは後でとティーチは机の上に置いて2段目のを開け

る。

ティーチの二段目：ティーチの顔での福笑い

ティーチ「ああと、拙者の顔のつてもう笑わせるの確定ですな！」

明久「確かに」

雄二「だな」

鬼矢「しかもこれリヨ絵のだな」

これは間違いなく笑うなど思いながらティーチは三段目を開ける。

ティーチ「あ、ないでござるな」

雄二「んじゃあこれで打ち止めか、まずは明久の封筒3つを見るか」

鬼矢「そうだな」

打ち止めとなったのでまず明久の引き出しに入っていた封筒を見る。
る。

明久「あ、良く見ると封筒の下部分に作画、早乙女ハルナって書いてる；」

秀吉「ぬう、これは絶対に笑いそうなのを描いてそうじゃな；」

榊「そうだな；」

と言う訳で1枚目のを開けて、中身を出す。

明久「んじゃあ行くよ：せーの！」

そう言つて明久は1枚目を抜き出す。

1枚目：チョーリアルでアツチョンブリケをやっているピノコ

ティーチ「リアルwww」

はやて「ぶははははははwww」

明久「これは卑怯すぎるw」

雄二「だなw」

秀吉「と言うかどんだけリアルに描いてるのじゃw」

榊「ぶははははははははwww」

京谷「くつwwwこれは無理だろwww」

鬼矢「ぶつww」

デーン！

全員、OUT!

物凄くリアルに描かれたのに誰もが嘔いてしまう。

パシーン!

明久「いやー…しよっぱなから…凄い絵だった」

ティーチ「あれは誰もが笑うの間違いなしですぞ」

鬼矢「次の封筒はなんだ？」

言われて明久は取り出そうとして、あとなる。

明久「2枚入ってる」

雄二「なんだと？」

鬼矢「二枚もか？」

警戒しながら明久は両方ともひっくり返す。

2枚目の封筒1枚目：ルイージ!!と咽び泣く漫☆画太郎風のマリオの絵

2枚目の封筒2枚目：ルイージ 生きとったんかワレと鼻水を垂らしながら喜ぶ漫☆画太郎風のマリオの絵

明久「本家の空港で出たのかww」

ティーチ「これもまたww」

はやて「あかんわww」

雄二「これもまた反則だろうw」

秀吉「と言うか早乙女はトレースが上手過ぎじゃww」

榊「ぶはははははwwww!」

京谷「ホントやべえw」

鬼矢「……………ダメだ、くくつw」

デーン!

全員、OUT!

「またも凄い絵で全員を笑わせる。

パシーン!

明久「最後の1枚…」

京谷「またイラストか？」

最期の封筒のを1枚とる。

明久「あれ?最後の絵じゃないや」

そう言つて明久は中身を取り出して見せる。

たたたたたたはたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたつたたたたたたたたた、たたたたたたたたたたたたたたたたたた
たつたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた

秀吉「文字が並んでおるのう。それに狸」

鬼矢「つて事はえつと……はやてつ、キック」

はやて「はあ？なんやそれ」

デデーン！

はやて、タイキック!!

ティーチ「ああ：タイも入れられなかつたらキックと……」

はやて「なんやそれ!!」

そう言つてる間にインペラー：ではなく、インペラーのお面を付けた闘士アントラーが来た。

雄二「あの時のダメージが抜けてなかつたか……」

榊「そうみたいだな……」

現れたのに察する2人を横目に闘士アントラーははやてを直立させた後に気合を入れて……

ドゲシツ!

はやて「のおっほ!?!」

強烈な蹴りを入れる。

はやては蹴られたお尻を抑えてピクピクする。

ティーチ「うわお……」

京谷「大丈夫か？」

誰もがピクピクしてるはやてに声を失くす中で京谷が恐る恐る話しかける。

はやて「だ、大丈夫やない」

明久「強烈だったね；」

榊「さて次はDVDか」

雄二「いや、まだボタンが残っている」

冷や汗を掻く明久の後にそう言う榊に雄二がそう言う。

明久「んー：ボタンの色的に先生が来るのかな？」

秀吉「ありえそうじゃな」

鬼矢「取り敢えず押してみろ」

んじやあと明久はボタンを押す。

するとなじみのあるマリオのBGMが流れる。

明久「あ、やっぱり」

榊「あの配管工の音楽だな」

誰もが来ると思ったら：

桂「マリオではない：カツオだ」

エリザベス『そして相方です』

マリオの恰好をした桂とルイージの帽子をかぶったエリザベスが現れた。

明久「そっちww」

雄二「あんたかよw」

秀吉「やっておつたのは分かるがw」

はやて「桂さんw」

ティーチ「そっちでござったかw」

榊&京谷「ぶふつwww」

それには鬼矢を除いて笑ってしまう。

デデーン！

鬼矢以外、OUT！

桂「ふふふ、意外だったであろう」

鬼矢「まあ意外は意外だけだよ…」

不敵に笑う桂に鬼矢は呆れた感じに返す。

桂「ならば次はスーパーベルを使い、猫カツオになってやる」

明久「スーパーベルあるの!？」

はやて「どういう感じになるんや…」

鬼矢「いいからとつと進めろ」

さっさつと進める様に言う鬼矢にせっかちな桂はそう言った後にエリザベスはスーパーベルを取り出す。

エリザベス『カツオさん!』

桂「おう!変身!!」

そう言って桂は投げられたスーパーボールをキャッチすると変身した……犬桂に……

明久「猫じゃないwwww」

はやて「桂さん、それ猫やない。犬やww」

雄二&秀吉「くっw」

ティーチ「猫じゃなくて犬になるってどう言う事でござるw」

榊「なんだよそれw」

京谷「おかしいだろw」

鬼矢「壊れてんじやねえか?そのアイテム」

デーン!

鬼矢以外、OUT!

桂「む?そう言うならば貴殿も使ってみたらどうだ?」

そう言ってエリザベスがスーパーボールを渡す。

「ただその色が紫色だが……」

ティーチ「明らかに色が違う!!」

鬼矢「断るに決まってるだろ」

桂「まあまあまあ」

叫ぶティーチの後に鬼矢は断るが桂は有無を言わず、手に持たせる。

その後に鬼矢は……デンジャラスビーストの恰好になっていた。

京谷&榊「ぶー!」

はやて「また違うw」

雄二「まあ、分かった」

それに京谷と榊は嘖き、はやては笑い、雄二は第六感から瞬時に後ろを向いていた。

桂「なぜだ。財団Xが作り上げたのに!」

明久「絶対に仕掛け人な人達が笑いの為にわざと違うのにしてると思えますよ!?!」

ティーチ「ですな!だからこそ鬼矢殿抑えて!!!」

鬼矢「……マジで殺してやる仕掛け人共……」
デデーン!

落ち込む桂に明久がツツコミを入れて、ティーチが鬼矢を宥めようとしていると音楽が流れ、まあ、流れるよねと明久とティーチが思っ
たら:

京谷、榊、はやて、OUT!

鬼矢、嚴重注意!

明久&ティーチ「あれ最後!?!」

アナ「言つときますが鬼矢さんの保護者様から笑いのネタとかでもしも殺すとか物騒な言葉が出たら注意する様にと言われてますので:後、服のはその保護者様から直々の提案ネタです。思うぞ運分笑わせてくださいとの事で」

サンダーダランビアSD「ホントに言つたツスね……」

ブラックキングSD「やな。ほんま保護者様の断言は当たるな……」
最後の違うアナウンスに明久とティーチが驚いているとアナがひよっこり現れて説明し、サンダーダランビアSDとブラックキングSDはそう言う。

鬼矢「だつたらその保護者連れてこい。つか誰だその保護者!」

アナ「スピノフだからなのですが現状だとネタバレになるあなたのお母様と荒れていた時から落ち着くまで世話をされていたお姉さんです。ちなみに今も笑っております」

ビシツと言う鬼矢にアナがそう言うとおの人等か……と顔を抑える。

ティーチ「と言うかメタイでござるアナ殿;」

雄二「確かに;」

鬼矢「あーくそ、イライラするな」

明久「鬼矢さん、本家で当て嵌めるなら松本さん梓だな」

はやて「あー、確かにそうやな」

榊「んじや京谷はあれだな」

苛立ちながら座る鬼矢を見てそう言う明久にはやては同意し、榊が納得した様に言う。

雄二「成程、田中梓か」

京谷「マジかよ…」

うげえとなる京谷だったがふと思つた事を言う。

京谷「んじやビンタされるのは誰になるんだ？」

その言葉に誰もがはつとなる。

ティーチ「自分の的に榊殿の可能性ありえますな。明久殿とかはやて

殿に鬼矢殿はないでしょう」

榊「俺かよ!？」

それにティーチがそう推測し、榊は驚く。

ティーチ「んじやあ榊殿は誰だと思えますぞ？」

榊「雄二」

カチツ

がははははははははははwww

デデーン!

雄二、OUT!

雄二「おい榊いいいい!!」

ティーチの答えながらガイアメモリを押す榊に雄二は叫ぶ。

パシーン

明久「んじやあ、次は雄二のDVDを見ようか」

鬼矢「そうだな」

たくつ!と雄二は置いてあつたDVDプレイヤーにセットする。

しばらくしてテレビに映像が映る。

街角アンケートダービー

明久「ダービー;」

ティーチ「まさかボタンではなくDVDで出しますか;」

鬼矢「確か関東ローカルのあれだったか?」

はやて「いや、確かに聞くと言うのじやあ合ってますけど;」

それに明久とティーチは冷や汗を掻く中で鬼矢がそう言い、はやて

はそう言うと言いが写る。

亜美『ヤッホーイ!亜美だよ!』

真美『真美だよ!2人で色んな人にアンケートするよん!』

元気よく挨拶して2人はさてさて笑い合う。

亜美『このアンケートは8人の人で誰が5回指名されたらその人に罰ゲームが起こるんだよ!』

真美『と言う訳で試しに聞いてみよう!そこの人々』
そう言つて2人が近づいたのは…

デスリユウジャー『あん?なんだ?』

椅子に座りまったりしているデスリユウジャーであつた。

明久『デスリユウジャー!』

雄二『あいつも出演してたのかよ;』

榊『つかなんで普通に出演しているんだよ;』

鬼矢『確かにな;』

ティーチ「いや、出演と言うよりどうやら偶然出会つた人の様ですぞ。画面外から小さい声で亜美、真美違う!その人、最初に声かける人じゃないと言うのがチラホラ;」

まさかの人物に驚く面々にティーチがそう言う。

亜美『亜美達少しアンケートをしてるんだよ』

真美『んでお兄さんに聞きたいけどこの中で罰ゲームを受けるのが良い人は誰か聞いても良い?』

デスリユウジャー『その中でだ…?』

そう聞かれてデスリユウジャーは8人の描かれた顔を見て…

デスリユウジャー『こいつだな…ぶっ飛ばしやすそうだし』

そう言つて指したのはティーチであつた。

亜美&真美『ありがとうございます!』

デーン!

ティーチ、タイキツク!

ティーチ「ええええええ!Σ(・□・;)これって流れるに最初は雄二殿ではないのですか!?!」

雄二「聞いた相手か悪かつたな」

京谷「確かにこれはな…」

ツツコミを入れるティーチに雄二と京谷はそう言う。

闘士アントラー「(・ω・!)」

バシーン!!

ティーチ「のおっほ!？」

やって来た闘士アントラーのタイキックを受けてティーチが悶絶してる間にDVDは再開される。

亜美『なんか最初話しかける人が違うって言われたけど、気にせずいくじえ!』

真美『だね!あ、その人!』

デスクリユウジャーから離れて次の人を探す亜美と真美の前に現れたのは：

カラ松『フツ、どうしたんだいガールズ?』

サングラスをかけたカラ松と：同じ様にサングラスをかけたNと
ビート・J・スタツグがいた

明久「何やってんのNさんww」

ティーチ「中の人でござるかww」

秀吉「シニール過ぎるのじゃw」

雄二&はやて「くふw」

鬼矢「あーそう言えば同じ声だったかあの二人」

榊「もう1人は別に普通のサングラスいらねえだろw」

京谷「確かにw」

デーン!

鬼矢以外、OUT!

パシーン!

あーと鬼矢が納得してる間に亜美と真美は話しかける。

亜美『お兄さん達くちよいとアンケート協力してくれない?』

真美『この中で罰を受けるなら誰になる?』

そう言われてNとカラ松は悩むがJが京谷を指す。

J『この京谷と言う奴だな。理由はなんとなくだ』

京谷「なんとなく!?!」

明久「Jなら選びそう;」

鬼矢「だな;」

選ばれた理由に驚く京谷に明久と鬼矢はしそうだなどと納得する。

明久：
雄二：
秀吉：
鬼矢：
榊：
京谷：○
はやて：
ティーチ：

N 『んー：僕的にこの榊って少年かな？なんかお説教されそうだし』

カラ松『俺は鬼矢って人だな。色々とりア充と言われそうなおーラを発している』

榊「お説教されそう!？」

鬼矢「リア充？俺が？」

俺そんな風に見えるか？と首を傾げる鬼矢だが映像は続く。

明久：
雄二：
秀吉：
鬼矢：○
榊：○
京谷：○
はやて：
ティーチ：

次に亜美と真美が話しかけたのは…

亜美『そこのお姉さん達』

K 魔理沙『ん？私らの事か？』

K 霊夢『？』

魔理沙と霊夢で霊夢の反応からあ、俺の方の霊夢達かと鬼矢は眩

く。

真美『この人達で罰を受けるなら誰?』

魔理沙「んー、そうだな…」

真美の問いにK魔理沙は少し考えてから…

K魔理沙『雄二だな。あいつの魔法は色々とチート過ぎだし同じ魔法使いとしてちよつとなーって思う』

K霊夢『私は…すみません。居ませんね』

雄二「俺か」

秀吉「そっちの霊夢は優しいのう…」

明久：

雄二：

秀吉：○

鬼矢：○

榊：○

京谷：○

はやて：

ティーチ：

次に映されたのは…酔とイカであった。

亜美「萃香ちゃんは誰を選ぶ?」

萃香『んーそうだね』

明久「ぶっw」

雄二「萃香だけなんで編集して酔とイカかよw」

秀吉「い、いきなり過ぎるw」

はやて「西瓜やないのもまたw」

ティーチ「不意打ち過ぎますぞw」

榊「くふw」

京谷「ぶふw」

鬼矢「下手な洒落だな。そこは普通に酔イカとかにしてもよかつたんじゃない?」

デデーン!

鬼矢以外、OUT!

編集されたのに鬼矢を除いて笑う。

パシーン!

萃香『鬼矢がなく最近お酒を程々にしとけつて言うし、後は編集のとかで内容によって下手な洒落と言つてそうだし』

真美『メタイよ萃香ちゃん;』

鬼矢「アイツ、この編集を読んだのか?」

そう言つた萃香のに自分の所かと思つてから呆れる。

明久:

雄二:○

秀吉:

鬼矢:○○

榊:○

京谷:○

はやて:

ティーチ:

続いてはアンとメアリーの2人組で:

アン『黒髭ですわね』

メアリー『黒髭だね』

亜美『まだ言つてないよ』

真美「見せた途端に言つたね;」

ティーチ「おう、ひどうい」

はやて「即答やな;」

榊「即答だぜ;」

京谷「どんだけ嫌なんだよ;」

素早い答えに誰もが冷や汗を掻く。

メアリー『最近Xライダーのお蔭でマシになったけどね』

アン『それに私達にはマスターいますし、セクハラは駄目よね』

ティーチ「そのマスターがあんたらのアピールで鼻血ブーで死にかけになってたりするけどね!!」

明久「だよね;」

雄二「だな」

秀吉「うむ;」

鬼矢「どっちもどっちだな」

理由を言う2人にティーチはツツコミを入れて、その親友である明久達は頷き、鬼矢は呆れる。

明久:

雄二:○

秀吉:

鬼矢:○○

榊:○

京谷:○

はやて:

ティーチ:○○

次に出会ったのはティアナとノーヴェであった。

ティアナ『はやてさんですね』

ノーヴェ『あー、確かに』

亜美『おおう、こっちも;』

真美『即答する人が続くね;』

はやて「おおっと、ついに私かいな」

雄二「指名の理由が分かるな」

京谷「まあはやては色々としてそうだしな」

鬼矢「ああ、榊と真宵の同類か」

榊「あれれれれ!?俺同類!?!」

続けざまのにそう言う雄二と京谷の後の鬼矢のに榊はウソーンとなる。

明久：
雄二：○
秀吉：
鬼矢：○○
榊：○
京谷：○
はやて：○○
ティーチ：○○

次に亜美真美コンビが出会ったのは伊御とつみきであった。

亜美『そのデートしてるカップルさくん!』

真美『少し質問して良い?』

つみき『か、カップル／／!?』

伊御『ん?君たちは……』

かけられた言葉に顔を赤くするつみきの隣で亜美と真美に伊御は首を傾げる。

亜美『丁度亜美達はこの中で誰が罰を受けるかのアンケートを取ってるんだよ』

真美『だから協力してくれると嬉しいっしょ!』

つみき『そうね……榊かしら』

伊御『いつもお仕置き受けるからな、アイツ』

問う亜美と真美につみきと伊御は榊を指して言う。

ティーチ「指名されましたな」

雄二「一気に3になったな」

榊「伊御く」

親友達の指名に榊はオウフとなる。

明久：
雄二：○
秀吉：
鬼矢：○○

榊：○○○

京谷：○

はやて：○○○

ティーチ：○○○

雄二「しっかし、明久と秀吉が全然ねえな」

はやて「せやな」

京谷「あの二人に受ける要素ないしな」

今の状況を見て言う雄二にはやては同意して、京谷がそう言う。

次に現れたのは：なぜかキュアマミラクルのお面を付けた仮面ライダーブレイドであった。

それを見た全員が思わず噴いた

明久&秀吉「ぶふw」

はやて「なんでやねんww」

ティーチ「シユール過ぎるww」

雄二「自由過ぎるぞw」

榊&京谷「ぶははははwwww」

鬼矢「くくくくくwwww」

デーン！

全員、OUT！

ガイの時の様な不意打ちに全員爆笑する。
パシーン！

亜美『く、くく、そ、そこの仮面ライダーさん、アンケートをして
も良い？』

ブレイド『ああ、良いよ』

明久「あ、このブレイドは葉月ちゃんのランスロットが変身してる
方だ」

雄二「本家の本人だったら参加しないもんなきつと」

鬼矢「ランスロットってあの浮気男の？それとも黒いロン毛の？」

ティーチ「バーサーカーだから一応後者ですぞ」

榊「ライダーに変身できるようになったのか」

京谷「すごいな。サーヴァントのライダーか」

笑いながら問う亜美のに答えるブレイブの声を聞いてそう言う明久と雄二のに榊と京谷は思い出してほおとなる。

真美『ち、ちなみになんでお面を付けてるのw』

ブレイブ『ああ、マスターが欲しいと言う事で手に入れたんですよ。後、笑いの為に』

はやて「笑わせる為ってw」

デデーン！

はやて、OUT！

鬼矢「マスターってのは？」

明久「島田葉月ちゃんって子と契約してるんですよランスロットは」

出て来たマスターが誰なのかで聞く鬼矢に明久は答えて、成程と：鬼矢は納得する。

パシーン！

亜美『ちなみにお兄さんは誰を選ぶ？』

ブレイブ『そうですね：選ぶとしたら明久ですかね。理由はマスターをもう少し女の子扱いしてあげて欲しいからです』

真美『成程』

アンケートに答えたブレイブのにあ、○付いたと明久は呟く。

明久：○

雄二：○

秀吉：

鬼矢：○○

榊：○○○

京谷：○

はやて：○○○

ティーチ：○○○

明久「けど、ランスロットのどういう意味かな？ちゃんと女の子と

して見てあげてるんだけど？」

雄二「(そういう意味じゃねえよ)」

はやて「(吉井くんはほんま鈍感やなく)」

ティーチ「(明久氏はとことんニブチンですな)」

京谷「(音無レベルの鈍さだな…)」

首を傾げる明久に誰もが思った。

次に出会ったのは優子であった。

優子『秀吉、理由、なぜ大きい』

亜美『おおう、凄いオーラを感じる；』

真美『これは千早ねーちゃんに近いね；』

秀吉「姉上；」

雄二「ああ；」

榊「確かに；」

鬼矢「姉よりデカいな…」

それに答えた優子のに明久を除いて納得する。

明久：○

雄二：○

秀吉：○

鬼矢：○○

榊：○○○

京谷：○

はやて：○○○

ティーチ：○○○

明久「今の所近いのは榊だね」

榊「まだ、まだ逆転できる！」

状況を見て言う明久に榊がそう言うのと次に出会ったのは…雄二のサーヴァントメンツに霧島であった。

霧島『雄二』

エリザベート『マスターね』

清姫『旦那様ですね』

ジャンヌオルタ『罰を受けなさいマスター』

亜美『おう、即答』

真美『そして5つになったね』

デデーン！

雄二、タイキツク!!

雄二「」

はやて「一気にwww」

ティーチ「絶対狙ったメンツでござるwww」

秀吉「くふw」

鬼矢「一体何したんだ？雄二……」

明久「んー…なんででしょう？」

榊「くぷぷwww」

京谷「榊を抜いたなw」

デデーン！

はやて、ティーチ、秀吉、榊、京谷、OUT！

まさかいきなり1から5になるのに言葉を無くす雄二にはやてと

ティーチに秀吉と榊は笑ってしまう。

パシーン!!

ティーチ「(とことん恋愛関係だと力にならない明久氏であつた)」

叩かれた後にティーチがそう心の中で呟く中で闘士アントラーが

来て…

雄二「ぐほう!？」

見事なタイキツクを叩き込み、雄二は壁に手を付けながら痛みに耐える。

榊「フラグ立てすぎたな……雄二」

それを見て榊がそう言う。

亜美『と言う訳でアンケートでした!』

真美『最後にこの人から一言!』

咲『はあ〜い♪』

京谷「ぶっ?!崎守!？」

現れた咲に京谷は噴いた後に嫌な予感を覚える。

咲『京谷、あんた色々と頑張らないと影が薄くなるわよ』

ティーチ「(いや、十分目立ってると思うで(ぎぎるが))」

京谷「うるせえ!」

くすくす笑って言う咲に京谷は叫ぶ。

咲『まあ、京谷なら〃タイキツク〃を受けても大丈夫よね〃タイ

キツク〃は』

京谷「おいまて!?!まさか!」

強調して言う咲の言葉に京谷は顔を青くし…

デデーン!

京谷、タイキツク×2

明久「あれ?」

はやて「×2…」

鬼矢「つてことは…」

京谷「なんでだああああああ!?!」

まさかの宣言に京谷は叫ぶとインペラーと闘士アントラーが現れ、それに京谷は思わず逃げようとするが何時の間にかいた黒子集団に抑えられ…

バシーン!!

1匹と1人のタイキツクが京谷のお尻に炸裂した。

京谷「」

明久「うわあ…」

はやて「声も出ずに…」

ティーチ「くわばらくわばら…」

鬼矢「南無…」

声も出さずに倒れ伏した京谷に明久とはやては冷や汗を掻き、ティーチと鬼矢は手を合わせる。

雄二「んで次はゲームだな」

榊「つてことはこれか」

次にゲームをしようとした時にアナが入って来る。

ブラックキング「皆、そろそろお昼やし腹減ってるやろ?」

明久「もうお昼か」

榊「もうそんな時間なのか早いな」

そう言うブラックキングSDのに明久と榊は時計を見る。

アナ「12時まで後30分位です。その間に皆さんには食べる料理を決めるゲームをやって貰います」

秀吉「おお、本家でもあったあれじゃな」

榊「んでどんなゲームするんだ？」

サンダーダランビア「今回は8人いるのでペアを組んで4組による対抗戦をして貰うツス！」

ブラックキング「そしてやるゲームはこれや！」

そう言うって用意されたのは3つのボタンで、それぞれ緑、青、黄色となっていた。

さらにリストバンドがそれぞれ手渡される

ブラックキング「ちゃんと押せないで静電気来ちゃう！パニックボタン!!」

アナ「ルール説明ですが、このタブレットに表示された色を押してください。最初はゆっくりですがだんだん速くなります。表示されたのと別の色を押し間違えたり、少しでも遅れたらリストバンドやボタンから静電気が流れますので注意してください。また赤く表示された時にボタンを押してもアウトなので」

題名を言うブラックキングの後にアナが説明する。

雄二「マリパ7での8人ミニゲームにあったパニックガレージみたいなもんか」

榊「んで順位によつてのランクはどうなるんだ？」

説明を聞いてそう言う雄二の後に榊が聞く。

アナ「ランクと言うより、順位によつての料理はこうなってます」
そう言うって表示される。

1位：小松シェフ特製エンドマンモスのハンバーグステーキ定食

2位：ぎょうぎとラーメンセット

3位：寿司6貫（ハンバーグ寿司2貫、キュウリ巻き2貫、熟成ま

ぐろ2貫) + お茶

4位：ふりかけごはん(のりたま)

ティーチ「なんという1位と4位の差；」

明久「確かに；」

京谷「と言うか4位少なすぎだろ；」

鬼矢「にしても3位が寿司なのか。それじゃあ2位のラーメンセツトは普通のじゃねえのか？」

ブラックキング「おお、勘が鋭いな。実はそうなんや〜」

サンダーダランビア「麺はトリコの世界の全麺にスープとチャーシューにカラットジューウシを使ってるんやで」

最後に言った鬼矢のにブラックキングとサンダーダランビアはそう答える。

雄二「表記しとけよ」

はやて「つまり、1位と2位のはトリコさんの食材を使つとる訳か」
アナ「後、そのツンツン頭さんのに答えると本家よりかはマシだ
と思いますよ？あつちだと芋だけだったりしますし」

それに雄二は呆れてツツコミを入れ、はやては納得しているとアナが京谷のに答える。

京谷「まあ確かにな…」

ブラックキング「そんな訳でこの俵を引いてやく赤、青、黄色、緑
の4色で決めてるからな〜」

サンダーダランビア「引いた引いたツス！」

京谷が納得した後に出された俵をそれぞれ引く。

明久「よろしくティーチ」

ティーチ「よろしくでございませぬ明久氏」

青コンビ：明久、ティーチ

はやて「宜しゅうなきやはん」

鬼矢「ああ」

赤コンビ：はやて、鬼矢

雄二「まあ、行こうぜ榊」

榊「ああ！絶対一位になろうぜ！」

黄色コンビ：雄二、榊

秀吉「お互いに頑張るぞ京谷」

京谷「ああ、なんとか3位以上になるぞ！」

緑コンビ：秀吉、京谷

と言う感じで決まったので画面が見え易い様に移動して待つ。

果たして勝つのはどのチームか：

お昼決めゲームからマリオメーカープレイまで

誰もが息を飲んでゲームが始まるのを待ち…

ブラックキングSD「んじやあ…スタートやで!!」

ピイイイ!!

ブラックキングSDの後にアナが笛を吹くと画面に青が表示されて、8人は同時に青のボタンを押す。

続いて、緑、黄色、青と続く。

誰もが真剣になる。

続いていて…赤になったのを思いっきり押ししてしまった人物がいた。

それは…

京谷「あ」

京谷で手に静電気が来る。

京谷「あいたっ!」

ブラックキングSD「はい、京谷脱落」

ティーチ「危なかった…」

それを見ながらそれぞれ押しに行くがだんだん速くなり…

はやて「あいたっ!」

ティーチ「痺れが!」

榊「うお!」

はやて、ティーチ、榊が脱落して残りは明久、鬼矢、雄二、秀吉だけになる。

明久「まだまだ!」

雄二「マリパで鍛えたの舐めるな!」

鬼矢「これぐらいならまだ行けるな」

器用にやる明久と雄二の隣で鬼矢も普通に付いて行く。

秀吉「すまぬ京谷、ワシ無理(びりっ)」

そう言つて秀吉はワシテンポ遅れたので静電気が来る。

ブラックキング「はい、緑コンビ4位」

鬼矢「ん、かなり早く戻ってきたな…」

雄二「唐突に速くなり過ぎ、だあ!？」

ブラックキングの宣言と共にスピードが上がり、それに雄二は遅れてしまう。

サンダーダランピア「黄色コンビ3位ッス」

明久「負けませんよ!」

鬼矢「こっちの台詞だ」

その間も必死にボタンを押して行く。

そして…

鬼矢「あつ、やべ(びりっ)っ!」

アナ「赤コンビ、2位で1位は青コンビです」

明久「ようし!」

ティーチ「やりましたな!明久氏!」

デデーン!

明久、ティーチ、OUT!

1位になったのに喜ぶとアウト宣言される。

はやて「ここでw」

榊「勝ったのにアウトww」

京谷「くぷw」

デデーン!

はやて、榊、京谷、OUT!

明久「笑ってはいけないのを忘れてた!」

ティーチ「ですな!」

パシーン!!

とりあえず、叩かれたが1位なのは変わりないので料理が運ばれてくる。

ブラックキング「ちなみにご飯はこの無限に米が出て来る炊飯器があるから遠慮せずお代わりしてもええで〜」

雄二「ちゃんと4位も腹いっぱいになれる様に救済のはあるんだな」

秀吉「確かに本家にはないのじやな」

その後には置かれた炊飯器に対してそう説明し、雄二と秀吉は成程と納得する。

アナ「トツピングもたくさんありますよ」
とにもかくにもお昼を食べ始める。

明久「うーん。ホント小松シェフのは凄く美味いから作ってる者として尊敬するな」

ティーチ「ですな！うめーですな！」

はやて「うーん！ラーメンも聞いてた通り美味いけど餃子もなかなか！」

鬼矢「ご飯が進むな」

それぞれが料理の美味さに感嘆の声を上げていると鬼矢はいつの間にかどんぶりを作っていた。

雄二「はええな」

秀吉「うむ、そうじゃな。そう言う雄二も雄二でしておるのう；」
パクパクとゴマと刻みのりに卵と醤油をかけて食べている雄二に秀吉はツツコミを入れる。

明久「それって；」

京谷「ん？なんだ？」

榊「お、これって；」

覗き込む3人に鬼矢はああと自分が作ったどんぶりを言う。

鬼矢「ああ、海老天を置いてきざみネギを散らしてラーメンのスープをかけてとき卵でとじた天井だ」

ティーチ「おお、成程」

見せる鬼矢に誰もがおおくとなる。

明久「結構残ったソースをごはんと混ぜて食べたりするね」

雄二「ああ、あるな。そばやうどんとかで残ったスープにごはんを入れたりとかな」

榊「俺はラーメンのスープに入れてラーメンライスとかにするぜ！」

はやて「ああ、美味しいよな、後、ご飯のから外れるけどスープって冷ますと熱いのはまた違う美味みを感じるから少し置いてから飲

むのも格別やね〜」

京谷「この食べるラー油つてのも美味しいよな」

秀吉「確かにあれもラーメンもそうじゃがご飯に入れてもグーじゃからなく」

その後は8人でそれでワイワイ談義に入る。

アナ「笑ってますけど、良いんですか？」

ブラックキングSD「本家やないんだし、お昼でワイワイ話す位ええやろ」

ワイワイ話す面々を見て聞くアナにブラックキングSDはそう言う。

しばらくしてお昼を食べ終えた後にさせと…と雄二はWiiUを見る。

雄二「やるか、マリオメーカーを」

明久「きつと1ステージが作られてるんだろうね」

鬼矢「……ところでマリオで思ったんだがよ」

そう言う雄二と明久の後にふとそう言う鬼矢にメンバーは鬼矢に視線を向ける。

秀吉「どうしたのじゃ鬼矢殿？」

鬼矢「これを明久の師匠のマリオは実際やっているんだよな」

明久「んー…ゲームはそうだけどそこらへんどうなんでしょう…リアルで先生やってるかどうか僕分かりませんし…」

聞く秀吉にそう言う鬼矢に明久は唸る。

鬼矢「もしそうだったら…一体何人のマリオが死んでいるんだろうなア」

ティーチ「それはリアルで想像したくないでござるな」

はやて「せやな；」

そう言う鬼矢にティーチとはやてはそう言う中でゲームが始まる。

雄二「ステージのゲームスキンはスーパーマリオワールドか…んで、土管が8個？」

榊「どういうステージだ？」

ステージを大体見て、とにかく最初に入るか…と一番左端の土管

に入る。

そして出た場所には下にはゴールの旗と…

京谷

タイキツク

と言うブロックで描かれた文字が…

京谷「おい待て!？」

デデーン!

京谷、タイキツク!!

それに京谷は叫ぶが無慈悲に宣言される。

ティーチ「おおう;」

明久「あー…本家でもあったね;」

鬼矢「つか他の土管だったらどうなってたんだ?」

タイキツクされている京谷を見ながら鬼矢は呟く。

雄二「んじゃあ試しに行つて見るか」

そう言つて雄二は左から2番目の土管に入る。

すると出た場所は先が丁度マリオがダツシユジャンプでギリギリ届く位に穴を空けて1つの足場にクリボータワーが出来ているのだ。

雄二「成程、クリボーを踏みながら進めか…」

明久「しかもギリギリマリオが踏める高さにクリボーが積まれてるね」

鬼矢「うまく考えたな」

それを見て感想を述べた後にんじやあやるかと助走を付けてジャンプしようとし…

ピローン!

ブロックが出て来てマリオは下に落ちた。

ティーチ「隠しブロックw」

明久「改造マリオであるあるのw」

はやて「不意打ち過ぎやろw」

榊「くくくつwww」

京谷「ぶふw」

デデーン!

明久、榊、京谷、はやて、ティーチ、OUT!

雄二「あーマリオメーカーだとホント出来るから改造マリオを作ってた人はこういうのを簡単に出来るよな…」

鬼矢「そう言えばミスったけど大丈夫なのか?」

明久「本家ではミスしてもそう言うのはなかったですね」

頭をガシガシ搔く雄二の後に聞く鬼矢に明久は思い出して言う。

はやて「まあ、笑うのがミス変わりやと思うな」

ティーチ「確かに」

榊「次は俺がやるぜ!」

ほいと雄二は榊にパッドを渡す。

はやて「落ちん様にな」

榊「おう、任せとけ!」

そう言つて榊はプレイを開始する。

まずは落ちない様にとお邪魔隠しブロックをギリギリの所でジャンプして出現させる。

榊「よっ、はっと」

その後が大ジャンプしてクリボーを踏みながら進む。

明久「あ、後1回でゴールに向かう土管の所に着けるね」

榊「よし!もう少しで…」

そう言つて最後のクリボーを踏んで着地しようとして…土管のある足場の一番手前に着地しようとしたら…すり抜けて落ちた。

はやて「……………は?」

ティーチ「隠し通路を隠す奴ので落とし穴とかw」

雄二「やつてくれるw」

鬼矢「レトロゲームみたいだなw」

デデーン!

ティーチ、雄二、鬼矢、OUT!

起こった事に榊とはやては呆気に取られ、ティーチと雄二に鬼矢は落ち方に笑つてしまう。

パシーン!

明久「もう1回やる?」

榊「ああ!次は絶対に…」

気合を入れて榊は十分注意して進んでいき、最後のも余裕をもって土管のある足場に着地する。

榊「うっし!」

京谷「後はゴールするだけか」

そのまま土管に入り…出ると…クリボーが出て来た土管を除いて全体の足場にうじやうじやと敷き詰められていた。

はやて「何これw」

秀吉「敷き詰め過ぎじやろw」

ティーチ「これはw」

榊「全部踏んづけてやるぜ!」

デデーン!

はやて、秀吉、ティーチ、OUT!

パシーン!

それに思わず笑う3人の後に榊はクリボーを踏みつけながら進む。

明久「これって作り方によるけど無限IUPが可能になったよね」

雄二「まあ、そうだな」

鬼矢「でもそう言うのって大抵失敗するよな」

それを見ながらそういう明久に雄二も頷き、鬼矢がそう言う。

ティーチ「お、ゴールバーですぞ」

榊「よし!」

そしてゴールバーのバーを越えて、ゴールし、いつも通りのテロツプが流れて、暗転が無くなると…

ハヤテ

タイキツク

と言う文字が現れる。

はやて「はっ?」

デデーン!

はやて、タイキツク!!

明久「今度ははやてさん；」

京谷「まさかあの土管の先のゴール全部にタイキックが!？」

ゲーム画面を見ながら京谷は戦慄する。

バシーン！

ティーチ「土管の数が8個だったから全員蹴られる可能性ありですな」

雄二「まあ、メタイ視点で言うなら全部やらねえと進まないだろうし、やるしか道がねえだろうな」

はやて「そやな、私ら2人だけなのもどうかと思うし」

鬼矢「メタすぎるな；」

それに鬼矢はツツコミを入れてる間に3番目の土管に入る。

そして出た場所は：土管だらけであった。

明久「土管が多いな；」

榊「どれが当たりだ？」

どれかが当たりかと思いい下のを押そうとした時、見えている土管全てからボム兵が出て来た。

明久「……わおう；」

ティーチ「あ、これ土管当てじゃない。ボム兵が爆発しないうちに走る奴だ！」

榊「ぬおおおおお!？」

それに榊は慌ててダッシュし、出て来るのも踏みつけながらゴールへと向かう。

はやて「土管だらけやな；」

雄二「しかも全部がボム兵が出て来るのだな」

鬼矢「どんだん爆発していくな」

榊の操作するマリオの後ろで爆発していくボム兵を見ながら鬼矢は眩くと横から上へと伸びる土管が見えた。

明久「あ、出口かな？」

榊「よっしやあ！」

それに飛び込もうとした時：出口の土管の前に：大きいボム兵が現れた。

はやて「フアツ!」

ティーチ「マリオメーカーあるあるのドデカ敵キャラ!」

榊「ぬおう!」

それに榊は驚いてジャンプして出口の土管の上に着地する。

明久「うわあ…行き辛いね」

はやて「これ、出て少ししてからのをどうにかせんといかんけど…」

榊「どうするか…」

雄二「…おい榊、今乗っている土管の伸びている部分の横でジャンプしてくれないか?」

呻く明久の後にはやてと榊は唸ると雄二がそう指示する。

榊「え?あ、分かった」

言われた通り、上に伸びている横でジャンプしてみる。

すると、ブロックが現れ、中からスターが現れる。

ティーチ「おお!隠しブロックでスターですぞ!」

京谷「よっしゃこれで!」

早速榊はスターを取るとデカボム兵を蹴散らして土管へと入る。

そして土管を出た先にゴールバーのある場所へと出る。

榊「よっしゃやゴール!」

そしてゴールバーを切り、暗転の後に現れたのは…

ユウジ

タイキツク

の文字であった。

デデーン!

雄二、タイキツク!

雄二「俺か!」

明久「と言うかw」

ティーチ「文字がw」

秀吉「画面の事情か字がw」

榊「じだけひらがなwww」

京谷「ありかよw」

次は雄二なのだが表示の仕方に上記4人が笑う。

デデーン!

明久、ティーチ、秀吉、榊、京谷、OUT!
うーりん、上手いとはやてが唸る。

鬼矢「さて次の土管はつと」

次は鬼矢が操作して4番目に入る。

そして出た先は：スターがいっぱい跳ね回っていた。

明久「何これw」

ティーチ「スターが無駄過ぎるww」

鬼矢「無駄遣いすんなよな全く：」

デデーン!

明久、ティーチ、OUT!

パシーン!

鬼矢「取り敢えず進むか」

そのまま鬼矢は走ると大砲とか土管からもスターが出まくる。

明久「えつと：スターだけが出るステージなのかな?」

雄二「見るからにそれっぽいな：」

榊「常時無敵だなあ……」

そのまま走り続けると土管が見え、いざ入ろうとして：その手前で落ちた。

ティーチ「また隠しw」

はやて「旨いコースと見せかけてかいなw」

鬼矢「コイツ……」

デデーン!

ティーチ、はやて、OUT!

それに鬼矢はむうとなり、今度は落ちずに土管へと入る。

そして出るとゴールバーが見える。

秀吉「ゴールバーじゃな」

雄二「今までの傾向からして攻略すればゴールバーには簡単にゴール出来る訳だな」

京谷「そうみたいだな」

鬼矢「さて次は誰だ……?」

誰もがドキドキしながらゴールバーを通り抜け、暗転が消えると…
サカキ

タイキツク

と言う文字が出ていた。

デデーン！

榊、タイキツク！

榊「俺かよお!？」

告げられたのに榊は絶叫してる間にインペラーが来る。

バシーン!!

榊「のおっほ!？」

雄二「んじゃあ、5番目行くか」

鬼矢「ああ」

ちなみにお前など明久に渡す。

明久「あ、はい」

パッドを持って5番目の土管に入ると…マント羽があった。

明久「これは…マント羽を使って降りるのかな？」

京谷「取りあえずとってみたらどうだ？」

そうだね…とマント羽を取ると…マリオの服を着た明久になる。

ティーチ「マントマリオじゃないw」

雄二「明久になるのかよw」

秀吉「くw」

鬼矢「キャラマリオか」

京谷「しかも召喚獣でのかw」

榊「すげえシニールだなw」

デデーン！

雄二、秀吉、京谷、榊、ティーチ、OUT！

それに明久と鬼矢、はやてを除いて笑う中で明久は動かす。

明久「えっと…一応滞空は出来る…みたい」

鬼矢「これが居るルートってどんなのだ？」

とにかく降りてみますね…と前にルートがないので穴へと飛び込む。

すると…パタパタやトゲゾーなどが配置されていた。

明久「ああ、当たらない様に気を付けて降りろか」

榊「気をつけろよ」

分かっていると明久は慎重に動かしながら下へと降りて行く。

途中でトケゾーの1コマ抜けをやる羽目になったり、甲羅の蹴りを避けたりと進んでいく。

明久「うひい…ホントに1ミスしたら危ないな」

京谷「ミスしたら普通のに戻っちまうからな」

慎重に操作しながら緊張する明久に京谷も同意する。

秀吉「そろそろ見えて来ても良いじやろう」

はやて「確かに50秒もな」

鬼矢「さて次は誰がタイキックだ？」

誰もが息を飲む中で土管に辿り着き、入った後にゴールバーを越

え、暗転が消える時…

ティーチ

タイキック

と書かれていた

デデーン!

ティーチ、タイキック!

ティーチ「拙者が来ましたか…」

鬼矢「まあ…：ドンマイ」

それに鬼矢が励ましていると…Xライダーが来た。

ティーチ「アイエエエエエ!? Xライダー!? Xライダーナンデ!?」

Xライダー「ドモ、エドワード!! ティーチさん。Xライダーデス。

俳句を読め」

戦慄するティーチにXライダーはそう言う。

ティーチ「え、えつと…今回、悪くないやあああああ!?」

言う前にティーチにタイキックは炸裂する。

榊「南無…」

秀吉「残り後は3つじやな」

鬼矢「次は誰がやる?」

はやて「うちがやる」

名乗りあげたはやてにはいと明久は手渡す。

はやて「頑張るで」

榊「ゲームのは大丈夫ツスカ？」

気合を入れるはやてに榊は聞く。

はやて「平気や、小さい頃になのはちゃん達とやったりしてたからなく」

そう言つて6番目の土管を抜けると…ブロックがたぬう〜と言う字が描かれていた。

明久&雄二「ぷっw」

ティーチ「何これww」

秀吉「不意打ち過ぎじゃw」

鬼矢「予想してたのかよwww」

榊&京谷「ぶははww」

デデーン！

はやて以外、OUT！

はやて「なんでやねん」

まさかのはやて以外が爆笑し、はやては真顔でツツコミを入れる。

パシーン！

明久「本当に不意打ちでしたね」

鬼矢「確かにな…」

たぬう〜の不意打ちにそう言う明久に鬼矢も同意する。

はやて「とにかくゴールにいったるで！」

そう言つてはやては操作する。

ブロックを叩くとハテナキノコが現れる。

明久「あ、なんか先の展開が読めた」

雄二「奇遇だな明久。俺もだ」

榊「雄二に同じく」

その言葉の後にはやてはハテナキノコを取ると…マリオはたぬうはやてになつた。

はやて「なんでやあああああ!!」

明久「たぬきちと予想してたけどこれは予想外w」

雄二「もうこのコースははやてさん確定だろw」

榊「wwwww」

秀吉&鬼矢「くくwww」

京谷&ティーチ「ぶはははははwww」

デーン!

はやて以外、OUT!

またも爆笑してはやて以外がアウトになる。

バシーン!

はやて「もう早く行くで!」

鬼矢「頑張れよ」

そのままはやては動かして走る。

途中ではクリボーが出て来るだけで普通のステージと変わらず、

ゴールバーまでたどり着き、暗転が消えると…

たぬう

タイキツク

と書かれていた。

デーン!

はやて、タイキツク!

はやて「最後の最後まで!!」

一同「ぶくくwww」

デーン!

はやて以外、OUT!

最後の最後までたぬうーで通されたのに誰もが爆笑する。

明久「はやてさんに悪いけど本当に笑えるよ」

鬼矢「確かにこれはな…」

そう言う明久に鬼矢も同意する中ではやては7番目の土管に来る。

はやて「ほい京谷くん」

京谷「次は俺か」

んじやあ入るかと7番目のに入る。

そして出た先は：水中ステージであった。

明久「次は水中か」

鬼矢「水中ステージは初めてだな」

呟く明久の後に鬼矢がそう言った後に京谷は操作して進むと複数の土管に1つ1つの上にコインが絵を描いていた。

秀吉「これは：」

榊「あの絵なんだ？」

ティーチ「何やら動物らしいですな」

それを見て言う秀吉と榊の後にティーチがそう言う。

はやて「何かのヒントかいな？」

鬼矢「それぞれなんの動物だ？」

明久「んーと：順番に簡単な感じで犬、兎、魚、猫かな？」

呟くはやてと鬼矢の後に京谷の操作で全部見ってから明久はそう言う。

雄二「どれかが出口への道しるべってか」

榊「犬はワンワンが出てきそうだな」

ティーチ「ありえそうですな」

どれに入ろうかと誰もが悩む。

明久「うーん。無難に水中と言う事で魚のに入ってみます？」

鬼矢「そうするか」

と言う訳で入ってみた。

出た先は：大量の跳ねるプクプクであった。

ティーチ「なにこれw」

雄二「水の中じゃねえから意味ねww」

榊「つか可哀そうだろww」

京谷「それなw」

デーン！

雄二、榊、京谷、ティーチ、OUT！

びよんびよん跳ねるプクプク達に思わず笑ってしまう。

パシーン！

明久「ゴールバーがすぐ近くだからこれが正解だったんでしょうか

ね？」

鬼矢「さあな」

とにもかくにもゴールバーを通り、暗転から誰が出るのか緊張する。

はたて

タイキツク

と言う文字であった。

明久「ん？」

雄二「あ？」

秀吉「はあ？」

ティーチ「んん？」

榊「え？」

はやて「へ？」

鬼矢「あ？」

まさかの参加者じゃないのに呆気に取られる

楽屋裏

はたて「ちよおおおおおおお!?」

沖田「あ、いつけねえははやてだったのに真ん中の一文字を間違えちまったぜい☆」

文「間違いは仕方ないですね☆」

一方で見ていたはたては絶叫し、コースを制作した沖田と文はてへペロをする。

顔を青ざめるはたての後ろには目を輝かせる闘士アントラーがおり：

バシーン!!

あいたあああああああああああああ!!?

明久「うわ凄い声；」

雄二「聞こえて来たな」

鬼矢「助かったなはやて」

はやて「そ、そうやな；」

聞こえてきた声に各々に言った後に最後の土管に入る。

そして出ると…キノコだらけの場面であった。

明久「うわあ、キノコたつぷり」

秀吉「ホントに多いのじゃ」

雄二「ハテナキノコもあるな」

榊「毒キノコもあるな」

色々と気を付けないといけないなど操作している明久はキノコをちやんと見ながら動いて行く。

明久「ホントに注意しないと毒キノコとキノコを間違えそうだから大変だよな」

雄二「ああ、遠目から見ると似てるもんな」

京谷「間違いやすいよなほんとに」

話しながら進む中で大きくなったり様々なキャラになりながら進む。

明久「それにしてもキャラマリオは本当に多いよね」

雄二「まあ、確かにそうだな」

鬼矢「作ればもう種類は無限にもなるしな」

プレイを見ながらそういう明久に雄二も同意し、鬼矢も言うところバーが見えて、ゴールし、暗転の後に出来た文字は…

ユウジ

たすてけ

明久&秀吉&ティーチ&はやて&鬼矢「何これ？」

雄二「と言うか俺かよ」

京谷「なんか見た事あるけどな…」

榊「あ、もしかしてこれは…」

内容に榊を除いて首を傾げ、榊が何か察すると…

エリちゃんズ「「確保!!」」

そこにミニスカポリスな恰好の翔子とジャンヌオルタとブリュンヒルデを除いた雄二のサーヴァントメンツが現れて、雄二を取り囲む。

雄二「な、何するんだ!!」

翔子「大丈夫。連れて行くだけだから」

驚く雄二に翔子がそう言ってエリちゃんズが持ち上げて連行して
いく。

突如起こった雄二連行…次回、あの訓練が始まる!

捕まっつてはいけないまで

前回、翔子とエリちゃんズにより連行させられてしまった雄二。そんな雄二と入れ替わりにアナとブラックキングSDにサンダーダランピアSDが入って来る。

明久「え、え？」

ブラックキング「さあ、移動するで〜」

鬼矢「あーあれか」

京谷「アレだよな…」

その様子から誰もがあ、ああ…と察すると共に移動を開始し、しばらくして更衣室の前に案内される。

文「あ、そちらの人はこちらに」

沖田「連行するぜ〜」

鬼矢「ん？」

ただ、鬼矢も現れた文と沖田の2人によりどこかへ連れて行かれる。

明久「2人同時に捕まる感じなのかな？」

京谷「そうみたいだな」

アナ「と言う訳で男女で分かれて着替えてください」

それを見届けながら首を傾げる明久と京谷の後にアナの指示の元、更衣室で別れ（秀吉は専用の更衣室で）着替えてグラウンドに集合した。

そして奥では透明なボックスに閉じ込められた雄二と…

鬼矢「（☒ω☒）スヤア」

気持ちよく寝ている鬼矢の姿があった、

明久「寝てる!？」

榎「なんで?!」

ブラックキング「ほら、あの人結構ストレス溜まると物騒な言葉を出してるからそのリラックস্যヤ」

サンダーダランピア「このままやっていると大暴れしそうだから本

人のストレス発散ので快眠グッズと防音ルームで休んでもらう事にしたツス。ぶっちゃけ笑ってはいけなくて物騒な言葉を発し続けるのはいけないツス」

雄二「そりやあそうだ」

榊「と言うか今回やり過ぎだしな；色々」

説明する2人のを聞いて頷く雄二の後に榊がそう言う。

ブラックキング「本家笑ってはいけないを思い出してもあっちよりやり過ぎとそう言えるかいな？」

明久「あー：うん」

京谷「他番組のを使ってる方じゃこつちがやり過ぎじゃね？」

そう言ったブラックキングのに明久は唸る中で京谷がそう返す。

メガロ「二次創作界でその言葉はないでしょ！お仕置き！」

デーン！

京谷、OUT！

唐突に出て来てメガロがそう言うと言声が流れる。

ティーチ「理不尽!？」

京谷「のおおおおお!!」

パシーン!!

宣告に京谷が絶叫して叩かれた後にアナが説明を開始する。

アナ「とりあえず、本家と同じ様に鍵を見つけてください。また、この時は笑っても良いですが、あそこから出て来る鬼には捕まらない様にしてください。それと雄二と鬼矢さんに変わる助っ人がいますので」

明久「あ、いるんだ」

榊「助っ人で誰だ？」

あっちやあっち！とブラックキングが言った方を見ると1人の青年が走って来る。

サンダーダランビア「と言う訳で鬼矢さんの仲間の白麟黄 純さんともう1人が助っ人に入ります」

純「やあ、今回は宜しくね」

榊「あと一人は誰だ？」

そう言うサンダーダランピアの後に挨拶する純の後に榊が気になつて呟くと…

「ちよつと!?放してくださいよベンケイさん!」

2 「放したらあんちゃんも逃げるだろ。選ばれたんだから腹をくくれやあんちゃんよ」

秀吉「…明久の声じゃな」

明久「僕じゃないよ」

はやて「ヒロ君…じゃないな、口調からして」

なんだなんだ?と誰もが見るともがく青年を抱えた坊さんの様な男性が来る。

アナ「お疲れ様ですベンケイさん」

ベンケイ「おう。とにかく連れて来たぜ」

青年「げふ!」

苦労アナにそう言うってからベンケイと呼ばれた坊さんの様な男性は抱えていたジャージを着た青年を荒々しく降ろす。

ブラックキング「はい、と言う訳で2人目の助っ人は明久はんと同じ声のゼロキスさんやで」

京谷&榊「ちよつとまてええええええ!」

そう言うブラックキングに京谷と榊は叫ぶ。

連れて来られたゼロキスも同じなのかガバツと顔を起こす。

ゼロキス「ホント何事!?なんかいきなり呼ばれたと思つたらおそ松達に強制的に服を脱がされてジャージを着せられたと思つたらいきなり連れてこられたんだけど!?と言うかホントなにこれ!?!」

ベンケイ「あんちゃんも6兄弟やあいつらから笑つてはいけないうてのを聞いただろ?それの中のイベントのにあんちゃんが選ばれたんだよ」

叫ぶゼロキスにベンケイはそう説明する、

ゼロキス「つまりそれって尻叩かれたりタイキックとか食らう奴でしよ!?!」

榊「まあそうだな。ただ、これからあるのはそれ以外にも食らうな」

京谷「スリッパとか色々とな…」

「またも叫ぶゼロキスに榊と京谷はうんうんと頷きながらそう言う。ベンケイ「何言ってるんだあんちゃん。結構注目されると思うぞ」ゼロキス「笑いの意味でね! ああもう、なんか言っても仕方ないから早くやってくれない!」

アナ「はいはい、では、スタートしますね」

純「ふふ、どうなるか楽しみだね」

腹をくくってそう言うゼロキスのにアナはフェッスルを取り出しつつ言い、純もワクワクする。

アナ「ちなみに鬼は本家同様に10分経過で増えます。では、スタートです!」

ピー!!

「笛の合図と共に置かれていたステージから鬼が飛び出して来る。

明久「来た来た!」

秀吉「しかも定番のスリツパじゃ!」

京谷「逃げるぞ!」

四方八方に散らばる8人。

狙われたのは…

ゼロキス「うわ、こっち来てる!」

助っ人のゼロキスで必死に逃げるが捕まってしまい…

パシーン!!

ゼロキス「あいた!」

強烈なスリツパ叩きを受ける。

明久「ホント痛いねあれは」

純「地味に痛いよな」

頭を抑えているゼロキスを見てそう言う明久と純の後に次の鬼が現れる。

ティーチ「定番のハリセンが来ましたぞ!」

はやて「あれも強烈やよね!」

京谷「逃げるぞ!」

再び逃げ回るとハリセンの鬼が目を付けたのは…
はやて「私か!」

はやてでハリセンの鬼に早速捕まり：
バシーン!!

はやて「ぎゃふん！」

明久「ホント凄いな」

ゼロキス「大きく鳴ったな…」

純「良い音だったね」

頭を抑えるはやてを見て明久とゼロキス、純が思い思いに言う中ではやてが合流する。

ティーチ「それで鍵を探すとどこらへんを探した方が良いでしょうかね？」

榊「あの建物の中じゃねえか？」

そう言つて更衣室などがあつた建物を榊は指し、確かにありそうと考える。

ゼロキス「散らばつて探すの？」

はやて「まあ、そうなるな」

京谷「そうしないと見つからないからな……ちやんと隠してあるよな？本物」

秀吉「言いたくなる事は分かるのじゃ…案内役が持つてたりしてるパターンがあるしのう；」

そう言う京谷に秀吉は同意する。

明久「まあ、とにかく…迫ってるし散らばろうか！」

その言葉と共に8人は散らばる。

その8人の内、京谷へとスリツパの鬼が迫る。

京谷「ぬおおおおお!!」

必死に走る京谷だが捕まり…

バシーン!!

京谷「ぐほ!?!」

ハリセンを頭に受ける。

一方で逃げたゼロキスは建物に入っていた。

ゼロキス「うう、鍵はどこかな…」

辺りを見渡しながら探すと箱を見つける。

ゼロキス「あれかな？」

試しに開けるとスイッチが入っていた。

ゼロキス「何これ？」

気になったので試しに押ししてみた。

ぶしやああああああ!!

雄二「うお!？」

それと同時に雄二の方でCO₂ガスが噴射される。

ブラックキングSD『はい、ただいまとある人物がスイッチを押した事で次に出る鬼に特殊な鬼が追加されるぞ』

明久「え!？」

榊「何!？」

告げられた事に誰もが驚き、ゼロキスはあつ、やつちやつたと冷や汗を掻く。

そうしてる間に10分経過する。

アナ『10分経過、鬼を追加します』

秀吉「どういう鬼なんじやろうな」

はやて「せやな…」

榊「嫌な予感がするな…」

アナウンスのを聞いて一旦集まって会話しながらそう言っている
と鬼が迫る。

秀吉「来たのじゃ!」

榊「なんて書いてあるんだ?」

そう言っただけ確認しようとする榊だが足が速いので慌てて逃げる。

そして狙われたのは…

はやて「また私か!」

はやてで捕まってしまう。

ティーチ「はやて殿が捕まったでござる!」

明久「えつと…妊婦体験?」

京谷「は?」

書かれていたのを読んだ明久のになんじやそりやあと京谷と榊と
ゼロキスは首を傾げる。

明久「あー…：そう言えば千雨から聞いた事あるや。妊婦さんがどう
いう感じかを体験できるジャケットがあるんだってさ、丁度臨月位で
どれ位大変かを実感出来るとか」

ティーチ「はあくそうなんですか」

京谷「凄いなオイ；」

思い出して言う明久のに他の面々は感心する中でそれを付けられ
た事でお腹が目立つはやてが合流して来る。

はやて「うん。凄く重たくて走るのが大変やった」

ゼロキス「それは大変だったね」

純「こういうのか特殊な鬼って」

そう返すはやてにゼロキスはそう言うのと純が眩く。

するとバットを持った別の鬼が来る。

ゼロキス「あ、来た！」

秀吉「見るからにケツバットじゃな！」

京谷「こつから飛ぶぞ！」

そう言つて京谷は窓から飛び出す。

そして…：降りた先にいた鬼にキャッチされる。

明久「あ、鬼に捕まった；」

榊「バカだな。こうすればいいのに」

それを見て明久は冷や汗を流す中で榊は壁に張り付きながらそう
言つたが…：先ほどのケツバットの鬼はアクロバティックな動きで榊
を捕まえた。

ティーチ「…：凄い対策をされているでござるな；」

ゼロキス「つてか、京谷つて奴を捕まえたのにパンダつて書いてた
けど」

純「え？パンダ？」

壁から剥がされる榊を見ながらそういうティーチの隣で京谷の方
を見ていたゼロキスがそう言い、純は出て来た言葉にまさかパンダに
襲われるの…：と考える。

明久「あ、ちなみに顔をパンダの様にメイクアップされるだけです」
純「そうなんだ。財団Xなら本当にやれそうだから心配だったよ；」

ティーチ「それは笑えないでござるぞ純氏；」
バシーン!!

補足する明久のにホツとする純にティーチがツツコミを入れてると榊が丁度ケツバツトされる。

榊「いつてえ……なんだよさっきの鬼……」

明久「素でも運動神経抜群な榊たち対策に鍛えられてるんじゃないかな？」

お尻を摩りながらぼやく榊に明久がそう言うのと京谷が戻って来て…誰もが噴いた。

明久「予想通りだとしてもw」

ティーチ「す、凄く笑えますなw」

秀吉「く、くくww」

はやて「あ、あかんわww」

ゼロキス「ぶははははははははww」

純「ぶははははははははwwww!!」

榊「ぶははははははははwwww!」

京谷「笑うなあ!!」

大爆笑する面々にパンダ顔にメイクされた京谷は叫ぶ。

しばらくして歩いているとちよこんとおかれている箱を見つける。

明久「あ、箱だ」

純「もしかしたら鍵が入ってるかもね」

手に取って明久は箱を開けると鍵が入っていた。

秀吉「本家を見るとこれが本物か分かんろう」

はやて「けど使わんと分かんしな」

榊「取り敢えず使ってみるか」

そう言っって一同はグラウンドに戻る。

明久「…今更だけど、もし間違ったら雄二がどうなるんだろう…
本家だとおぼちゃんだったし…」

秀吉「確かに；」

京谷「流石に同じな訳ないよな……」

純「一体なにになるんだらうな」

色々と気になりながら雄二が閉じ込められてるのに近づく。

雄二「来たか」

明久「あー…間違ってたらごめん」

そう言って明久は鍵を差し込もうとする。

明久「えつとあー…うん。駄目だ。大きさは同じだけど形が合わない；」

純「つてことは…」

デーン！

その後には音声が鳴り響き、誰が来るんだとハラハラして…噴いた。そんなメンバーの様子に雄二は恐る恐る振り向き…項垂れる。

雪乃「はあくい雄二♪」

雄二「おふくろかよおおおおおおお!!?」

黒タイツを纏った自身の母親である雪乃の登場に雄二は絶叫する。

ゼロキス「え?あの人お母さん?」

はやて「若いなく」

ティーチ「あれ普通にお姉さんで通るレベルでござるな」

榊「確かにそうだよな；」

京谷「バカテスキヤラの母親って凄い若いんだよな；」

出て来た雪乃に初対面な面々はそう述べて、榊と京谷はうんうんと頷く。

雄二「おい待て、まさかおふくろが…」

雪乃「そうよくお鼻にチュ、チュしてあげるのは小さい頃以来よね」

うふふと笑う雪乃にマジかよ!!!と雄二は絶叫する。

雄二「婆も嫌だが実の親かよ!!」

明久「うんまあ、まだマシ…じゃないかな；」

秀吉「そう…じゃな；」

ティーチ「ええじゃない凄く美人で」

純「うん、雄二君の気持ちホント分かる…」

榊「あくそう言えば純は…」

京谷「何時も姉から逃げていたな；」

絶叫する雄二に明久と秀吉はそう言い、半目で見るティーチの隣で哀れみの籠った目で雄二を見ながら言う純に榊と京谷は冷や汗を掻く。

ちなみに…

霧島「羨ましい…」

清姫「お母さま、羨ましいですわ」

エリちゃんズ「(・ω・)(」

ブーティカアベンジャー「あらあら」

舞台裏で雄二LOVEズが羨ましい目で見ていた。

とりあえず鼻にキスされたのを見届けてから移動しようとし…

ポン

明久「え？」

何時の間にか来ていた鬼に明久が捕まる。

ティーチ「明久殿が捕まった！」

はやて「えつと…幼児？」

純「幼児？」

何それ？と誰もが思っていると別の鬼が来て、明久に何かを飲ませる。

明久「う!？」

秀吉「明久!？」

京谷「な、何が起こるんだ？」

目を見開く明久に誰もが喉を鳴らす。

明久「美味い！」

ずこっ!!

誰もが出て来た言葉にこけた。

ティーチ「何その反応!？」

榊「なんか起きるかと思っただろ！」

京谷「ドキドキさせるな！」

それに誰もが総ツツコミを入れた後…

ポン!!

と言う音と共に明久は煙に包まれた。

ティーチ「と思ったら起こった!？」

はやて「ワントンポ置いたな!？」

京谷「大丈夫か明久!？」

続けて様の現象に誰もが見ると：

明久「ふにゆ?」

小さくなった明久が現れた。

ティーチ&秀吉&ゼロキス「小さくなった!!!?」

はやて「あらかわええ」

京谷「幼児化つてこういう事か…」

ズドドドドドドドドドド!

それにティーチと秀吉にゼロキスは絶叫し、はやてがそう言い、京谷と榊は納得していると：

榊「ん?何の音だ?」

地響きの様な音に誰もが疑問を感じて振り返ろうとして…

その前に全員の前を何かが通り過ぎてしまい、目で追いかけてやうとした面々は追いつけなかった。

そして小さくなった明久がいなくなった事に気づく。

秀吉「明久の姿がない!」

ティーチ「さっきので消えたでござるか!？」

アナ「と言う訳でスローで見ましよう」

ゼロキス「何時の間!？」

驚く面々にアナがノートパソコンを見せる。

そこには：明久を抱き抱える嬉しそうな玲とそれを追いかける明久LOVEズの姿があった。

ティーチ「リア充爆発しろでござるの巻」

秀吉「姉上に姫路達エ…」

京谷「おい、スタツフこれどうするんだー?」

アナ「少々お待ちを、ただいま対処中なので」

思わずそう言うティーチの隣で顔を伏せる秀吉を横目に聞く京谷にアナはそう返す。

ズドズドズドオン!ドゴオオオオオオオン!

榊「なんか物騒な音聞こえてんな；」
聞こえてくる音に誰もが冷や汗を掻く。

ポン！

ティーチ「はっ!?!」

その間に鬼が来ていて、ティーチが捕まる。

はやて「：マツスルドツキングと書いてるな」

榊「ん? ってことは…」

ティーチを連行する鬼に書かれたのを見て言ったはやてのに榊はある程度予想すると：

Xライダー「ドーモ、ティーチ!!さん、Xライダーです」

ティーチ「アイエエエエエ!? Xライダー!?! またXライダーナンデ!?! アイエエエエ!?!」

待ち受けていたXライダーにティーチは絶叫する。

ケツアコアトル「oh! 準備はOKデスね!」

カエサル「ぬおおおお!! 放すのだ!」

そして隣にはケツアコアトルと縛らされたカエサルが転がっていた。

秀吉「またカエサルは何かしたんじゃな」

榊「一体何したんだよ…」

京谷「まあどうせ碌なことじゃないんだろうなあ」

転がっているカエサルに呆れる秀吉達3人の後にXライダーとケツアコアトルはティーチとカエサルを用意されたリングの上に引きずって連れて行った後に上へと放り投げ、2人は高くジャンプし、Xライダーがティーチへとキン肉バスター、ケツアコアトルがカエサルにキン肉ドライブを仕掛け…

Xライダー&ケツアコアトル「マツスルドツキング!!」

仮面と英霊のダブルライダーの合体技を炸裂させた。

ティーチ「ごは!?!」

カエサル「(チーン)」

はやて「おう、強烈」

ゼロキス「あれは受けたくないな…; ;」

榊「大丈夫か？あいつら……」

崩れ落ちる2人を見て各々にそう漏らした後にあっさり起き上がったティーチがててと戻って来る。

ティーチ「ホント……きつかったでござる」

ゼロキス「良く動けるね；」

はやて「せやな」

頭を抑えるティーチにゼロキスとはやてがそう言った時……

??「見参ログイン!!」

いきなり誰かが現れ、現れたのにゼロキスがあっ！と声を上げる。

ゼロキス「シヤナオウさん!?なんで!？」

シヤナオウ「うむ、リトルになった吉井明久を愛でたいと言う女性陣のレジスタンスが続いてるので捕まってはいけませんが終わるまで急遽ログインする事になった」

秀吉「姫路達……」

純「一体どんだけ抵抗続けてるの……」

榊「ネロ達、強いからな」

驚いて聞くゼロキスにシヤナオウが参加する理由を答えると秀吉は空を仰ぎ、純と榊は呆れる。

シヤナオウ「む？早速来たようだぞ」

ゼロキス「うわマジ!？」

純「皆！バラバラに逃げるよ！」

榊「おう！」

シヤナオウからの言葉と共に8人はそれぞれ分かれる。

鬼が目を付けたのは……

シヤナオウ「む？こちらにターゲットイングしたか」

シヤナオウで走るシヤナオウへと鬼は追いついて捕まえる。

捕まえた鬼はスリッパの鬼だったのでシヤナオウはスリッパで頭を叩かれる。

バシーン！

シヤナオウ「ぬう!?なかなかこのトレーニングはくやれないな」

純「意外と痛いよねそれ」

叩かれた所を抑えながらそう言うシヤナオウに近づいた純がそう言う。

秀吉「鍵を見つけたのじゃ！」

はやて「うちもく」

榊「俺もだ」

京谷「こつちもあつたぞ」

すると合流して来た4人がカギを見せて言う。

ゼロキス「一気に見つかったな…」

純「もしかしたら全部偽物かもね」

ともかくにもカギは見つかったので向かおうとして…

シヤナオウ「む？鬼が来たぞ！」

ティーチ「退避ですぞ！」

そう言つてそれぞれ逃げ、鬼が狙いを付けたのは…純であつた。

純「僕ううううううう!!」

そのままポンと捕まる。

ゼロキス「えつと…ワンワン大行進？」

ティーチ「犬の風船とかでしょうか？」

誰もが書かれていたのに？マークを浮かべていると純の腰に…骨がくり付けられた縄が付いたベルトが装着される。

またもどう言うのか分からないのでん？となると犬の鳴き声が聞こえて来て…純へと沢山の犬が突撃する。

ティーチ「純殿おおおおお!!」

アナ「ちなみにこの犬達はバニングス家の協力の元です。後骨はカラットジューシーのです」

秀吉「それは良い臭いするのう；」

榊「んなこと言つてる場合か！大丈夫かい!？」

それにティーチは絶叫する隣でそう言うアナのに秀吉は冷や汗を掻いてから榊がそう言う。

ちなみに純は…犬たちに顔を舐められてくすぐったそうにしていた。

純「あははははwwくすぐったいよもう」

ぺろぺろと舐める犬たちにそう言った後に純は起き上がる。
そのまま犬たちは骨を啜える。

ゼロキス「動き辛そう」

榊「あれじゃあすぐに捕まるんじゃないね？」

と言っているのと鬼が来てまたか！と誰もが逃げる。

ポン！

はやて「私か！」

その後にはやてが捕まる。

秀吉「…三角…木馬；」

ティーチ「え、まさか…」

京谷「マジか…」

沖田「へいへい」

龍田「あら〜良い子が来たわね〜」

書かれていたのに誰もが冷や汗を掻く中で…三角木馬を持ってド

Sコンビが来た。

はやて「あー！あー！あー！！色々!!？」

ティーチ「わーお；」

ゼロキス「妊婦な恰好の人が拷問って；」

榊「色々…アウトだよな；」

純「うん…」

沖田と龍田に責められているはやてを見て各々にコメントするのであった。

1分後、はやては解放された。

はやて「はあはあ…と、とにかく鍵をやろうか…」

純「そ、そうだね…」

疲れた顔で言うはやてに純が代表で頷く。

秀吉「それで誰からやるのじゃ？」

榊「んじやあ俺から行くぜ！」

京谷「頼んだぞ榊」

そう言っつて榊がチャレンジして鍵を試しに入れてみる。

結果は…

デデーン!

やっぱダメだったか…と榊が思っていると…

コンボイ「ガツデム!!」

サングラスを付けたコンボイが現れた。

ゼロキス「な、何あれ!?!」

シヤナオウ「カムイ殿の様な生命体か!」

純「あーこれは……」

榊「すまん、雄二……」

秀吉「いや、榊…これはお主だと思うぞ…よく見るのじゃ……」

雄二「ああ、ホントにな」

驚くゼロキスとシヤナオウの隣で察する純の後にそう言う榊だったが秀吉と雄二の言葉にえ?となった後に…確かにコンボイが現れたのはボックスの外側からであった。

コンボイ「お前か!間違えたのは!」

榊「え?あ、はい……」

迫るコンボイに榊は頷く。

コンボイ「良く言った。歯を食いしばれ!」

バチーリーリーリーーン!!!

榊「ぐおっほ!!!」

強烈な(一応手加減)ビンタが炸裂して、榊は用意されていたマットの上に崩れ落ちる。

コンボイ「ガツデム……」

秀吉「おおう……」

ゼロキス「きつそう……」

純「まさかのこっち側か……」

ティーチ「いや、使用した側にお仕置きが来るのは近年であった事でありませうからな……」

去って行くコンボイから震えている榊を見て言う純にティーチがそう教える。

秀吉「つ、次はわしが行こう」

ティーチ「ガンバですぞ;」

シヤナオウ「フアイトだ秀吉殿！」

純「頑張れ秀吉くん！」

と言う訳で次に秀吉が挑み…結果は…

デデーン！

秀吉「わしもじやった…」

清水「秀吉いいいい!!」

外れでそこに清水が駆け寄って来て…

こちよこちよこちよこちよ

秀吉「わははははははは!」

清水「ホントなんで大きくなるのです!と言うか巨乳になったお姉さま並とか優子義姉様の気持ちがあめっちゃ分かりますわ!!」

強烈なくすぐりを炸裂させた。

ティーチ「うーん、このイチヤイチヤ」

ゼロキス「羨ましい…」

純「羨ましいのアレ；」

それに思わず呟くティーチの後にそう言うゼロキスに純は冷や汗書いて聞く。

ゼロキス「いやだって、あの子男の子だからあんなに女の子に積極的に絡まれるって言うのがね…」

シヤナオウ「なんと!?!秀吉殿はボーイだったのか!」

榊「気づかなかったのか…。今はある食べ物でああなってるんだよ」

ティーチ「いや榊殿、事情を知らないで一目で分かれと言うのは酷じやないだろうか?しかも秀吉殿ですし；」

理由を言うゼロキスにシヤナオウは驚き、榊のにティーチはそう言う。

京谷「あー確かに；」

はやて「しかも今は胸もあるんやし分からへんって」

シヤナオウ「しかし、良くわかったなゼロキス殿」

ゼロキス「まあ、大体、雰囲気とかで分かるからね」

ティーチの言い分に納得する京谷の後にはやてがそう言う隣で

シヤナオウは感嘆し、ゼロキスがそう返す。

少しして顔を赤らめて清水は去り、秀吉も顔を赤くしながら合流する。

秀吉「ぜーはー…つ、次は京谷でどうじゃろうか？」

京谷「俺か…よし」

言われて京谷は緊張しながら登って鍵を差し込みとうとする。

結果は…

デデーン！

京谷「やつぱ駄目か!？」

結果はハズレで榊は崎守が来るかな…と思っていると…

しろボン「ハズレを引いた人は君かい？」

まさかのしろボンの登場に榊はなんでやねんと思いつつ京谷を指す。

榊「ああ、そいつだぜ」

しろボン「んじゃあ…パイをプレゼント！」

そう言つて京谷の顔面にパイを叩き付ける。

ティーチ「さらに白くなったw」

純「ぷぷぷwww」

じゃあねとしろボンが去った後に顔にパイを張り付けたままの京谷にメンバーは笑う。

いよいよ鍵は1つとなり、はやてはごくりと息を飲む。

はやて「さて、最後はうちやな」

純「はたしてそれが本物なのか…」

そう言つてはやては近づく。

手に持った鍵を差し込み…そして…

ガシャン!!

鍵が周り、扉が開いた。

はやて「やったああああああ!!」

ゼロキス「開いた！」

純「これで！」

鍵が開いた事に誰もが喜んだ後に雄二がやれやれと出て来る。

雄二「2回目のおふくろのが来なくて良かったぜ…」

榊「あははは；」

そうぼやく雄二に榊は苦笑する。

ホントだよねと純もうんうんと頷いている。

ゼロキス「終わって良かった」

シヤナオウ「うむ！これにてミツシヨンコンプリートだな」

京谷「ふう、なんとか終わったな」

誰もが安堵の息を吐くとおーいと言う声と共に明久が来る。

秀吉「明久：無事じゃったのじゃな」

明久「えつと：なんか飲まされた後のが全然記憶になくて：何があつたの？」

純「あー記憶ないんだ…」

榊「薬の副作用か？」

頭を搔いて言う明久のに純と榊は呟く。

明久「ただ：周りで姉さんや姫路さん達が倒れてて、なんか悔いなしとか色々と言つてた」

ティーチ&ゼロキス「こわっ!？」

シヤナオウ「ふむ、ミステリーだな」

はやて「不思議でも何でもないんやけどね；」

榊「確かにね；」

純「んじゃあそろそろ僕達はここで失礼するよ」

明久の言った事に叫ぶティーチとゼロキスの後にそう言うシヤナオウにはやてがツツコミ、榊も同意する中で純がそう言う。

ブラックキングSD「あー、それやけど、純さんには鬼矢さんに変わってこのまま笑ってはいけないに参加して貰えると嬉しいんやけど」

すると近づいて来たブラックキングSDが言った事にえ？となる。突如出てきた選手交代、果たしてなぜ純が鬼矢と入れ替わって参加して欲しいと言われたのか…

交代の理由からレクレーション大会まで

前回の最後、突如お願いされた交代、それには誰もが戸惑う。

純「なんで？僕これから姉さんとお茶のみながらこれ見ようと思ってるんだけど」

サンダーダランビア「いやー運営とも会議したんツスけど、鬼矢さんが強烈なネタでやらんと爆笑させへんのとあんまイライラさせていると大暴れしそうだから鬼矢さんを入れ替わりで参加して貰った方が良いんじゃないかなと言う結果になったツス」

榊「あー確かに…」

京谷「鬼矢全然笑ってないしな…」

なぜかを聞く純にサンダーダランビアが答え、理由に榊と京谷は納得する。

純「成程ね…まあ、鬼矢、あまりこういうのに向いてないんだよね」

アナ「ちなみにあなたのお姉さんから参加する事に関しては本人が承諾したら良いとの事で、無理なら鬼矢さんを抜いて7人で進行する事になります」

雄二「成程な」

榊「どうする純」

納得してから肩を竦める純へとそう伝えるアナに誰もが納得して榊が聞く。

純「んじゃあ…参加させてもらおうかな」

アナ「ではこれを食べてください」

折角だし…と言った純はそう言って差し出されたペアと鬼矢が着ていたのと同じピチピチの服にあ、なんか参加するの後悔したくなつたと思う中でアナがある物を見せる。

『私、西行寺幽々子は女体化しても純ちゃんの愛を変わらぬ事を誓い、にやry暴れない事をここに記します。 西行寺幽々子』

純「……（涙）」

明久「……………（ポン）」

心底、姉からの愛に涙を流す純に明久は無言で慰める。

その後、ペアを飲んで泣く泣く着替えた純と共に部屋へと戻る。

純「ああ、まさか鬼矢が着されていたのを着る羽目になるなんて…」
恥ずかしさで顔を覆っている純にティーチが恐る恐る話しかける。

ティーチ「じゅ、純殿、ここは一つ福笑いをするのはどうでござろうか；」

榊「福笑い？」

京谷「そんなのあったか？此処に？」

そう提案するティーチに榊と京谷は首を傾げる。

ティーチ「あったよ！マリオメーカーの印象が大きかったけど拙者の机の引き出しの2段目に入ってたでござるよ」

明久「入ってたね」

榊「笑い系のはあるのか…」

雄二「普通に笑いのだろう」

必死に言うティーチのに思い出して言う明久のに呟く榊に雄二はツツコミを入れる。

京谷「ああ、そうだったな！」

榊「それをやる前に雄二が連れて行かれたからな…まあ、何かのイベントまでやって見るか」

やっと思い出した京谷の後に同じ様に思い出した榊は頷いてからそう言う。

と言う訳で早速福笑いをやって見る。

ちなみに目隠しはないので目を瞑ってである。

渡す役であるティーチ以外も見ない様に背を向けている。

ティーチ「では、まずは目の所を渡すでござるよ」

純「うん、分かった」

ほいと手渡すティーチに純は渡されたのを目の前の板に勘で置き、もう片方を隣に置く。

ティーチ「次は髭を渡すでござる」

純「髭だね」

次に純は自分が置いた目の動かさない様に確認しながら置く。
ティーチ「次は眉毛を渡しますぞ」

純「眉毛ね。分かった。次はなに？」

そう言つて渡されたのを置きながら純は聞く。

ティーチ「残りは口と鼻でござる。どっちが先でよろしいでしょうか？」

純「それじゃあ口で」

あいよ！と渡されたのを置き、最後の鼻を置いた後に出来栄えは…と目を開け：

結果：目が左右逆で鼻と口が逆位置なりヨティーチの完成

明久「ぶふw」

雄二「おまw渡すの逆にしたろw」

ティーチ「笑いを取りましたw」

はやて「あかん。普通に口の形が鼻に近いのもあつたからかw」

秀吉「これはw w」

榊「ぶははははははははw w w!!」

京谷「これは、我慢無理w w w」

純「あははははははw w w」

デーン！

全員、OUT！

ティーチの策略に本人も含めて誰もが爆笑してしまう。
バシーン！

明久「福笑いはマジ笑つちやうよね…」

ティーチ「もう1回誰かやる？」

榊「や、止めとこうぜ…」

勧めるティーチに榊は断る。

もしもやつたらまた笑いそうになると思つてである。

えーと残念がるティーチを後目に明久は福笑いを片付ける。

そこにアナとブラックキングたちが来る。

アナ「皆さん。他の人と交流するレクレーション大会をしますので
付いて来ててください」

ブラックキングSD「着いたら笑ってもええけど負けたら罰ゲームあるからな」

明久「レクレーションゲームか」

榊「相手は誰なんだろうな」

純「一体どんなゲームするんだろうね」

そう言う2人のに誰もがなんなのだろうと思う中でそれぞれ赤と青のジャージを渡される。

ちなみにそれぞれ以下の組み合わせである。

青：明久、雄二、秀吉、純

赤：ティーチ、榊、京谷、はやて

着替え終わった後に8人は本家の様なスタジオの様な場所に案内される。

そこでは同じ様に赤と青のジャージを着た面々がいた。

メンバーは以下の通り

青：ヒロ、ゼロキス、シャナオウ、インヘルミナ

赤：伊御、バディア、つみき、正邪（こつちあつちの方）

雄二&ティーチ&榊&京谷「カルテットで声と同じのが揃った：！」

明久「あ、伊御にヒロくん！」

ヒロ「どうも明久さん！」

ゼロキス「あ、さつきぶり」

純「うん、ホントだね」

インヘルミナ「なんと、声が同じのが4人になったな」

伊御「なんだか会話だけ聞くと独り言に聞こえるね」

ワイワイ言う4人を見て興味深そうに見るインヘルミナの聞きながら伊御はそう言うのに誰もが同意する。

クロエ「さあ始まりましたレクレーション大会。司会は私、クロエ・ボーデヴィツヒと：」

シュバルツ「シュバルツ・ワーゲンが務める。今回は番組が違うが色取忍者をやると思う。ぶつちやけると顔芸は今回では出来ないからだ」

明久&純&ゼロキス「メタイ!!」

インヘルミナ「うむ、多重奏だな」

雄二「いや違うだろ女王様；」

榊「これは多重奏じゃないから；」

ツツコミを入れる明久達のを聞いてずれた発言をするインヘルミナに雄二と榊はツツコミを入れる。

シュバルツ「なお、それぞれ4人ずつ選出して計4回やる。それで勝ち負けによつて罰ゲームを受ける事になる」

はやて「成程な」

純「ちなみに罰ゲームってのは？」

説明するシュバルツに純は質問する。

シュバルツ「罰ゲームはタイキックで一番ダメだと思つたのをチーム全員で決めて代表が受ける事になる」

雄二「そりやまた」

シャナオウ「ふむ、責任重大だな」

京谷「確かに……」

答えたシュバルツのに雄二と京谷は気合を入れる。

クロエ「それでは、最初の組み合わせは以下の通りです」

その言葉と共に組み合わせが表示される。

1回目：明久↓つみき↓ヒロ↓バディア↓ゼロキス↓伊御↓純↓正邪↓明久に戻る。

雄二&榊「(早速カルテットを出しよつた……)」

伊御「これは間違いないようにしないとね……」

つみき「そうね……」

組み合わせに伊御とつみきは注意する様にする。

シュバルツ「あ、ちなみに色取忍者の前振りはしなくても良いからな」

明久「あれ？良いの？」

純「もしかして省略？」

告げられた事に誰もがハテナマークを浮かべる中でシュバルツがなぜかを答える。

シユバルツ「考えてみる。番組とはいえ、メンバー内に一国の女王がいる。その女王にあれをやらせるのはどうかと思うだろ…」

雄二「あー…」

秀吉「メタイが確かに…」

榊「そうだよな…」

京谷「そりや仕方ないな…」

理由を聞いて誰もが納得する。

クロエ「分かった所で皆さん。罰ゲームを受けない様に頑張りましょうね」

純「はい」

正邪「んじゃ始めるぞ」

シユバルツ「号令は吉井明久が行う様に」

明久「はい、じゃあ行くよ！せーの！」

『シュツシュツ！シユシユシユ！』

明久「赤い車！」

『シュツシュツ！』

つみき「消防車！」

『シュツシュツ！』

つみき「黄色い車！」

『シュツシュツ！』

ヒロ「ブルドーザー！」

『シュツシュツ！』

ヒロ「青いロボット！」

『シュツシュツ！』

バディア「グラランダイク！」

『シュツシュツ！』

バディア「白いロボット！」

『シュツシュツ！』

ゼロキス「ガンダム！」

『シュツシュツ！』

ゼロキス「赤いロボット！」

『シュツシュツ!』

伊御「エヴァンゲリオン式号機!」

『シュツシュツ!』

伊御「赤いライダー!」

『シュツシュツ!』

純「仮面ライダーバロン!」

『シュツシュツ!』

純「紫色のライダー!」

『シュツシュツ!』

正邪「仮面ライダー王蛇!」

『シュツシュツ!』

正邪「白いライダー!」

『シュツシュツ!』

明久「仮面ライダーマツハ!」

『シュツシュツ!』

明久「赤い景色!」

『シュツシュツ!』

つみき「夕焼け!」

『シュツシュツ!』

つみき「青い花!」

『シュツシュツ!』

ヒロ「ヒヤシンス!」

『シュツシュツ!』

ヒロ「緑の花!」

『シュツシュツ!』

バディア「……」

デーン!

長く続いたがバディアが言えずに終わる。

クロエ「はい、バディアさんアウト」

シュバルツ「ちなみに緑の花だと春蘭と呼ばれるのやアスパラガスが実になる前の花が緑だ」

明久「そうなんだ」

伊御「知らなかったな」

補足するシユバルツのに誰もがあーと納得する。

ゼロキス「ヒロは知ってたの？」

ヒロ「はい、マリーさんがお花の色々と見ていたので一緒に見てる内に」

雄二「成程な」

クロエ「と言う訳でメンバーチェンジです。順番はこの通り」

そう言つてメンバーと順番が表示される。

雄二↓榊↓シャナオウ↓京谷↓秀吉↓ティーチ↓インヘルミナ↓
はやて↓雄二に戻る。

シャナオウ「勝負と行こう！」

榊「ああ！」

雄二「んじゃあ行くぜ！せーの！」

『シユツシユツ！シユシユシユ！』

雄二「赤い車！」

『シユツシユツ！』

榊「消防車！」

『シユツシユツ！』

榊「赤い花！」

『シユツシユツ！』

シャナオウ「バラ！」

『シユツシユツ！』

シャナオウ「黒いロボット！」

『シユツシユツ！』

京谷「ブラックナイト！」

『シユツシユツ！』

京谷「赤い食べ物！」

『シユツシユツ！』

秀吉「ナポリタン！」

『シユツシユツ！』

秀吉「赤い景色！」
『シュツシュツ！』
ティーチ「夕焼け！」
『シュツシュツ！』
ティーチ「茶色い食べ物！」
『シュツシュツ！』
インヘルミナ「カレー」
『シュツシュツ！』
インヘルミナ「緑の果物！」
『シュツシュツ！』
はやて「青林檎！」
『シュツシュツ！』
はやて「紫色の果実！」
『シュツシュツ！』
雄二「ブドウ！」
『シュツシュツ！』
雄二「黄色い飲み物！」
『シュツシュツ！』
榊「バナナジュース！」
『シュツシュツ！』
榊「紫色の果実！」
『シュツシュツ！』
シャナオウ「ブドウ！」
『シュツシュツ！』
シャナオウ「紫色の果実！」
『シュツシュツ！』
京谷「ブドウ」
『シュツシュツ！』
京谷「紫色の果実！」
『シュツシュツ！』
秀吉「ブドウ！」

『シュツシュツ!』
秀吉「紫色の果実!」
『シュツシュツ!』
ティーチ「ブドウ!」
『シュツシュツ!』
ティーチ「赤い果実!」
『シュツシュツ!』
インヘルミナ「イチゴ!」
『シュツシュツ!』
インヘルミナ「銀色の巨人!」
『シュツシュツ!』
はやて「ウルトラマン!」
『シュツシュツ!』
はやて「黒い車!」
『シュツシュツ!』
雄二「霊柩車」
『シュツシュツ!』
雄二「白い車!」
『シュツシュツ!』
雄二「救急車」
『シュツシュツ!』
榊「黄色い車!」
『シュツシュツ!』
シャナオウ「ブルドーザー!」
『シュツシュツ!』
シャナオウ「黄色い車!」
『シュツシュツ!』
京谷「ブルドーザー」
『シュツシュツ!』
京谷「黄色い鳥!」
『シュツシュツ!』

秀吉「ブルツ！あ!!？」×
デデーン！

こちらも長く続いたが秀吉が間違えて終わった。

クロエ「はい、秀吉さんアウト」

シュバルツ「ちなみに黄色い鳥はヒヨコ以外にチョコボやヒヨコに
ポケモンのサンダーもだな」

純「確かにね」

補足するシュバルツに純は当て嵌まるねと頷く。

クロエ「次の組み合わせは以下の通りです」

そう言ったクロエの言葉と共にメンバーと順番が表示される。

明久↓榊↓ヒロ↓京谷↓ゼロキス↓ティーチ↓純↓はやて↓明久
に戻る。

明久「入れ替えてになるんだね」

榊「そうみたいだな」

順番を見て言う明久に榊も同意する中で始まる。

明久「それじゃあ行くよ！せーの！」

『シュツシュツシュシュシュ！』

明久「緑のロボット！」

『シュツシュツ！』

榊「ケルデイルムガンダム！」

『シュツシュツ！』

榊「赤いロボット！」

『シュシュツ！』

ヒロ「スカイダイナー」

『シュツシュツ！』

ヒロ「黒いロボット！」

『シュツシュツ！』

京谷「ブラックナイト！」

『シュツシュツ！』

京谷「青い食べ物！」

『シュツシュツ！』

ゼロキス「甘エビの卵！」
『シュツシュツ！』
ゼロキス「赤い飲み物！」
『シュツシュツ！』
ティーチ「トマトジュース！」
『シュツシュツ！』
ティーチ「青い飲み物！」
『シュツシュツ！』
純「ブルーハワイ！」
『シュツシュツ！』
純「白い飲み物！」
『シュツシュツ！』
はやて「牛乳！」
『シュツシュツ！』
はやて「黒い飲み物！」
『シュツシュツ！』
明久「コーラ！」
『シュツシュツ！』
明久「黒い動物！」
『シュツシュツ！』
榊「カラス！」
『シュツシュツ！』
榊「茶色い動物！」
『シュツシュツ！』
ヒロ「サル！」
『シュツシュツ！』
ヒロ「白い動物！」
『シュツシュツ！』
京谷「ホワイトタイガー！」
『シュツシュツ！』
京谷「赤い野菜！」

『シュツシュツ!』
ゼロキス「トマト!」
『シュツシュツ!』
ゼロキス「緑色の果物!」
『シュツシュツ!』
ティーチ「メロン!」
『シュツシュツ!』
ティーチ「赤い果物!」
『シュツシュツ!』
純「イチゴ!」
『シュツシュツ!』
純「黄色い果物!」
『シュツシュツ!』
はやて「バナナ」
『シュツシュツ!』
はやて「黒い果物!」
『シュツシュツ!』
明久「オリーブ!」
『シュツシュツ!』
明久「茶色い食べ物!」
『シュツシュツ!』
榊「カレー」
『シュツシュツ!』
榊「黄色い食べ物!」
『シュツシュツ!』
ヒロ「オムライス」
『シュツシュツ!』
ヒロ「赤い食べ物!」
『シュツシュツ!』
京谷「タンタンメン!」
『シュツシュツ!』

京谷「青い車！」

『シュツシュツ！』

ゼロキス「ゴミ収集車」

『シュツシュツ！』

ゼロキス「赤い車！」

『シュツシュツ！』

ティーチ「しょうしょうしゃー！」

『シュツシュツ！シュシュ』

クロエ「はい、アウト」

ティーチ「しまった！消防車と言おうとして連続でいってもうた
！」

榊「なんだよししょうしゅうしゃって；」

はやて「榊くん。ちやう。しょうしょうしゃやw」

宣言するクロエの後に頭を抱えるティーチに榊は呆れ、はやてがそ
う言う。

雄二「んであと1回か」

伊御「今記録はどうなってます？」

シュバルツ「今は青が2勝1敗、赤が1勝2敗と言う感じだ。赤は
勝たないときついぞ」

眩く雄二の後に聞く伊御にシュバルツは答える。

京谷「マジか…」

バディア「これは負けられないな」

クロエ「と言う訳で順番表示です」

聞いて気合を入れる赤チームのを聞きながらクロエは順番を表示
する。

1回目：雄二↓つみき↓秀吉↓バディア↓シャナオウ↓伊御↓イン
ヘルミナ↓正邪↓雄二に戻る。

正邪「なるほど、こんな順番か」

雄二「んじゃあ、行くぜ！せーの！」

『シュツシュ！シュシュシュ！』

雄二「白い猫！」

『シュツシュツ！』
つみき「キャトラ！」
『シュツシュツ！』
つみき「黄色い食べ物！」
『シュツシュツ！』
秀吉「オムライス！」
『シュツシュツ！』
秀吉「青い飲み物！」
『シュツシュツ！』
バディア「ブルーハワイ！」
『シュツシュツ！』
バディア「黒い飲み物！」
『シュツシュツ！』
シャナオウ「コーラ！」
『シュツシュツ！』
シャナオウ「ピンクの飲み物！」
『シュツシュツ！』
伊御「チェリージュース！」
『シュツシュツ！』
伊御「緑色の飲み物！」
『シュツシュツ！』
インヘルミナ「メロンソーダ！」
『シュツシュツ！』
インヘルミナ「茶色い飲み物！」
『シュツシュツ！』
正邪「カフェオレ！」
『シュツシュツ！』
正邪「赤い飲み物！」
『シュツシュツ！』
雄二「トマトジュース！」
『シュツシュツ！』

雄二「黒い飲み物！」
『シュツシュツ！』
つみき「コーラ！」
『シュツシュツ！』
つみき「黄色い飲み物！」
『シュツシュツ！』
秀吉「バナナジュース！」
『シュツシュツ！』
秀吉「赤い飲み物！」
『シュツシュツ！』
バデア「トマトジュース！」
『シュツシュツ！』
バデア「黒い食べ物！」
『シュツシュツ！』
シャナオウ「コーラ！」
『シュツシュツ！』
シャナオウ「黄色い食べ物！」
『シュツシュツ！』
伊御「バナナジュース！」
『シュツシュツ！』
伊御「白い調味料！」
『シュツシュツ！』
インヘルミナ「塩！」
『シュツシュツ！』
インヘルミナ「白い飲み物！」
『シュツシュツ！』
正邪「牛乳！」
『シュツシュツ！』
正邪「黒い食べ物！」
『シュツシュツ！』
雄二「イカスミスパゲッテイ！」

『シュツシュツ!』
雄二「黒い食べ物!」
『シュツシュツ!』
つみき「イカスミスパゲツテイ!」
『シュツシュツ!』
つみき「白い食べ物!」
『シュツシュツ!』
秀吉「カルボナーラ!」
『シュツシュツ!』
秀吉「黄色い食べ物!」
『シュツシュツ!』
バディア「オムライス!」
『シュツシュツ!』
バディア「黄色い食べ物!」
『シュツシュツ!』
シャナオウ「オムライス!」
『シュツシュツ!』
シャナオウ「赤い食べ物!」
『シュツシュツ!』
伊御「キムチ鍋!」
『シュツシュツ!』
伊御「黄色い飲み物!」
『シュツシュツ!』
インヘルミナ「バナナジュース!」
『シュツシュツ!』
インヘルミナ「茶色い食べ物!」
『シュツシュツ!』
正邪「カレー!」
『シュツシュツ!』
正邪「赤い車!」
『シュツシュツ!』

雄二「キムっ！しまった！」

クロエ「残念ですがアウトです」

シュバルツ「食べ物が続いたからこそだな」

長く続いたらが正邪の切り替えに引っかけかかって雄二は詰まったのを指摘してクロエとシュバルツはそう言う。

雄二「ああ、くそ！」

明久「ドンマイ雄二；」

純「見事に引っかけたね；」

頭をガシガシ搔く雄二に明久と純はそう言う。

シュバルツ「さて、結果的に引き分けになったが罰ゲームはどうするべきか；」

クロエ「ここは2人選んで罰を受けて貰う事にします？」

顎を撫でて呟くシュバルツはクロエはそう提案してそれが良いかと頷く。

シュバルツ「お前たちのにどう思う？」

明久「どう思うって言われてもね」

ヒロ「ですね」

ゼロキス「やっぱ普通に間違えた人とか？」

純「それが妥当だね」

聞くシュバルツに声が同じカルテットがそう言う。

雄二「と言うかお前等だけで喋るな；」

榊「一人でしか喋ってないように聞こえるだろ；」

ティーチ「んでまあ、間違えたの拙者とバディア殿と秀吉殿と雄二殿ですな」

バディア「そうだな；」

そんな4人に雄二と榊がツツコミを入れた後に確認するティーチにバディアは頷く。

クロエ「そうですね；引き分けでしたので；ジャンケンで負けた人2名がタイキックを受けると言う事で」

秀吉「2人なんじやな」

榊「まあ仕方ないか」

そんな訳でせーのの合図と共に：

秀吉&ティーチ&雄二&バディア「ジャンケンポン！」

結果

バディア：パー

雄二：パー

秀吉：グー

ティーチ：グー

シュバルツ「決まったな」

デーン！

秀吉、ティーチ、タイキツク!!

宣言と共にインペラーとXライダーが来て：

ドゴーン！

ティーチ「おおお!!」

秀吉「ぎゃん!!」

ヒロ「痛いですね」

ゼロキス「ホント見てる分もね」

伊御「痛いよね」

つみき「…ん」

それを見て各々に呟いた後にクロエが締めに入る。

クロエ「はい、と言う訳でレクレーション大会でした」

いずれまたくと言うクロエの後に拍手で締めくくられた。

終わった後、また笑いの刺客が襲い掛かる！

部屋戻りからの所長挨拶まで

レクリエーション大会が終わり、部屋へと戻ろうとする一同。
チリンチリン…

自転車のベルの音が聞こえたので一同が見ると…ママチャリに乗ったゲムムとウヴァが通り過ぎる。

明久「ちよw」

雄二&はやて「くっw」

ティーチ「不意打ち過ぎるでござるw」

秀吉「くくw」

純「ぶぶっw w w」

京谷&榊「ぶはっw w w」

デブーン！

全員、OUT！

シニールな光景に全員が笑ってしまう。

明久「あれは普通に笑うね」

純「だよね…うん」

榊「ところでゲムムって悪役じゃなかったか？」

雄二「あー、もしかするとあのゲムムはあいつだな」

秀吉「あの人じゃろうな…と言うかこういう役もあつたんじゃな」

明久のに同意する純の後に首を傾げる榊の後で雄二と秀吉は呆れた顔で言う。

京谷「誰か思い当たるのがいるのか？」

雄二「まあな」

秀吉「純殿以外思いつきり出会つとるしな」

榊「え？俺らもう会つてるのか？」

京谷のにそう言う雄二と秀吉に榊は一体誰だ？と首を傾げる。

しばらくして部屋に戻ると京谷の机の上に…髑髏が描かれたポスターがあった。

明久「これって…」

京谷「ボタンだな…」

誰もが置かれているボタンを見る中で押す？とティーチが目です
言う。

榊は榊で押すべきじゃね？と京谷を見る。

京谷「押すしかないのか…」

全員の視線に京谷は息を飲みながら恐る恐るボタンを押す。
すると鐘の音が響く。

???「聴くが良い。晩鐘は汝の名を指し示した」

明久「この声は!?!」

京谷「ちょ!?!」

榊「…京谷、南無;」

聞こえてきた声に誰もが扉を見る。

そして噴いた…

山の翁(顔にギロロフェイク装着)「……………」

明久&純「ぶふww」

雄二「ぶはw」

秀吉「くくw」

ティーチ「それ反則過ぎるw」

はやて「しゅ、シユールww」

榊「くくくつwwww」

京谷「つ…w」

デデーン!

全員、OUT!

バシーン!

不意打ちに全員が笑い、叩かれた後に山の翁は京谷へと近づく。

山の翁「京谷、タイキック」

京谷「またかよ!?!」

榊「まあそつちで良かったんじゃねえの? 宝具じゃなくて」

デデーン!

京谷、タイキック!

宣言に京谷は叫んだ後にインペラーが来る。

インペラー「とわっ！」

ドゴーン!

京谷「ぎゃああああ!？」

お尻を抑える京谷を後目にインペラーは退出し、山の翁は京谷が起き上がると共に入り口前に行き、出て行くかと誰もが思うと…主むろにギロロフェイクに手を付ける。

明久「あ、脱ぐんだ」

純「あ、もしかして…」

そしてギロロフェイクの下から…ネコアルクカオスの顔が…

明久&純「ぶふww」

ティーチ「二重wwww」

雄二「それもまた卑怯だろw」

秀吉&はやて「くぷぷw」

榊「ぶははははwww!!」

京谷「ひ、卑怯だろそれwwww」

デーン!

全員、OUT!

二重の笑いの策に誰もがまた笑ってしまう。

バシーン!

山の翁「大人げなかったかにや?」

雄二「まだ続けるかw」

ティーチ「もう止めてwww」

純「これ以上はホントに死ぬからwwww」

駄目押しの声ネタに誰もが笑ってしまう。

☆

一方楽屋裏でも

呪腕「ひゃ、百貌と静謐よ。わ、笑ってはいけないぞ」

百貌「わ、分かってる」

静謐「(プルプルプル)」

ブラックキングSD「皆、此処の所長と顔合わせするぜ」

明久「所長と言うと…」

純「財団Xのボス……ってわけじゃないよね？」

雄二「ああ、そうか。純は見えてないもんな」

ティーチ「絶対に笑わせに来るの確定ですな」

そう言う純のに雄二はそう言い、ティーチは腕を組んでそう言う。

榊「一体誰なんだろうな…。まさか一番新しいのと同じネタだった
りして」

雄二「おいおい、流石にそれはねえだろ」

楽屋裏

キヤス狐「……ヤバイですね。予想されかけてますよ」

赤セイバー「そうか？あの男はなかなか読み難いぞ？」

キヤトラ「まあ、普通に予想も出来ない事をするのが十四松だけど
…」

ドラえもん「彼だけ必要な部分以外はアドリブで通してるからね
…；」

心配するキヤス狐のに赤セイバーはそう言い、同じ様に見ていた
キヤトラがそう言い、ドラえもんも大丈夫かな…と心配する。

とにもかくにも全員、所長室へと向かう。

アナ「はい、ここが所長室です」

明久「出るんだらうな十四松；」

榊「気を引き閉めないとな」

そう話してる間に扉を開けてアナは入り、明久達も続く。

良くドラマで映し出される所長室を感じさせる部屋で奥の壁に飾
られている十四松所長の写真に誰もがまた笑いかけるが堪える。

純「ぷっw」

デデーン！

純、OUT！

ただ、純だけは普通に笑ってしまった

バシーン!

純「いてて…つい笑っちゃったよ」

榊「大丈夫か?」

あれはするいな…とぼやく純に榊は声をかけて大丈夫だよと返される。

明久「そう言えば所長の姿が見えないね」

雄二「ん?そう言えばそうだな…どこから来るんだ?」

ピリリリリリリ!

その中で明久は本人がいない事に気づき、雄二も警戒していると着信音が鳴り響く。

なんだなんだと誰もがした方を見ると京谷の携帯が鳴っていた様だ。

京谷「なんだこの番号?」

とにかく試しに出てみた。

京谷「もしもし?」

一体誰だ?…と思いながら言葉を待つ。

自分、十四松、今…

十四松「君の後ろにいマッスル」

一同「どひゃあ!?!」

その言葉と共に何時の間にか京谷の後ろにスマホを持って立っていた十四松に誰もが飛び退る。

明久「び、ビツクリした!?!」

はやて「し、心臓に悪いわ」

ティーチ「ホント驚き!」

榊「何時の間に後ろに居たんだよ!?!」

純「全然気づかなかった…」

京谷「心臓止まるかと思つたぞ!?!」

各々に言う中で十四松は全員の前に移動する。

十四松「と言う訳で改めてこんにちワツフル!自分が此処の所長の十四松ツス!よろしくしマッスル!」

ティーチ「何その挨拶ww」

デデーン!

ティーチ、OUT!

独特な挨拶にティーチは笑ってしまう。

パシーン!

榊「ああ、これだよなこれ」

京谷「十四松と言ったらやっぱりこの挨拶だよな」

それに榊と京谷は頷く中で十四松は8人を見る。

十四松「皆が此度の研修生ツスね。左から順に挨拶をお願いしまッスルハッスル!!」

そう言われて明久から挨拶する。

明久「吉井明久です」

十四松「吉井明久：つまりヨツシーツスね!」

雄二「くっw」

榊「明久がヨツシーw」

純「ぷぷぷw」

京谷「に、似合ってるぞw」

ティーチ&はやて&秀吉「くくくw」

デデーン!

明久以外、OUT!

名前を聞いた十四松のに明久以外が笑う。

パシーン!

十四松「君は?」

雄二「坂本雄二だ」

次に雄二が名乗る。

十四松「坂本雄二：つまりユツデイツスね!」

雄二「どこの玩具の主人公だ!」

明久「い、いや似合ってるよユツディーw」

秀吉「く、くくw」

ティーチ「凄く似合っておりますぞw」

はやて「せ、せやなw」

榊「ユツディーw」

純「ぷははははははは！w w」

京谷「ぷはははははは!!」

デデーン！

雄二以外、OUT！

続けての雄二のに今度は雄二以外笑う。

十四松「次はその可愛い子ツス！」

秀吉「木下秀吉じゃ。女になっておるが男じゃ！」

純「ついでにボクもね」

そう言う十四松に秀吉とついでに純が補足しておく。

十四松「男だったんツスか？…それにしても胸ビッグりあるからヒ
デッスね」

秀吉「ワシはサッカー選手ではないのじゃ!？」

明久「なんでw」

雄二「サッカーボールかよw」

ティーチ&はやて「くぷぷw w」

純「ぷぷw」

榊「まあでもさっきのより普通だな」

京谷「確かにヨツシーとかに比べたらな」

デデーン！

明久、雄二、ティーチ、はやて、純、OUT！

続いている秀吉のに言われた秀吉以外に榊と京谷を除いて笑う。
バシーン！

十四松「はい、その金髪の人！」

榊「俺?!」

次に榊が指名され、榊は驚いた後に名乗る。

榊「俺は戌井榊だ」

十四松「戌井榊……（ピキーン！）つまりファイズツスね」

明久「それいぬい違いw w」

雄二「読みだけじゃねえかw」

秀吉「確かにいぬいじゃがw」

ティーチ&はやて「ぷぷw」

純「なかなか面白いねw」

京谷「確かにww」

榊「フアイズかあ…」

デデーン！

榊以外、OUT！

出て来た言葉に榊以外が笑い、榊もまんざらでもない感じにうんうん頷く。

十四松「次は…ツンツンの人を通り抜けて関西弁の女の人」

京谷「俺、スルーかよ!?!」

まさかの飛ばしに京谷は叫ぶ。

はやて「私は八神はやてと言います」

京谷を横目にはやては挨拶する。

十四松「八神はやて…ああ、執事をやっている人ツスね！」

はやて「それ違います！」

明久「今度ははやて違いw」

雄二「ぷつw」

秀吉「なんとというネタのオンパレードw」

ティーチ「くぷw」

純「ぷぷww」

榊「カタカナと平仮名のチガイww」

京谷「つつww」

デデーン！

はやて以外、OUT！

今度も名前違いで当事者以外笑う。

バシーン！

十四松「次はその髭の人！」

ティーチ「うツス！拙者はエドワード・ティーチと言います！」

次にティーチでティーチが自己紹介する。

十四松「エドワード・ティーチ…先生になった錬金術師ツスね」

エドワード「いや拙者は等価交換してないしクラスはライダーでござるw後はティーチャーでないでござるw」

明久「ちよいと変化球入れてるw」

雄二「やべ、鋼の錬金術師の服を着たティーチを想像しちゃったw」

秀吉「そ、それは似合わぬのではw」

はやて「くぷぷw」

榊「似合わねえよwwww」

京谷「ぶははははww」

純「ぷぷぷぷww」

デデーン！

全員、OUT！

変化球を少し入れた十四松のにティーチを含めて笑付てしまう。

十四松「はい、次はもう1人の性転換してる人」

純「あ、僕？僕は白麟黄純。白い麒麟の麟と黄と書いてはくりんお
うね」

次に純に聞いて純は自己紹介する。

十四松「白麟黄純…つまりホワイトジュラファイエロー純にゃんツス
ね」

純「……え？」

明久「なんで英語w」

雄二「しかもばらけての単語のだしw」

秀吉「ジュラフと言うが動物のきりんではないぞw」

はやて「純にゃんw」

ティーチ「なんでにゃんw」

榊「にゃんかよww」

京谷「にゃんw」

デデーン！

純以外、OUT！

名前を聞いてそう言った十四松のに純は目を点にして、他は笑う。
バシーン！

十四松「んで最後の飛ばした子」

京谷「俺は西原京谷だ」

その後京谷へと聞き、京谷は名乗る。

十四松「西原京谷、ああ、不幸だーーーーー！と叫んだり、追い掛け回されたりする子ツスね」

京谷「いやそれ別!!普通に別!!声は別のだと同じだけど別!!」

明久「別ネタw」

雄二「ある意味似てるけどよw」

秀吉&はやて&ティーチ「ぷっw」

純「ぷぷぷw」

榊「ぶはははは!!」

デデーン!

京谷以外、OUT!

出て来たのに京谷はツツコミを入れて、他の7人は笑う。

バシーン!

十四松「と言う訳で全員の名前を覚えマクノシタ!」

榊「ポケモンか!」

純「んでこれから何するの?」

そう言う十四松のに榊がツツコミを入れた後に純は聞く。

十四松「えつとね……なんだっけ?」

出て来た言葉に思わず8人はよろけた。

楽屋裏

ミルカ「;」

キャトラ「あちゃあ、やっぱりこうなるか……まあその分本人のアドリブで埋めるって事で時間多めにしといたらと提案して通したけど;」

トド松「まあ、十四松兄さんだしね;」

美陽「そう言ってる場合じゃないでしょ;」

月奈「大丈夫でしょうかこれ;」

そんな状況を見てそう言うキャトラとトド松に美陽と月奈は心配する。

戻って明久達。

十四松「あ、そうツス！そうツス！それぞれコードネームを付けるツス！」

明久「コードネーム？」

榊「それって財団Xに所属するから」

京谷「本名が分からないようそうするってことか？」

その通りツス！と京谷のに十四松は頷く。

十四松「ちなみに自分はジューシートツス」

明久「ジューシートツス」

秀吉「それ隠しきれておらんじやろうw」

純「確かにww」

榊「ジューシートツス↓じゅうし↓十四ってかww」

デーン！

明久、秀吉、純、榊、OUT！

告げられたコードネームのに4人は笑う。

十四松「と言う訳でコードネームを自分が付けてあげマツスル！」

はやて「どういうのは付くんやろう？」

京谷「絶対ヤバいのだろ；」

そう言う十四松に京谷はそう言う。

十四松「んじやあ京谷くん！」

京谷「俺か」

自己紹介が最後だったからか最初に来たので京谷はどういうのが来るんだ？と警戒する。

十四松「君のコードネームは…上条当麻」

京谷「だからそれ別うううううう!!後名前ええええええええ!!」

明久「また引きずるw」

秀吉&雄二「くっw」

ティーチ「続けたでござるかw」

はやて「あかんわw」

純「プププw」

榊「それだと長いから当麻で良いんじやねえw」
デーン！

京谷以外、OUT!

告げられたコードネームに京谷は叫び、他のメンバーは笑う。

バシーン!

十四松「次はティーチさん…アルフォンス」

ティーチ「拙者はさつき言われた奴の弟w」

雄二「鎧を着たティーチ…ぷふw」

秀吉「こつちも似合わんw」

明久「確かにw」

はやて「と言うか魔界村のが来るわw」

純「魔界村だとアサーだけどねw」

榊「一回当たったら裸にw」

京谷「二回目は白骨w」

デデーン!

全員、OUT!

今度もまた名前でのネタで全員が笑ってしまう。

それを見てアナ達はああ、普通に笑ってはいけないだなとしみじみ
と思っていた。

バシーン!

十四松「次ははやてさん…たぬう」

はやて「またかい!」

はやてを除いた面々「ぶふwww」

デデーン!

はやて以外、OUT!

続いてはやてでマリオメーカーや机ネタで出たたぬうので明久達
は笑ってしまう。

十四松「次、榊くん」

榊「俺か」

次は自分となり、榊はどんなのが来るのかと考え…

十四松「ロケット団」

榊「なんで!？」

明久「今度は名前繋がりw」

雄二「なんか来るだろうと思ってたがw」

秀吉「いや、ピツタリそうではあるなw」

ティーチ「くぷぷw」

はやて「と言うかコードネームやのうて組織名やw」

純「確かにw」

京谷「ボスつけないとなw」

デデーン！

榊以外、OUT！

今度は組織名が飛び出して榊を除いて笑ってしまう。

バシーン！

十四松「次は秀吉w」

秀吉「わ、わしが出ると何が出るんじや；」

次に呼ばれた秀吉は緊張する。

十四松「田中えり子」

秀吉「それは京谷と似た理由なので作者がやっとするブラウザゲームに

出るキャラじや!!」

明久「また人w」

雄二「しかもやってる人じやねえと分からねえだろw」

はやて「と言うか京谷くんと同じやないかw」

ティーチ「また来るとはw」

純「それ、コードネームじやないw」

榊「確かにw」

京谷「他にはないのか？」

デデーン！

明久、雄二、はやて、ティーチ、榊、純、OUT！

出て来た名前に秀吉はツツコミ、他のメンバーが笑う中で京谷が聞く。

バシーン！

十四松「んじやあ：第三の性別」

秀吉「それはそれでいやじや！」

京谷「んじやあ秀吉だったら自分にどんなの考えるんだ？」

そう言った十四松のを否定した秀吉に京谷は聞く。

秀吉「むう：改めて聞かれると思いつかんのじゃ」

雄二「俺なら思いつく。シユガーだな」

純「シユガー？」

榊「なんでシユガー？」

そう言った雄二のに誰もが首を傾げていると所長室のモニターに音楽と共に何かが流れ出す。

くバレンタイン、秀吉と清水の場合く撮影：FFF団

秀吉「フアツ!？」

純「バレンタインの様子？」

榊「これ：隠し撮りか」

京谷「あーもしかして：」

流れたタイトル名に秀吉は驚く中で映像が始まる。

清水『あ、あの秀吉：チョコです／／／』

秀吉『あ、ありがとうなのじゃ／／／』

初々しく渡す清水と初々しく貰う秀吉ので秀吉は顔を真っ赤にして顔を覆う。

明久「微笑ましいな〜」

ティーチ「感想の違う！けどマジこれ拙者眩しくて見てられない
！」

はやて「眩しいな〜」

雄二「うっ、頭が：」

榊「あー確かにこれはシユガーが合うな〜」

純「そうだね〜；」

京谷「やっぱりな〜；」

デデーン！

明久、OUT!

その様子に明久を除いて各々のコメントを言う。

楽屋裏

FFF団員「ぐはああああああ！」

FFF団員2「須川会長！早速1人が砂糖を！」

須川「くう！やはり俺達にはこれは眩しくて砂糖ざー！ー！」

FFF団員3「会長もやられたぞ！」

キャトラ「…うん。独身と可愛いのが大好きな人には大ダメージね
(呆れ)」

トド松「なんだろうね。普通に羨ましさより眩しさが…」

美陽「なんだか口の中が甘くなってきたわね……」

幽々子「妖夢ー、ブラックコーヒーどんどん持ってきてー」

映像提供者であるFFF団は映像のに数人が倒れ、見ていたキャトラは呆れ、ブラックコーヒーを飲みながらトド松は眉間を揉み、美陽と幽々子は甘さにブラックコーヒーをグイグイ飲む。

戻って明久達

バシーン！

秀吉「遠藤さんの気持ちが分かるのじゃ」

明久「ど、ドンマイ；」

顔を赤くしてしやがみ込む秀吉に明久はそう言う。

十四松「口の中がざらざらするけど続けるツス！次雄二くん…○ツ
デイー」

雄二「アウトオオオオオオオオオオオオ!?」

明久「確かに雄二が言ったけどw」

はやて「凄い変化球をw」

ティーチ「出すとはw」

純「思わなかったよw」

榊「確かにw」

京谷「これ色々大丈夫かw」

デーン！

明久、はやて、ティーチ、純、榊、京谷、OUT！

続けての雄二で場所によって凄く危ないコードネームにまだ恥

ずかしさでしやがんでいる秀吉と雄二を除いて笑ってしまう。

バシーン！

少しして秀吉が立ち直ってから十四松は言う。

十四松「最後、明久くんは……スターダストブルーアイズホワイト
ドラグーンダークネスライトデーモンアッシー」

明久「長い長い長い!!」

雄二「なんで長めにしたんだよw」

秀吉&はやて「ぷぷw」

ティーチ「と言うか光と闇が混ざって最強な感じにw」

榊「混ざりすぎだろw」

京谷「しかも途中の知ってる名前だw」

純「ぷぷぷw」

デーン！

明久以外、OUT！

物凄い長さのに明久がツツコミを入れて他のメンバーは笑う。

十四松「と言う訳でコードネーム決定ッス！」

雄二「俺のは危ないけどな」

京谷「確かに色々とな；」

純「あれ？僕にはないの？」

そう言う十四松に雄二が言つて、京谷も頷くと純が聞く。

確かに純だけ言われてないのに気づいて十四松もああと気づく。

十四松「あ、ごめんッス！えっと……レッツツゴ―陰陽師ってのはど
うッスか？」

純「えっと……？」

明久「それ曲名だw」

雄二「ひでえw」

ティーチ「悪霊退散w悪霊退散w」

はやて「歌ったらさらにあかんw」

秀吉「くぷw」

京谷「ぷぷw w」

榊「ぷぷぷw」

デデーン!

純以外、OUT!

コードネームのが分からない純だがそれ以外の面々は分かって笑ってしまう。

バシーン!!

叩かれるのを見た後にこれで決まりツスねと十四松が笑った時!

ブーブー!

すると突如警報が鳴り出す。

明久「え?何?」

十四松「はっ!これはヒーローが侵入したアラーム!」

榊「なにッ!?!」

京谷「侵入者!?!」

突如響き渡った警報に誰もが驚く。

次回、そのヒーローも笑いを仕掛けて来る!

ヒーロー侵入からおやつまで

前回、ヒーローが侵入したと言うので一体誰が来るんだと明久達は
思う中で十四松やアナに案内される。

十四松「とにかく、防衛隊、出動!!」

明久「防衛隊!?!」

雄二「何が来るんだ?」

純「嫌な予感がするね…」

その言葉と共に現れたのは…

??? 「防衛隊の隊長を務めるのは…」

??? ↓サマーソウル「私だ!!!」

サマーソウルであった。!!!

明久「まさかのw」

雄二「ゼロキスとか出てたからなんとなく予想してたがw」

秀吉&ティーチ「くぷw」

はやて「なんで海パンw」

榊「ぶぶぶw」

京谷「ぶはっ!w」

純「っw」

デーン!

全員、OUT!

出て来た人物に誰もが笑ってしまう。

サマーソウル「と言う訳で! 隊員集合!」

その言葉と共に4人の人物が来る。

ヨシオ「よっしやあやるぜ!」

ナツプル「なんで俺が選ばれたの!?!」

シュガー「呼ばれて飛び出て! よほほほほ!」

ザック「: ナツプルのセリフって俺が言いたいんだけど;」

上記のメンバーが防衛隊員であった。

明久「ナツプルにヨシオw」

雄二「と言うかザックが違和感ありまくりだろうw」
秀吉「大変じゃな」

はやて「2番目の人は名前のパイナップルかいなw」

ティーチ「何と言うかあの3番目の人が誰かとかぶるでっ」

純「確かにww」

榊「色々とカオスなメンバーだなww」

京谷「www」

デデン！

明久、雄二、はやて、純、榊、京谷、OUT！

メンバーの選出に秀吉とティーチを除いて笑う。

サマーソウル「と言う訳で防衛隊、全員集合した！」

十四松「頼りにしてマッスル！」

明久「一体誰が来るんだろう？」

雄二「確かにそうだな」

榊「戦隊かそれともライダーか…」

京谷「財団Xだからライダーの方か？」

明久達は予想していると…予想斜めのが来た。

アルトリア「アルトリアブルー！」

リリイ「あ、アルトリアホワイト／／」

セイバーオルタ「アルトリアブラック」

槍オルタリア「アルトリアネイビー」

セイバーライオン「がお！（アルトリアイエロー）」

4人「5人揃って！セイバー戦隊アルトリア5」

セイバーライオン「がおがおーん！」

明久「最後w」

雄二「これは卑怯だろw」

秀吉「予想斜め過ぎじゃw」

ティーチ「ホントに最後w」

はやて「か、かわええw」

榊「最後おかしいだろww」

京谷「ぶっふww」

純「と言うか戦隊なのに赤くないww」

ドドーン！と予想斜めなメンツに全員思わず笑ってしまう。

デデーン！

全員、OUT！

バシーン！

アルトリア「赤はアルトリアとは違うのでいません！」

叩かれてる面々へとアルトリアが代表で答える。

ティーチ「律儀！」

榊「そこはしっかりしてるんだな；」

答えてくれたのに叫ぶティーチに榊は苦笑する。

デデーン！

榊、OUT！

榊「なんで!？」

明久「あ、そうか。苦笑も笑いだから」

驚く榊に明久がそう言う。

バシーン！

ヨシオ「来たな侵入者！ここで成敗してやる！早速これで！」

ブレイブ！

そう言つてヨシオはガイアメモリを取り出して突き刺すとその姿をよくある勇者を模したドーパントになる。

ナツプル「よし俺も！」

パイナツプル！

それにナツプルも続いてガイアメモリを刺して…大きいパイナツプルになった。

明久「ぶふw」

雄二「おいwおいww」

秀吉「ば、パイナツプルそのまんまww」

はやて「あはははははははww」

ティーチ「ドーパントじゃないw」

純「パイナツプルww」

榊「ぶふつww!!」

京谷「ぶははっw!」

デデーン!

全員、OUT!

それには誰もが爆笑する。

アルトリアメンツも何人か笑っている。

バシーン!

ザック「おいナツプルwまんまパイナツプルになってるぞw」

ナツプル「なんでええええええええええ!?!」

ブレイブドーパント「お前、ふざけるなよ」

シュガー「なかなか面白いですな。怪人になるのではなくそのまま存在をパイナツプルにするとはw」

それにはナツプルは叫び、ザックやシュガーも笑う。

アルトリア「く、なんという笑いを…そして美味しそうな果物になるんですか」

オルタリア「まったくくだな」

セイバライオン「がおがお」

ナツプル「ひええええええ!!色々と得物を狙う目だ!」

雄二「そうなるわな」

はやて「そりやあおいしそりやもんねw」

榊「捕食者と餌の構図だな」

純「うんうん;」

デデーン!

はやて、OUT!

恐怖に震えるナツプルの前にサマーソウルが立つ。

サマーソウル「うろたえるな!気合を入れるのだ!」

マッスル!

その言葉と共にサマーソウルもガイアメモリを使い、凄くマッチョになった。

明久「ちよw」

雄二「こつちもドーパントになってねw」

はやて「筋肉もりもりマッチョマンの変態やなw」

秀吉&ティーチ「ぶっw」

榊「ぶふっw」

純「ぶははははは!!w」

京谷「は、腹が痛くなってきたw」

デーン!

全員、OUT!

またもドーパントではないのに誰もが爆笑してしまう。

ザック「はらいてえw」

シユガー「オズマ様が勧めてくださったのも納得ですなwww」

ブレイブドーパント「お前等やる気出せよ!」

アルトリア「ま、全くです」

セイバーオルタ「まあ、面白いのは確かだな」

それには双方の面々も一部除いて笑っている。

槍オルタリア「……あそこのパイナップルを輪切りにして見るか

(ぼそり)」

ナツプル「ひいひい!怖い事を言ってる!」

京谷「確かに怖いな;」

榊「確かパイナップルって芯をくり貫いてから切るんだよな」

青ざめるナツプルのに京谷は冷や汗を掻く中で榊がそう言う。

ザック「だったら変身を解けよ」

ナツプル「はっ!そうか!」

呆れて言うザックの言葉にハツとなったナツプルはメモリを抜き

……戻ったが良いがパンツ一丁になっていた。

明久「なんでww」

雄二「パンツ一丁になってるんだよw」

ティーチ「一緒に消えたでござるかww」

はやて「ぶふw」

秀吉「く、くくw」

純「ぶふっww」

榊「ぶはっww」

京谷「ぶっwww」

デデーン！

全員、OUT！

まさかの展開に誰もがまた笑う。

ザック「おwまw」

リリイ「は、破廉恥です！」

ナツプル「なんで!？」

シユガー「ぬふふふ！本当に飽きませんねw」

榊「やばいなこのバトル……」

純「笑いのカオスだね……」

叩かれるまでの間に榊と純はそう呟くのであった。

バシーン！

リリイ「破廉恥なのはいいじゃない！選定の剣よ、力を！邪悪を断て！『勝利すべき黄金の剣』！」

その後リリイがそう言っただけで宝具を解放して放ち……

ナツプル「あぶなっ!?! (ひよい)」

ズドーン!!

ティーチ「のおっほ!?!」

狙われたナツプルが避けると……丁度ティーチに直撃した……しかも

男の急所に……

明久「ティーチいいいいい!?!」

榊「ティーチが死んだ!」

京谷・純「この人でなし!」

雄二「またかw」

秀吉「ぷっw」

はやて「こ、これも笑うわw」

デデーン！

雄二、秀吉、はやて、OUT！

まさかの展開に叫ぶ明久と榊とそれに乗った京谷と純の隣で雄二と秀吉、はやてが笑う。

バシーン！

ザック「うわ、あれきつつ;」

シュガー「これには私もひゅつとしちやいましたね」
ブレイブドールパント「な、なんて残酷な！」

リリイ「ち、違うんです!!」

セイバーライオン「がおがお」

それには男性陣は引き、セイバーライオンにリリイは慰められる。

榊「まあ仕方ないよな…」

純「原作であつたネタだしね…」

知っている2人はうんうんと頷く。

アルトリア「とにかく行きます！エクス！カリバー！」

セイバーオルタ「エクスカリバー！モルガンーン!!」

その後2人が宝具を放つ。

サマーソウル「その攻撃を受け止めるのは…私だ!!!」

それにサマーソウルが受け止める…マッスルポーズで

明久「なんでマッスルポーズw」

雄二&秀吉&はやて「ぶっw」

ティーチ「良く出来ますなw」

純「ぶふっw」

榊「ぶぼっw」

京谷「ぐふっw」

デーン！

全員、OUT！

受け止め方に誰もが爆笑する。

ザック「なんだよその受け止め方！w」

シュガー「筋肉式ガードでしょうなw」

ブレイブドールパント「さ、流石隊長に選ばれるだけあるな」

それには防衛チームはザックとシュガーは笑い、ブレイブドールパ

ントは感心する。

バシーン！

雄二「マジフリーダムだよな」

榊「だよなあ；」

改めてサマーソウルのフリーダムさに雄二と榊はそう言うので

あつた。

槍オルタリア「ロンゴミニアド！」

そこに槍オルタリアが範囲を絞ってサマーソウルめがけて放つ。再び防ごうとして：男の急所に命中した。

サマーソウル「なんとおおおおお!!？」

明久「わおう；」

雄二「こいつもかw」

秀吉「マッスルポーズを取ってるのがw」

はやて「くぷぷw」

ティーチ「拙者と同じww」

純「うわあ：」

榊「これはキツイ；」

京谷「と言うかなんで絞った？」

デーン！

雄二、はやて、秀吉、ティーチ、OUT！

それには上記4人が笑い、京谷がそう言う。

サマーソウル「ふんぬらばあ!!!」

槍オルタリア「ぬっ！」

食らっていたサマーソウルは気合の一声と共に吹き飛ばす。

明久「吹き飛ばした!!？」

純「ええ!？」

京谷「マジかよ!？」

それには思わず全員驚く。

ザック「よお出来たな！隊長！」

シユガー「全くです。まさに筋肉のバカ力ですな」

ナツプル「なんだその意味不明なの；」

サマーソウル「私だからな！」

セイバーオルタ「訳わからん」

セイバーライオン「がお（うんうん）」

それにはザックたちも同意でブレイブドローパントが飛び出す。ブレイブドローパント「とにかくこれで決めるぜ！」

そう言ってブレイブドローパントはセイバーライオンへと突撃する。セイバーライオン「がおーooooooooooooん(ニクスカリoooooooooooo)!!」

ブレイブドローパント「アーーーーoooooooooooo!!」

ただ、セイバーライオンの宝具にあつさり吹っ飛ばされたが：

明久「瞬殺wwww」

雄二「やっぱりギャグでのヨシオはヨシオかw」

秀吉「ひどすぎるw」

はやて「あ、あかんわw」

ティーチ「くくくくw」

純「瞬殺w」

榊「ぶふっw」

京谷「良いとこなしw」

デーン！

全員、OUT！

あつさりと吹き飛ばす様子に誰もが笑ってしまう。

ヨシオ「(チoooooooooooo)」

ナツプル「ヨシオおおおおお!?」

ザツク「はえええよ!」

シュガー「うーん。ドローパントになっても変わらずと言う事ですか」

流星の瞬殺にメンバーも各々に言う。

セイバーライオン「がお」

アルトリア「む、そうですね。そろそろおやつ時間ですし、一時

退却です」

リリイ「あ、了解です」

明久「おやつで帰るの!?!」

雄二「おいおいw」

秀吉「これはw」

はやて「おやつで帰るってw」

ティーチ「らしいと言えばらしいww」

誰もがごくりとなる中でサンダーダランピアは言う。

サンダーダランピア「小松シエフとルイーダさん以外に姫路つちとマリーさんが関わっているので姫路つちのは2/8が辛く、マリーさんののは2/8がとても甘くなってるツス；」

明久「姫路さん：きつとカレーまんを作ろうとしたのかな；」

秀吉「マリー殿はあんまんを作ってもうちよい甘くしようとしたのじやろうか；」

榊「残りは普通なのか？」

純「確かに気になるね」

うわおとなる明久と秀吉の後に純と榊が聞く。

ブラツクキング「安心しい。あの小松シエフにルイーダはんは料理がめつちや得意なんやで、アナちゃんがちゃんと味見して美味しいと言うとる」

アナ「ちなみに中身は秘密です」

明久「そうなるとドキドキするな」

京谷「そ、そうだな…」

それぞれが聞いてドキドキしながら饅頭を見る。

ティーチ「先手必勝！1ついただき!!」

明久「あ、速い!!」

榊「俺もいただき！」

純「あ、ずるい！」

それにティーチが素早く1つ取って、榊も続いて取る。

その後にそれぞれ各々に取る。

雄二「勇気いるな」

京谷「そうだな…」

ごくりと息を飲んだ後にそれぞれせーの！の合図と共に…
パクリ！

口に含む。

明久「おいしく肉まんだ〜♪」

榊「辛っ!?!けどうまい！」

雄二「っ、甘っ!?!」

京谷「甘ったる!?!」

秀吉「おお!上手いのじゃ!」

純「確かに美味しいね」

はやて「これは美味やな!」

ティーチ「辛っ!辛っ!」

デーン!

明久、OUT!

それぞれ食べて明久だけほっこりしたのでアナウンスが告げる。

バシーン!

ティーチ「(ぐくぐく)ふはあ!榊殿、辛いのですな」

榊「まあこれぐらいなら平気だぜ」

純「そうなんだ」

ブラックキング「ちなみにあれ、ハバネロー本と唐辛子5本も入れとるぜ」

雄二「それは辛いだろうな」

水を飲んでからそう言うティーチに榊はそう返してブラックキングのに雄二は呆れる。

サンダーダランピア「後、もう1つ、ロシアンたこ焼きあるツス!」

明久「ロシアンたこ焼き?最近知られてる一部の中身がタコ以外にも入ってるって言うのだったっけ?」

京谷「確かイチゴとかチョコとかだよな」

言ったサンダーダランピアのに明久は言い、京谷も言う。

ブラックキング「ちなみに4/8がわさびが入ってるで」

雄二「そりゃあツーンと来るな」

はやて「せやな」

榊「半分はワサビか」

告げられた事に誰もがぐくりと喉を鳴らす。

明久「ちなみにそのまま?」

ブラックキングSD「普通にソースを付けてても良いし、マヨネーズもあるで」

サンダーダランピア「ちなみにわさびマヨネーズもあるツス!」

雄二「もしもわさびのだったらさらにツーンが増すな；」

京谷「熱々のうちに食べるか」

そうだねと各々にとってソースも塗った後にせーの！とパクリと食べる。

明久「あ、ツーンと来た！」

榊「あ、こりや来るな」

雄二「っ！」

京谷「よかった、セーフだった」

秀吉「こつちもじゃ」

はやて「こつちもやで」

ティーチ「っ！っ！」

純「あー；大丈夫？ティーチ」

それに明久と榊、雄二とティーチが当たり、ティーチはアナから手渡されたコーラを飲む。

ティーチ「効いた！！いやマジ辛さとは違う刺激が襲い掛かって来てマジキターですぞ！」

明久「分かる分かる」

榊「確かに違うよなホントに」

一気飲みしてからそう言うティーチに明久と榊は同意する。

雄二「わさびつて結構コーヒーとはまた違う眠気覚ましになったりするよな」

純「あー確かにね；」

はやて「お寿司やざるそばでも結構外せへん薬味やね〜」

京谷「あー確かにそうだよな」

そのままワイワイとワサビ談義に入った。

そんなほんわかしてる面々に次なる笑いの仕掛人は何を仕掛ける！

コンサートからアクシデント発生まで

何も無くて1時間経過し…

ブラックキング「おい皆。アイドルが来てコンサートやるさかい。見に行かんか？」

秀吉「アイドル？」

榊「…：アイドル…だと…!？」

雄二「おい、まさか…頭文字がエのアイドルか？」

それには思わず誰もがガタツと席を立て後ずさる。

サンダーダランビア「安心してくださいッス。そこらへんはちゃんとしたアイドルッス；」

アナ「と言うか流石に崩壊しそうな人は歌には出しませんから」

ブラックキングのに戦慄するメンバーへとサンダーダランビアとアナがそう言う。

京谷「そ、それはよかった…」

純「いやギャグ系でアイドルって言ったら彼女を連想しちゃってね；」

誰もがホントホントと頷く。

楽屋裏

エリちゃんズ「『』と言う意味よ!!』」

マシユ「お、落ち着いてください；」

ミルカ「；」

キャトラ「そっちも大変ね；」

守理「雄二くんがね；」

美陽「まー確かにあの歌はね；」

月奈「そうですね；」

自分達の評価に荒ぶるエリちゃんズをマシユが宥める様子を見ながら冷や汗を流すミルカの隣でそう言うキャトラに守理もたははと苦笑し、美陽と月奈はどう言うのか知ってるのでうんうんと頷く。

キヤトラ「んでまあ、コンサートの笑いの刺客の面々が…」
そう言つてちらりとキヤトラは見る。

チヨロ松「だから最高のアイドルはニャーちゃんに決まつてるじゃないか！ニャーちゃん最高！」

新八「何言つてるの！決まつてるのはお通ちゃんに決まつてるでしょ！」

兄者「いやいや、参加するメンバーで言うならセリナちゃんも外せねえだろJK」

弟者「確かにそうだがやはりアイマスメンバーも欠かせないぞ兄者」

上記の4人がアイドルので熱論していた。

キヤトラ「：これ、普通に論争してる状態になりそうだわ；」

おそ松「まあ、チヨロ松はな」

トド松「兄さんはホントにアイドルのになるといったいねー」

やらない夫「それを言ったら流石兄弟もだけどな；」

やる夫「と言うかニャーちゃんもお通ちゃんも出ないお；」

真宵「アイドルのファンと言うのはこれがあるから大変なんじゃないね；」

幽々子「そうねえ；」

その様子を見て各々に呆れて言う。

キヤトラ「まあ、とにかく見て笑いましょうか」

トド松「仕掛け人は待つてる間は見て笑う。それが笑つてはいけな

いだもんね☆」

おそ松「トツティー黒いぜ」

ミルカ「；」

佳奈「真つ黒だね！」

笑顔で言うトド松におそ松はそう言い、佳奈も続く。

トド松「なんと言うかおそ松兄さんはともかく：年下の子に言われると地味にダメーシ来るな…」

キヤトラ「そう言えば守理、アンタら側のあの2人は何を話してたの？」

守理「ああ、あの2人ね。なんでも丁度いいからとあるネタの仕掛けとしての打ち合わせだそうだよ」

姫「仕掛け？」

月奈「一体どんな仕掛けなんでしようか…」

胸を抑えるトド松をスルーして聞くキヤトラと守理の会話に姫と月奈は首を傾げる。

守理「うん。秘密って事だから知らないけど相方があの人だから大体どんな感じかは分かった気がする」

幽々子「あらあら、どんなのが楽しみね」

美陽「そうね。ってあ、起きたの？鬼矢」

そう返す守理に幽々子はワクワクし、美陽も同意すると鬼矢が起きるのに気づいて声をかけ、ふわーと欠伸びながら鬼矢は起き上がる。

鬼矢「まったく、いきなりこう言うイベントやるなよな」

キヤトラ「だってそれが笑ってはいけないなんですよ？」

おそ松「まあ、あんた結構笑ってはいけないで笑わされる側には向いてないって事が分かったな」

真宵「そうじゃね」

乃亞「まあ鬼矢はこっち向きってことか」

そう言う鬼矢にキヤトラはそう返して、おそ松のに真宵は同意して乃亞がそう言う。

キヤトラ「ちなみに鬼矢だっけ？ネタを入れるなら何を入れたい？」

鬼矢「んー、笑ってじゃなくて驚いてはになるんだが…」

ミルカ「？」

そう聞くキヤトラに鬼矢の言った事にミルカは首を傾げる。

おそ松「おー、なんか驚かせるネタがあるのか…ちなみにどんなの？」

鬼矢「ビーカーに入っている解剖したのが動くってやつ」

トド松「普通にホラー!?それ普通にお化け屋敷とかのでやるホラーな方！確かに驚くけど！」

軽く聞いたおそ松のに答えた鬼矢のにトド松は叫ぶ。

キヤトラ「ちなみに他にもあったりする? ;」

鬼矢「あとはフェニックスファントムになって火の玉とか?」

おそ松「おー、それならまだ良いな。驚いてはいけないはそのフェニックスファントムでやれば良いな」

聞くキヤトラに鬼矢はそう言い、おそ松がそう言う。

チヨロ松「なんかトド松が叫んだみたいだけど何があったの?」

トド松「いや、ホラーな提案を受けてね」

新八「ホラーって驚いてはいけないだからあんまりホラーすぎるのもやばいと思いますけど ;」

キヤトラ「うん。だから2番目に提案されたのを採用したわ」

鬼矢「ちなみにまだまだネタはあるぞ」

姫「まだあるんですか ;」

アイドル談義が終わったのか会話に加わるチヨロ松にトド松はそう返し、鬼矢のに姫は何があるんだろうと冷や汗を流す。

兄者「ちなみにどんな?」

鬼矢「こういうのだ」

シユン

そう言つて姿をダミードーパントを経由して紫に変えて、置いてあった氷を掴んでスキマに入れる。

チヨロ松「ほああああああああ!?!」

キヤトラ「ぎにやああああ!?!」

トド松「うわ、何奇声あげてるのチヨロ松兄さん! ビックリしたじゃない!」

するとチヨロ松が声を上げて、他のメンバーは驚く。

一松「……あ、氷をチヨロ松兄さんの背中に……」

鬼矢「な? 驚いただろ」

チヨロ松「ホントにね! いきなりだったからマジで驚いたよ!」

そう言う鬼矢にされたチヨロ松は入った氷を急いで出しながらそう返す。

キヤトラ「ホントやるわね」

鬼矢「だてに長い間生きていねえよ」

そう返す鬼矢にこの人はホント、笑う側じゃなくて驚かし側だと
チヨロ松は思った。

戻って明久達

明久「一体誰が出るんだろうね？」

純「アイドルっていっぱいいるからな」

案内されながらどんなアイドルが出るか話していた。

雄二「まあ、765プロのメンバーは確定だな」

秀吉「確かに出ておったしな」

榊「もしかしたらシンデレラガールズのほうかもしれないぜ」

京谷「どっちだろうな」

そう話しながら歩いていると会場に到着し、それぞれ指定された席
に座る。

明久「ドキドキするね」

榊「そうだな」

誰もが待つ中で音楽が流れ出す。

(BGM: タケシのパラダイス)

ただ、流れて来た音楽に誰もがん?となり…

タケシ「お・ね・え・さ・ん!」

明久「ちよw」

雄二「あんたかよw」

秀吉「不意打ち過ぎるのじゃw」

ティーチ「ぶふw」

はやて「ま、まさかのw」

純「アイドルじゃないじゃんw」

榊「確かにww」

京谷「アイドルを追っかける方だろww」

デデーン!

全員、OUT!

マラカスを振って現れたタケシ(アニポケ)に誰もが爆笑する。
バシーン!

8人が叩かれたタイミングで隅からデントが現れてタケシと並ぶ。タケシ「はいどうも！今回の司会をさせていただきたくタケシと言います」

デント「同じく、司会を進行する役のデントと言います。今回は色んなアイドルが来てくれましたね」

そう言っただけで挨拶するタケシとデントの間に観客は盛り上がる。

デント「ちなみにタケシさんの登場のは受けを狙ってやりました
w」

タケシ「おいおい、受け狙いって酷いじゃないか」

明久「それで笑ったけどね！」

ティーチ「ホントに不意打ちでしたな」

榊「不意打ちすぎだろ」

そう言うデントの苦笑するタケシの間に明久とティーチ、榊が代表で言う。

雄二「しっかしホント不意打ちだった」

秀吉「うむ、タケシも歌っていたのを抜けていたのじゃ」

京谷「もうかなり前の事だしな」

そう言う雄二に秀吉と京谷は頷く。

タケシ「と言う訳で最初のは765オールスターズによる『らら
♪らわんだあらんど』です！」

デント「どうぞ！」

(BGM:ぶちますPV曲 ららわんだあらんど)

2人が隅に異動すると軽快な音楽が流れてぶちどると共にはるか
達が見れる。

明久「ああ、ぶちますのアニメのPVで流れた！」

榊「あれか！それを生で見れるのか！」

それに誰もが気づくとはるか達は歌いだす。

ちなみに歌唄メンバーの中に律子と小鳥も交じっている。

明久「なんか感激」

秀吉「そうじゃな」

純「まさか生で見れるなんてね」

京谷「これ、ファンからしたら羨ましすぎるだろうな」
それに誰もがおおとなった後に中盤にて現れた笑いの刺客に噴いてしまう。

笑いの刺客、着ぐるみを着た龍騎達13人のライダー達

明久「またも不意打ちw」

雄二「しかもバツクダンサーかよw」

秀吉「凄い練習したのが分かる動きじゃw」

はやて「あ、あかんわw」

ティーチ「これは笑うしかないでござろうw」

純「ぶふっw」

榊「これはwww」

京谷「ぶはははw」

それには誰もが笑ってしまう。

そして歌が終わると共に…

デデーン！

全員、OUT！

明久「いや、ホント不意打ち過ぎ…」

雄二「顔が出てるからマジシユール過ぎた…」

ティーチ「あれは普通に笑いますな」

純「どうか顔は隠しなよ…」

榊「着ぐるみは普通顔出ないよな」

秀吉「笑ってはいけないじゃからわざとであろうな…」

バシーン！

各々に言って叩かれてる間にタケシとデントが現れる。

タケシ「はい、765プロオールスターズによる『ら・ら・らわんだあらんど』でした！765プロの皆さん、ありがとう！」

デント「プレザントなソングの後は夢を願う少女たちをイメージした346プロのシンデレラガールズによる『お願いシンデレラ』！」

榊「次は346プロのか！」

京谷「マジか!？」

では！と言うデントの言葉の後にドラえもんズが現れる。

(BGM:アイドルマスターシンデレラガールズ2周年記念PV曲
お願いシンデレラ)

なんで?と誰もが思っていると音楽が流れ始め、それと共にドラえもんズはどこでもドアを取り出してドアを開ける。

ドアの先から卯月達、シンデレラガールズが飛び出して歌いだす。

明久「ああ!なんか納得!」

秀吉「上手く使ったのう」

純「確かにこれは良いアイデアだな」

京谷「確かに便利だもんなどこでもドア」

ティーチ「しかしなんで私服なのでしょうかね?」

それに誰もが感嘆してる中でティーチのに確かにと思った。

誰もが私服でなぜアイドル衣装じゃないのだろうかと思っていたが中盤で理解する。

ウィザード「さあ、ショータイムだ」

シンデレラ!プリーズ!

シンデレラガールズの後ろにウィザードが現れて付けていた指輪をドライバーに翳し、手を前に付き出すと魔法陣が出現、それを潜ったシンデレラガールズの服が純白のドレスに変わる。

はやて「はわく凄いな」

純「ってあれ?ウィザードは雄二くんだよな?」

榊「それじゃああのウィザードは誰だ?」

雄二「そりゃあ本家の操真晴人さんだろう...だからか...」

目を輝かせるはやての隣で首を傾げる純と榊に雄二はそう言うつてから納得した様子を見せる。

明久「何が納得なの?」

雄二「昨日いきなり晴人さんが来て、女の子の服をシンデレラのドレスに変える魔法の指輪を作ってくれないかって頼まれたんだよ。別に良いから作って何に使うのか聞いたけど秘密って言われたが...
こう言う事か」

ティーチ「なるほど」

京谷「このためにだったのか」

誰もが納得した後に歌が終わり、辺りが見えなくなる位暗くなり：
パツ

シンデレラガールズを後ろでナズエミテルンデイス!! (owo) な
木の恰好をしたギャレンがライトアップされる。

明久「ぷっw」

雄二「おいw」

秀吉「不意打ち過ぎるw」

はやて「と言いかいたんかw」

ティーチ「恰好w」

純「ぶはっww」

榊「ぶぶっww」

京谷「これは無理ww」

デーン！

全員、OUT！

さっきの龍騎達のように全員が笑ってしまう。

バシーン！

ティーチ「あれは卑怯過ぎでしたな；」

榊「ズル過ぎるだろ…」

純「あ、次に行くみたい」

そう言うティーチに榊も頷いている間に純がそう言う。

タケシ「はい、346プロのシンデレラガールの皆ありがとう！」

デント「次は未知なるアドベンチャーへと向かうのに良いセリナ&

アイリスさんによる『Stand Up!』！ちなみにバックダン

サーにビートライダーズが付きます！」

秀吉「なんと絃汰殿達も出るのか!？」

京谷「おお！凄いな！」

それに誰も声を上げるとどうぞと言う言葉と共にビートライダー
ズが現れ：

セリナ「セリナちゃん&アイリスのオンステージ!!」

アイリス「頑張りましょう！」

(BGM：白猫主題歌 Stand Up!)

元気よくアイドル服を纏ったセリナとアイリスが登場し、歌い出すとビートライダーズも曲に合ったダンスを始める。

ティーチ「良いですな〜」

純「そうだね〜」

目の前のに誰もがほうとなる。

そして終わると共に大歓声が起こる。

???「うおおおお！セリナちやああああん！」

すると1人の男が舞台上がろうとし：

チヨロ松&新八&兄者&弟者「アイドルに手を出すの禁止!!」

男性「げほは!？」

上記4人の蹴りが炸裂する。

チヨロ松「僕達ファンはコンサートとかに来た時はアイドルに声援を送るだけがポリシー！」

新八「それを破り、アイドルに迫ろうとする奴は許さん！」

兄者「そんな奴らを止めるのが俺達！」

弟者「アイドルのちゃんと追っかけ隊の仕事だ！」

明久「何その名前w」

雄二「言い方はなw」

秀吉「良い事を言っておるのにw」

ティーチ「名前www」

はやて「それがあかんw」

榊「ぶふっw」

純「ぐふっw」

京谷「ぶばっw」

デーン！

全員、OUT！

名乗りあげた名前に明久達は笑う。

男性「くっ、邪魔を：「とり囲めええええええ!!」

ぎやああああああ!!」

何か言おうとした男性はすぐさまFFF団に取り押さえられてそのまま退場する。

明久「うーん、流石FFF団」

雄二「ホント連携すると下手な組織より良いよな」

秀吉「うむ」

京谷「確かにな」

榊「と言うか将来財団Xとかに欲しい連携だな」

純「あー；」

それを見て簡単する明久と雄二達の後と言う榊の純は自分が知ってるのが確かに連携悪いなど思い出しながら納得する。

タケシ「ちよつとトラブルはあったけどセリナちゃん&アイリスちゃんありがとう!!」

デント「最後はナムコオールスターズより代表して如月千早さん！346プロから渋谷凜さん。そして再びセリナさんにさらにマシユ・キリエライトさんによるコラボソング！『色彩』です！」

明久「色彩？」

雄二「初めて聞くな」

秀吉「うむ」

榊「おお！あれか！」

京谷「マジかよ!?あの曲が聞けるのか！」

それに明久達が首を傾げる中で榊と京谷は興奮する。

明久「あれ？知ってるの？」

榊「グランドオーダーのOP曲だ！」

そんな2人に聞く明久に榊が前に見せたのと言い、明久は成程と納得する。

(BGM:Fate/グランドオーダーOP 色彩)

そして音楽が流れるとそれぞれのアイドル衣装を纏った千早と凜にセリナと共に戦闘服に近い感じだが可愛らしい感じにされたアイドルドレスを着たマシユが現れ、歌いだす。

楽屋裏

守理「ムツツリーニ君。グッジョブ(ビシッ)」

ムツツリーニ「……………要望通りに作った」

アーチャー「君のその腕にはホントに脱帽だな」

月奈「将来衣装屋さんをやった方がいいと思いますよ」

美陽「確かにそう思うほどの腕ね；」

出来の良さに守理は笑顔でサムズアップし、ムツツリーニも静かにそう返すとアーチャーと月奈と美陽は感嘆する。

ムツツリーニ「……………露出の多いのじゃなければそちらの要望のを作るが？」

美陽「ホント！んじゃあ太陽をイメージした服作って！」

月奈「では私は月をイメージした服を」

真宵「私は予備の白衣を頼むんじゃよ」

そう言うムツツリーニに早速女性陣がワイワイとお願いする。

戻って舞台

曲が中盤に差し掛かっていて、アイドル達の後ろの画面にクラスカードが表示されて行くとアイドル達の周りに次々にライダー達が現れる。

セイバーのでブレイド、アーチャーので鎧武ジンバーレモンアームズ、ランサーでXライダー、キャスターでウィザード、アサシンでZX、ライダーで1号、バーサーカーでオーズプロティラコンボ、ルーラーでBLACKRX、アヴェンジャーでライダーマン、シールドラーのでドラグシールドを構えた龍騎が現れる。

明久「これって…」

雄二「それぞれクラスで表してる感じか？」

榊「そうみたいだな…」

京谷「一部ん？って思うのあるけどな」

それを見て各々に言う。

龍騎「いや、だって昭和と平成のメインのライダーでやろうと言う事でそれぞれのクラスで話してたけど、ルーラーやシールドラーの丁度いい人がいないから盾がある俺がシールドラーのになってルーラーがRXで良いんじゃねな感じで決まったんだよな…」

そんな面々の会話を聞いて龍騎はそう心の中で弁解する。

そして歌が終わると共にライダー達は1回転した後にはフリップが手に握られ：

くるん！

ティーチタイキック！

ひっくり変えられたのにえ？とティーチはなった後に：

デーン！

ティーチ、タイキック！

ティーチ「アイエエエエエエ!?」

明久「まさかのw」

雄二「絶対に人数ので選ばれたろw」

秀吉「おおう」

はやて「ぷくくw」

榊「ぶばつww」

京谷「南無…」

純「あー；」

デーン！

明久、雄二、はやて、榊、OUT！

それにティーチは絶叫し、秀吉と純は冷や汗を流し、京谷は手を合わせる。

バシーン！

Xライダー「とわ!!」

バシーン！

ティーチ「ぬおおお!!」

明久「うん、強烈；」

純「痛そう…」

降りて来て放たれたXライダーのタイキックに悶えるティーチに明久と純は冷や汗を流す。

とにかく、これで終わったと思われた時：

シトロン「大変です！アイドルの私物が盗まれました！」

タケシ「なんだって!?!」

突如駆け込んできたシトロンの言葉に会場がざわめく。

突如起こったアクシデント！

一体何が…

オマケ

須川「んで、こいつ何？台本にはなかったと思うんだが？」

新八「あー、確かに普通にアイドル談義で言う感じだったのにな」
チヨロ松「だよな？んじやあ誰？」

弟者「はっ!?兄者こやつはどうやら転生者だ」

兄者「んじやあマリオ達に引き渡すか」

舞台の裏側でこう言う事があつたとき

ちなみにセリナを狙った転生者は輪廻にちゃんと送られた。

クイズから楽屋裏話まで

前回、コンサートが終わった直後に起こったアクシデント

明久「泥棒？」

雄二「もしかすると…」

京谷「あ、これって……」

榊「あれだな…」

コンボイ「ガツテム！」

流れに誰もが予想していると予想通りに蝶野梓のコンボイが現れる。

コンボイ「警視庁から来たコンボイだ。盗難事件のを聞いて駆け付けた。何が盗まれたんだ？」

シトロン「はい、765プロの水瀬伊織さんのヌイグルミが盗まれたそうです」

明久「ヌイグルミか…」

榊「ヌイグルミな…」

純「ヌイグルミね…」

聞くコンボイにシトロンが答えた事に続ける。

シトロン「その際、逃げる犯人の後ろ姿は捉えているんです」

コンボイ「それで、その犯人の後ろ姿は？」

これです…とシトロンは舞台の画面に映す。

映像には…榊の後ろ姿があった。

明久「あ」

雄二「そうか…」

秀吉「うむ」

ティーチ「オウフ」

はやて「あちやあ」

純「あー」

京谷「榊、死んだな…」

榊「なんでじゃあああああああ!!？」

それに誰もが察する中でコンボイが客を映像と見比べて行く。

コンボイ「後ろを向け」

明久「はい」

違うとはいえ、威圧感にビクビクしながら明久は後ろを向く。

コンボイ「違うな…」

そのまま他のメンバーをやって良き、最後に榊の番になる。

コンボイ「後ろを向け」

榊「……」

向いたら向いたらでビンタが来るのは分かっているので榊は無言
だったが…

コンボイ「良いから向け！」

榊「は、はい！」

強く言われて振り返る。

コンボイ「…お前かあ！」

榊「ひいひいひいひいひいひい！」

「待った！」

後ろ姿からそう言われた時、某逆転弁護士風の服を着て正邪が現れる。

明久「あ、なんか来た」

京谷「あれって正邪か？」

現れた正邪に誰もがどうなると見守る。

特に榊は必死に応援している。

コンボイ「待ったをかけるのはなぜだ？」

正邪「その映像の後ろ姿だけで犯人を決めつけるのは早いぞコンボイ」

コンボイ「何？」

告げられた事にコンボイが驚く中で正邪は言う。

正邪「この映像にはおかしなところがある！」

コンボイ「おかしなところだと!？」

そう指摘する正邪は続けて言う。

正邪「シトロン、このカメラはどこら辺に設置してあるんだ？」

シトロン「え、えつと、こちらへんですね」

聞かれたシトロンはそう言っただけを示す。

正邪「んじやあそこに誰かカメラを」

研究員「は、はい！」

指示に研究員は指定された場所にカメラを置く。

正邪「榊、映像に写っているみたいなのにそこに立ってみろ」

榊「お、おお……」

そう言っただけは言われた通りにする。

正邪「さて、これが今カメラに写っている榊だ。んでこっちが監視

カメラに写っている人物だ」

コンボイ「これは……」

そう言っただけは写されたのと見比べて……

コンボイ「一寸も狂いもない彼だな」

全く一致な状況になっていた。

正邪「それがおかしいんだろ」

???「そう、おかしいね」

すると別の人物が現れた。

それは……犬のマスクをかぶったホームズ（FGO）であった。

明久「ちょw」

雄二「おいwおいw」

秀吉「絶対にあれじゃろw」

ティーチ「くぷぷw」

はやて「あ、あかんわw」

京谷「ぶはあw w w」

純「ぷぷぷw w」

デーン！

榊以外、OUT！

それに榊を除いて笑ってしまう。

バシーン！

コンボイ「一寸も狂いのないのがおかしいと言う事は……」

正邪「つまりこの映像を用意した奴こそ」

ホームズ「犯人という事だ！」

その言葉に誰もが映像を持って来た人物を見る。

正邪「犯人は…お前だ！シトロン!!」

シトロン「ええ!？」

告げられた事にシトロンは驚き、弁解しようとした時…

アーラシユ「ホームズの旦那、捕まっていた本物のシトロンを見つけていたぜ」

そこにもう1人のシトロンを連れて…青い犬のマスクをかぶったアーラシユが来る。

ホームズ「見事だワトソン君」

明久「ちょw」

雄二「あんたがワトソン粹かよw」

ティーチ「ちょw」

はやて「2人目w」

純「ぶぶつww」

京谷「なんでアーラシユww」

デデーン!

榊以外、OUT!

シトロン? 「あーらら、もうバレちゃったか…」

ボフィン!!

それに偽物の方のシトロンは肩を竦めた後に煙が発生すると…

燕青「いやはや、やっぱり凄いなホームズの旦那。後はその鬼の女の子もか」

現れたのは…オオスバメの顔型マスクをかぶった燕青であった。

ホームズ「やはり君だったか」

明久&秀吉「ぶつw」

はやて「ま、また不意打ち過ぎるw」

ティーチ「どんだけマスク押しww」

純「マスク多すぎww」

京谷&雄二「ぶはははははw」

デデーン!

榊以外、OUT!

まさかの連続ネタとマスクのに榊以外は笑ってしまおう。
バシーン！

ホームズ「それで君と言う事は…」

???「そう、私だよホームズ」

そう言つて：紫色の狼なマスクをかぶったモリアーティが来る。

明久「アニメ押しw」

雄二「どんだけあのアニメのに拘るんだよw」

秀吉「く、くくw」

ティーチ「ホント続けるでござりますなw」

はやて「あ、あははははははw w」

純「ぷぷぷw」

京谷「あはははw w」

デデーン！

榊以外、OUT！

モリアーティも同じ感じのに榊を除いて爆笑する。

バシーン！

K刹那「んー、バレちゃったね教授」

そこに：チワワのマスクをかぶったクロさん側のぐだ子こそニツクネームはエクシアの刹那が来る。

分かり易い様に頭部分にKをつけておく。

明久「刹那さんのハドソン婦人かなw」

雄二「と言うかあんたもかいw」

秀吉「ホントノリが良いなw」

はやて「くくくw」

ティーチ「連続で続きますなw」

純「ぶはっw」

京谷「ぶふっw w」

デデーン！

榊以外、OUT！

まだまだ続くマスクネタに笑いが取らまない。
バシーン！

モリアーティ「さて、そこで笑いを堪えている榊君」

榊「あ、俺？」

ズビシツと指すモリアーティにマスクのに笑わない様に耐えていた榊は戸惑う。

モリアーティ「どうせなら原作の方正的な感じで間違われたままピントをされるのを見たかったけどバレちゃったので君に挑戦状を叩き込む！」

榊「ちょ、挑戦状!？」

突き付けられたのに榊が驚く中でモリアーティは言う。

モリアーティ「ルールは簡単、私が出す4問の問題を解く事、しかし、その内ので2問間違えた場合、君はコンボイ君のピントを受ける事になる。逆に2問間違えずに行けば…君が好きに相手を指名して指名されたのがピントされると言う事になる」

明久&京谷&はやて「ええええええええええええええええええええ!？」

雄二「マジか！」

秀吉「なんとという…」

ティーチ「それ必ず誰かピントされるじゃないですかヤダー！」

純「どっちにしろピントだね；」

榊「よっしゃ、受けて立つぜ！」

告げられた事に驚く中で榊が勇ましく挑戦に受けて立つ。

モリアーティ「そのチャレンジ精神良し!では早速やろうではないか！」

榊「よっしゃ来い！」

その言葉と共にデデン!と言う音が鳴り響く。

モリアーティ「1問目は○×問題で、『聖女マルタの宝具は敵全体を攻撃するのである』。○か×か？」

榊「えつと…:…:○！」

問題に榊は考えた後にそう言うど…

ブツブツ!!

不正解の音声がなる。

モリアーティ「残念。不正解だ」

榊「はあ!？」

明久「え？なんで？マルタさんの全体的な筈だけど？」

雄二「あ、そっかひっかけか!？」

はやて「ひっかけ?」

ティーチ「ああ、拙者も分かりましたぞ！確かにこれひっかけですな!？」

京谷「あ、榊！ライダーのマルタはただのマルタで聖女じゃねえ!？」

榊「しまった!?!水着の方か!？」

告げられた事に榊は驚いたが京谷のにハツとなる。

モリアーティ「その通り、聖女マルタはルーラーの方の彼女だから単体宝具。つまり×が正解だったのだよ」

榊「あー、クソツ。見事に引ッ掛かったぜ!？」

やられた!と榊は悔しがる間にモリアーティは次に出る。

モリアーティ「では2問目、4択問題だよ。次の4つで正しいのはどれ!？」

そう言つてパネルに名前が表示される。

1. 息吹萃香
2. 伊吹萃華
3. 威吹鬼萃蚊
4. 伊吹萃香

榊「4!？」

それに榊はすぐさま答えを言う。

ピンポーン!

モリアーティ「ふむ、流石にサービス問題過ぎたかな?」

榊「簡単だったぜ!？」

京谷「あと一問だぞ榊!？」

間違えたらやばいと言うのを伝える京谷に分かつてるって!と榊が返す。

モリアーティ「では3問目、次は仲間はずれなので『次の4人の中で仲間はずれは誰?』」

そう言つてパネルに表示される。

エウリュアレ、オリオン、イシユタル、メドゥーサ

榊「これも簡単だな。オリオンだろ」

ブツブツ!

それに榊が意気揚々と答えたが不正解の音が鳴る。

榊「なんで!? オリオンだろこれ!」

モリアーティ「残念、答えはイシユタル。他の3人はギリシャ神話
ので彼女だけはメソポタミアの女神なのだよ」

ホームズ「待ちたまえモリアーティ。確かに君の答えは神話と言う
意味では正解だ。しかし間違いでもある」

驚いて抗議する榊のにモリアーティがそう説明した時、ホームズが
割って入る。

モリアーティ「なぜなのかなホームズ?」

ホームズ「先ほども言ったが神話と言う意味では正解だよ。だがし
かし、出してるのはサーヴァントである君だから彼はこう考えた。

『サーヴァントの性別で仲間はずれは?』と…」

最初分からなかったがそう言われてモリアーティはハツとなる。

モリアーティ「!それでは!」

ホームズ「そう、サーヴァントの性別で仲間外れはオリオン!なぜ
なら実際はアルテミスだが彼女はオリオンとして召喚されたから性
別は男性扱いなのだよ!だから正解者は戌井榊くんで不正解者はモ
リアーティ、君だ!」

ズビシツと指して指摘するホームズにモリアーティはそうだった
か…と呻く。

モリアーティ「そう言う事では仕方がない…先ほどの不正解は取り
消しとしておこう」

榊「よ、良かった…」

純「それにしても本当にオリオンはややこしいよね」

京谷「見た目女性なのに男性扱いだもんな」

ホツと安堵する榊の後に純がそう言い、京谷もうんうんと同意す
る。

モリアーティ「さて、次でラスト問題だよ」

榊「絶対答えてやるぜ！」

気合を入れる榊にモリアーティは言う。

モリアーティ「次の問題は…運を試される影絵問題だよ」

榊「運？」

首を傾げる榊にその通り！と頷いてモリアーティは内容を言う。

モリアーティ「では問題！『どれがアルトリア・ペンドラゴンであるか！』」

その言葉と共に4つの影絵が映し出される。

どの影絵も似た様な立ち方と服装で榊はうむむとうなる。

明久「うわあ、分かり難いな」

雄二「確かにこれは運も試されるな…」

純「そうだね…」

京谷「ちなみに着替えとかはしてないよな？」

それに明久や他のメンバーが唸る中で京谷も気になって呟く。

モリアーティ「ちなみに髪型以外は分かり難い様に弄っている。だからこそその運を試すのだよ」

榊「マジかよお…」

うへえ…と漏らした後に榊は注意深く見る。

良く見ると1番はアルトリアの特徴的なアホ毛がなく、オルタの方かと行きつく。

3番はポニーテールでモードレッドだろうと考えて2と4に絞る。

榊「ん…どっちだ？」

悩むが2と4はどっちとも似ていて、身長差を失くしてるのもあって運試しになるのは確定なのが唸らせる。

榊「ええい、4！」

モリアーティ「4か…正解は…」

そう言つてモリアーティは言葉を切り、無言の時間が続く。

誰もが息を飲み、発表を待っている中…

燕青「(ふうー)」ブーブークッションを押す。

明久「んふふw」

雄二「おいw」

秀吉「くっw」

はやて「そ、それは卑怯やでw」

ティーチ「緊張感w」

榊「やるなよw」

純「ぷぷっw」

京谷「ぶふっw」

デデーン！

全員、OUT！

静寂な所を燕青がブーブクツションを取り出して音を出したのに誰もがつい笑ってしまう。

バシーン！

モリアーティ「ナイスw」

燕青「いえいえw」

サムズアップを交わした後に気を取り直してモリアーティは目を

カッと開き：

モリアーティ「不正解!!」

その言葉と共に影絵から人物が浮かび上がる。

1. セイバーオルタ

2. アルトリア・ペンドラゴン

3. モードレッド

4. セイバーリリイ

デデーン！

榊、ビンタ！

榊「リリイかよお！」

バシッ！

榊「へぶっ!?!」

絶叫した後に榊はコンボイのビンタをくらう。

モリアーティ「ではサラダバー！」

燕青「残念だったな少年くまたなく」

そう言っつてモリアーティと燕青にK刹那は舞台裏に消える。ホームズとアーラシユもその場を去る。

正邪「それじゃあな榊。後で弁護士請求するから」
榊「マジで!？」

告げられた事に榊はマイガーと叫んでいる間に正邪とコンボイは去る。

ブラックキング「んじゃあわいらも帰るぜ」

サンダーダランビア「ツス」

明久「うーん。惜しかったね」

雄二「だな」

榊「くっそ、あの時2を選んでいたらモリアーティをビンタさせてたんだが…」

京谷「そんな事企んでたのか；」

純「アハハハハハ；」

各々に述べる中で榊のに京谷はなんとも言えない顔をして純は苦笑する。

デデーン！

純、OUT！

雄二「ああ…」

榊「苦笑も笑いだもんな」

純「あ、やば；」

アナウンスのに雄二と榊は納得して、純もあちやあ…となる。
バシーン！

楽屋裏

モリアーティ「あつぶな!?!そんな事考えてたの榊君!?!」

ホームズ「だって君、好きな人をもって言ったけど『明久くん達の中』
でと言ってなかったからね」

守理「ああ、そう言えば言っただけだったね」

一方の楽屋裏でもし答えられてたらの展開に顔を青くするモリアーティにホームズはそう指摘し、守理も思い出して手をポンとさせる。

モリアーティ「あー、ホント不正解で良かった…」

K刹那「危ないところだったね教授」

幽々子「いくらサーヴァントでもご老体にはあのビンタきついわよね」

ふうと息を吐くモリアーティをねぎらうK刹那と幽々子の後にキヤトラが時間を見る。

キヤトラ「確か次はスペシャルゲストが笑わせに来るんだっけ？」

チヨロ松「確かそう聞いてたけど？」

美陽「スペシャルゲスト？」

月奈「誰ですかそれは」

確認するキヤトラにチヨロ松が返すと見よと月奈が聞く。

キヤトラ「なんでも箒達が共演した平行世界の住人みたいよ」

刹那「平行世界の？」

鬼矢「いきなりだな」

出て来た言葉に刹那は首を傾げ、鬼矢は誰なのやら…と頭を搔く。

スペシャルゲストとは一体…

スペシャルゲスト登場から楽屋裏話その2まで

戻って部屋に戻った明久達。

しばらく部屋でのんびりしているとテレビに何かが流れる。

明久「あれ？いきなり映像が？」

雄二「なんだ？」

榊「ん？」

京谷「なんだなんだ？」

誰もがテレビへと顔を向ける。

オリムライダー

オリムーショック！地獄の黒鷲団！

下剋上したけど負けちゃって、黒鷲団に身ぐるみはがされて

オリムー！オリムー！オリムーです！

輝くブーメラン！

オリムー！いなりアタック！オリムー！オリムラボール！

オリムライダー！オリムライダー！裸でバイクに乗るライダー！

奇跡の17連敗！弄られ要員！ホモ疑惑！

オリムライダー！オリムライダー！

ゲイヴンじゃない！ノンケだ！

オリムライダーこと織斑一夏は黒鷲団によって改造（という名の強制着替え）された変態人間！彼が行く先には何が待ち受けているのか？

オリムライダー「オリムウウウウ・・・ライダー！」

ぷう！

そうやって画面にハイニー&ブーメランパンツの織斑一夏が写っ

佳奈「ぶははははははははははw w w」
オリムライダーの笑いの破壊力に誰もが爆笑せずにはいられな
かった。

戻って明久達。

バシーン！

明久「やばいよあれ。普通に腹筋壊すマンだ」

雄二「確かにな」

榊「し、死ぬかと思った…」

純「はあ…はあ…」

誰もがまた笑わない様にする中で映像が再開される。

EXステージ ???

ドSトリオの攻め

オリムライダー「ぬおお!!ここはどこだ!!」

明久「ぐふw」

雄二「映すの止めろw」

秀吉「く、くくw」

はやて「で、出るだけでw」

ティーチ「ぶふw」

純「ぶはっw」

榊「ぶっふw」

京谷「ぐはっw」

デーン！

全員、OUT！

今度は拘束されて抗おうとしている様子にまた全員が笑ってしま
う。

バシーン！

沖田「くくく、良い声で鳴きそうな奴が来たじゃねえか」

幽香「あらホントね」

龍田「あらあら〜どういふ感じで鳴いてくれるのかしら〜」

オリムライダー「ぎやあああああ!?!黒鷲団以上にやばそうな人

達だああああああ!?」

黒い笑みを浮かばせる3人にオリムライダーは絶叫する。

雄二「ドSトリオだ!」

京谷「マジかよ!」

榊「うわあ…」

純「死んだねこれは…」

それには誰もがうわーとなる中で沖田が行動を仕掛ける。

沖田「やっぱここは…スタンダードだがくすぐりで攻めてやろう」

オリムライダー「お、俺はそんなので笑わねえぞ!」

ティーチ「笑いそうですな」

純「笑うね」

榊「笑うだろうな」

それに誰もがそう思い…

10秒後

オリムライダー「あひやひやひやひやひやひやひやひや W W W W W」

沖田「おいおい、もう笑うとは弱すぎじゃねえかええ?」

明久「早いよ W」

雄二「1分も経ってねえぞ W」

秀吉「も、もう W W W」

はやて「W W W W」

ティーチ「はやて殿が喋れないくらいに W」

榊「瞬殺 W W W」

純「ぷはははははははははは W W W W」

京谷「W W W W W W」

デブーン!

全員、OUT!

あつさりと笑わされる様子にまたも爆笑してしまう。

バシーン!

秀吉「い、いかん。あの御仁ので凄く笑うのを耐えるのが辛いの

じゃ…」

純「ホントに死にそう…」

榊「マジで腹いてえ…」
誰もがぜえぜえとなる。

楽屋裏

キヤトラ「w w w w w w」

アイリス「大変、キヤトラが笑い過ぎて悶えちやってる！」

おそ松「w w w w」

チヨロ松「兄さんもだし！いやまあ、良いけど」

ザック「お前本当兄の扱い雑だな！」

鬼矢「確かに、雑だな；」

乃亞「こ、これ以上やるとこっちの被害がデカいんじゃねえか…」

幽々子「そ、そうかもしれないわね：w w」

こちらもちらで数人が笑い転げていて乃亞のに幽々子は笑いな
がら同意する。

戻って明久達

幽香「うふふ、さあ、豚の様に鳴きなさい！」

パシッ！パシッ！パシッ！パシッ！パシッ！パシッ！パシッ！パシッ！パシッ！パシッ！
シッ！パシッ！

オリムライダー「痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い
！」

明久「お、オリムライダーのケツをまるで太鼓の様にw」

雄二「ま、マジやべえw w」

秀吉「w w w w w w」

はやて「ひーひーw」

ティーチ「止めてw w w我々の腹筋はもうOでござるw w w」

榊「ぶつぶふw w w w w w」

京谷「もう死ぬ：マジ死ぬw w w w」

純「ぶははははははw w w」

デデーン！

全員、OUT！

続けてのケツ叩きに誰もが悶える。
バシーン!

沖田「え? そうツスカ? お2人さん。虐めるのこれまでだそうだぜ」

幽香「あら? そうなの?」

龍田「あらく私はしてないのに残念ね」

オリムライダー「た、助かった…」

すると電話に出ていた沖田がそう言い、2人は物足りなさそうにする。

明久「た、助かった…」

雄二「まだ続いてたらやばかった…」

ティーチ「ほんまそれですな!」

榊「わ、笑い死にするところだった…」

京谷「そ、そうだな…」

純「ひゅー…ひゅー…」

誰もがぜえぜえと息を整える。

龍田「んー…じゃあ最後にやろうとしてたネタをやりましょうか」

そう言つて龍田はオリムライダーを拘束していた紐を切り裂いた後に蹴りあげる。

オリムライダー「のおおお!」

ドシーン!

そのまま一輪車に乗る。

幽香「あら、これって」

沖田「ほう、噂の大五郎って奴ですかい」

それを見て幽香と沖田は言う。

オリムライダー「ちゃん」

沖田「お、始まった始まったw」

龍田「これが噂の大五郎ね」

それを見て言う2人の後にBGMが流れる。

オリムライダー「ちゃああん。」

幽香「さて、行きましようか」

龍田「そうね〜」

ドSトリオ3人が去り、オリムライダーにズームアップする。

ワンサマー「ちやあああああん!……ちよつとはイジれよ!!」

明久「ぐはwww」

雄二「ぐほほほほほほw」

秀吉&はやて「wwwwww」

ティーチ「wwwww(チーン)」

榊「wwwww(チーン)」

純「wwwwwww」

京谷「ぷははははははははははwww」

最後のオチに全員の腹筋に大ダメージを与えた。

デブーン!

全員、OUT!!

楽屋裏

十四松「wwwww(チーン)」

シユガー「wwwww(チーン)」

チヨロ松「あ、あれはきついwww」

ゼロキス「た、確かにw」

トド松「い、一松兄さんがマジ加わってなくて良かったw」

鬼矢「wwwwwww」

乃亞「これは無理だろwww」

佳奈「あははははははははははwww」

正邪「ぷははははははははははwww」

刹那「あははははははははははwww」

そしてこちらも大ダメージを受けて数人が落ちていた。

新八「あ、あれはじ、自分達も笑わされちゃったね」

銀時「いや、あれ普通にやばいだろ捧腹絶倒させマンだよあれ」

伊御「そ、そうですね…」

乃亞「マジでやばかった…」

なんとか息を整える新八の後の銀時のに誰もが頷く。

キヤトラ「こ、これは時間をおいた方が良いわ」

おそ松「マジ同意wまだオリムライダーのがつええw」

一松「せやなw」

佳奈「はーはー…そ、そうだね…」

真宵「色々犠牲が多いんじゃないよ；」

そう提案するキヤトラにおそ松や他のメンバーも同意する。

少し落ち着いてからキヤトラが切り出す。

キヤトラ「さて、ここから後半戦ね」

おそ松「確かに時間的にもそうだな」

鬼矢「残りは何だ？」

姫「えつとですね…」

聞く鬼矢に姫は予定表を見る。

おそ松「んー、確か驚いてはいけない以外にやるのは報告会にVS

バトルは確定だったな」

姫「あ、はい。そうですね」

鬼矢「まだまだあるんだな…」

覗き込んで言うおそ松のに姫は頷く中で鬼矢はそう言う。

チヨロ松「まあ、VSバトルは…確か女性陣でやるんだっけ？」

守理「そうらしいね。ちなみに袴とかじゃなくて普通にジャージ姿

でやると言う」

ドラ・ザ・キッド「そりやそうだ；」

ドラメッド「女の子でも出来るゲームをやると決めていたでア

ー

美陽「女の子でもできるゲームね…」

月奈「一体何するんでしょうか」

確認するチヨロ松のにそう言う守理にキッドも頷き、ドラメッドが

そう言い、美陽と月奈は気になる。

おそ松「んで報告会、そっちの純とかの情報とか大丈夫か？」

乃亞「それなら大丈夫だ」

幽々子「純君のことならいっぱい知ってるからね♪」

妖夢「あははははは；」

うふふと笑う幽々子に妖夢は空笑いする。

チヨロ松「……………そっち大変そうだね；」

美陽「ホントにね；」

月奈「純さん…南無です」

そんな幽々子を見て呆れて言うチヨロ松に美陽は同意し、月奈は手を合わせる。

キヤトラ「んで、京谷と榊の方のは？」

真宵「それなら調査済みなんじゃよ！」

咲「安心して。京谷の事なら私の知らないことはないわ」

伊御「へーそうなんだ。京谷の事よく知ってるんだね」

一松「つまり、それ程虐めたくなると」

チヨロ松「いや、それおかしいだろ一松！」

続いて確認するキヤトラに真宵と咲はそう言い、伊御の後の一松のにチヨロ松はツツコミを入れる。

咲「ええ、そうね」

チヨロ松「やだこの子、普通にドSだった」

カラ松「最近のガールは怖い時を感じるなホント」

鬼矢「あー、確かに時々な」

伊御「；」

ふふふと笑って言う咲にチヨロ松は少し引き、カラ松も顔をヒクヒクさせて言ったのに鬼矢は同意し、伊御は無言で冷や汗を流す。

おそ松「んじやま、仕掛け人以外はたっぷり笑おうぜ…腹筋壊さねえ程度に」

トド松「マジそれね」

佳奈「うんうん；」

妖夢「そうですね；」

そう言うおそ松のに誰もが同意する。

オマケ

オリムライダー「や、やっと解放された…」

大五郎の後、解放されてよろけながら帰ろうとするオリムライダー

??? 「待ちなよ。ワ・ン・サ・マー☆」

オリムライダー「ヒツ！（；。□。□）」

後ろからの低い声にオリムライダーは震えて振り返る。

するとそこには…目が据わったISビーストの一夏が…巨大なハンマーを携えて立っていた。

一夏「まさかまたそれをやるなんて…覚悟は出来てるかな？かな？」

オリムライダー「待つて…これ俺の意思じゃないから！強制的にされたのだから！」

笑ってない目で言う一夏にオリムライダーは必死に弁解するが…

一夏「ふふふ、や・だ☆」

オリムライダー「あああああああああああああああ!!？」

聞いて貰えずに制裁を受けるのであった。

ダイゴヨウ「ちよ、提灯と…」

ラットル「ネズミと…」

弾「親友と…」

タイガトロン「虎を見た…」

その制裁を2匹と1台と1人が震えながら見ていた。

団体バトル開始から終了まで

前回のスペシャルゲストによる笑いで笑いまくった明久達。
今はなんとか回復した様だ。

明久「あー、辛かった」

はやて「は、腹がマジきつかった」

ティーチ「それな、ですな；」

榊「ホントに死ぬところだった……」

京谷「確かに……」

純「まさかあんなに爆笑するとはね……」

それぞれが息を整えながら机に突っ伏すしていた。

雄二「マジであれば腹筋壊れるかと思っただぞ」

秀吉「う、うむ」

純「あれは今までのと次元が違うよ……」

京谷「だよなあ……」

誰もがオリムライダーので領いているとアナとブラックキングとサンダーダランビアが来る。

ブラックキング「お前等大変や、とある団体が訴えに来たんや」

サンダーダランビア「それを見学にしに行くツス」

明久「それってもしかして……」

雄二「団体バトルか……」

純「ああ、あれね……」

榊「どんな団体なんだ？訴えてきたのは」

アナ「え？えつとそれは……」

その流れに気づく明久と雄二のに純も思い出して榊は質問するとアナが口ごもる。

ブラックキング「えー訴えて来たのは……胸を大きくしたいんじやー団体の皆さんです」

明久「ぶつw」

雄二「おいwおいw」

秀吉「くぷw」

はやて「なんて名前やw」

ティーチ「凄い切実な願いがw」

純「あー；」

榊「確かに叶えたい願いだな……一部の女子が」

京谷「；」

デデーン！

明久、雄二、秀吉、はやて、ティーチ、OUT！

団体名に榊と純に京谷を除いて笑う。

バシーン！

ブラツクキング「んでまあ、向かうぜ」

明久「一体どういう組み合わせだろう……」

秀吉「確かに気になるのう」

榊「んー貧乳の相手と言ったら……」

京谷「まさか……な」

ホント誰もが疑問に感じながらその場所へと向かう。

場所は体育館の様に広い場所であった。

明久「広いね」

純「ここに抗議に来ている奴らが居るんだね」

そう言つて集団を見て……あーとなる。

訴え組：メアリー、エリちゃんトリオ、佳奈、つみぎ、姫、優子

財団組：香子、知帆、アン、ドレイク、美波、真宵、山神

明久「あー……うん」

雄二「すげえ……島田のあの凄く嬉しそうな顔……」

秀吉「それだけ嬉しかったのじゃな……あ、姉上がこつち睨んでる……」

榊「と言うか貧乳メンバー、全員美波を睨んでるな……」

京谷「裏切者っていう感じにな……；」

純「あはははは……；」

デデーン！

純、OUT!

それに各々に言った所、純は苦笑しちやったのでアウト宣言された。

純「あ。しまった」

苦笑も笑いの1つなので入ってるのでしちやったのに純は呟いた後に叩かれる。

バシーン!

香子「凄い睨まれてるな美波」

美波「いやー、ホントです。自分もあっち側だっただけに」

真宵「凄いオーラなんじゃよ」

つみき「裏切り者」

佳奈「絶対に許さないよ」

普通に嫉妬の目で美波の大きくなった部分を見る面々に雄二と秀吉に榊と京谷はうわーとなる。

明久「凄く大変だな」

純「これ和解できるの？」

そう言う明久の後に純がそう言う。

明久「いや、きつとバトルするからこそ闘志を燃やす為にじゃないかな？」

雄二「明久：お前はマジ読めてるのか読めてないのか分からねえな(恋愛除いて)」

秀吉「うむ(恋愛を除いて)」

はやて「気合入ってるのは分かるけどな」

ティーチ「明久氏は女性のは一部空気読めない所あるでござるな」

榊「うんうん」

京谷「読むの学んだ方が良いぞ明久」

純「じゃないと絶対大変だからね」

明久「？」

各々に言われて明久はハテナマークを浮かび上がらせるのであった。

メアリー「我々は胸を大きくしたいのだ」

佳奈&姫「そうだそうだー！」

アン「えーメアリーは大きくなってからが良いわ」

真宵「あれ？でも英霊って成長しないんじゃない？」

佳奈達と共に訴えるメアリーにそう言うアンのに真宵はそう指摘する。

アン「あ…」

メアリー「だから胸が大きくなる薬を所望してるんじゃないか!!」

そう言えばそうだったなーなアンにメアリーはブンブンと手を振り、エリちゃんズもうんうんと頷く。

雄二「ノーコメントだな」

秀吉「ワシはワシで言ったら姉上や清水に後で説教されそうじゃから同じく；」

京谷「俺もノーコメ」

純「右に同じく」

榊「以下同文」

はやて「ウチはウチで揉んで大きくしたい」

ティーチ「はやて殿凄く女子だからこそ言えることですよwww」

デデン！

ティーチ、OUT！

それに明久を除く男性陣はそう言い、はやてのにティーチは思わず笑う。

バシーン！

香子「それなら販売部で買えば良いだろ」

メアリー「…小さい子には売れませんかと言われた(´・ω・｀)」

その言葉に誰もがあー…となる。

メアリーは体格を見ると中学生ぐらいと思われても仕方ないのだ。

雄二「18歳以上向けだったか…」

秀吉「身分証明のはメアリーは持っておらんから；」

京谷「つかサーヴァント全員持ってなさそうだな」

榊「あー；」

純「なら別の人に頼んで買ったら良かったんじゃない？」
メアリー「：使う人じゃないと売りませんとも言われた」

その言葉に誰もがまたあーとなる。

メアリー「とにかく勝負だよ勝負！勝ったら大きくなるの！」

山神「大きく…なるんでしょようか？」

真宵「さあ？」

???「ふはははははははははは!!」

ビシツとメアリーが指さして言った瞬間、突如笑い声が響き渡る。

明久「え？何？」

???「ひとつつ、鼻肩はせずに：」

それに誰もが戸惑うと声がそう言い：

雄二「なんか聞いた事あるフレーズだな」

???「ふたつつ、不正は見逃さず」

榊「あ、あそこだ！」

その後に黒いフードを纏った人物に榊が気が付き、誰もが見る。

???「みつつ！見事にジャツジする！」

そう言つてフードを脱ぎ捨て：

サマーソウル「審判ロボのキャプテントンボーグかと思つたか？私

だあああああああああ！」

明久「またw」

雄二「あんたかよw」

秀吉「思わせぶりの声とセリフを出しときながらw」

はやて「くぷw」

ティーチ「不意打ちw」

榊「ぷはっww」

純「ぷぷっww」

京谷「ぶははwww」

デデーン！

全員、OUT！

本人かと思いきやまたもサマーソウルの登場に誰もが思わず笑う。
バシーン！

サマーソウル「この勝負は私が預かる！これから君達にあるゲームをして貰う！」

ブレイブエリザ「あるゲーム？」

知帆「ゲームですか？」

真宵「一体どんなゲームなんじゃよ？」

告げられた事に誰もがサマーソウルを見る。

サマーソウル「題して…くるくる回って目を回した状態で相手の風船割りゲー…ゲーム!!」

ハロウィンエリザ「無駄にながっ!？」

山神「ええ!？」

ドドーン!と宣言された事に誰もが戸惑う中でサマーソウルはルール説明を始める。

サマーソウル「ルールは簡単。両チーム、両足に付けた2つの風船を玩具のバットで割ったチームが勝ち!ただし、10秒経つまで回転し続ける事!」

明久「それって…」

雄二「そりやあ目が回るな」

榊「そうだな」

京谷「まあゆっくり回れば回んないかもな」

説明を聞いてコメントした京谷にサマーソウルがあま…い!と叫ぶ。

サマーソウル「その少年!甘い甘い!かき氷の様に甘すぎる!全力でやらなければいかんだろう!!もしゆつくりだったらさらに10秒追加だ!しかも全員!」

エリザベート「ええええええええええ!？」

真宵「理不尽!？」

雄二「サマーソウルだからそう言うと思った;」

純「やっぱりずるは駄目か」

京谷「なら十秒じゃなくて十回回れば良いんじゃないやね?」

そう指摘する京谷に再びサマーソウルは馬鹿野郎と叫ぶ。

サマーソウル「そんな事したら数えきれない奴が出るだろうが!!!」

明久「あー…」

雄二「ありえるな…特に姫とか」

京谷「あーそっか」

榊「確かに十回以上回りそうだな」

純「うん；そうだね；」

ティーチ「必死になって数えるのを忘れてそうだな」

はやて「確かに回つてると数えきれなさそうだな；」

言われて誰もがあーと納得する間にそれぞれ準備が終わる。

サマーソウル「と言う訳で行くぞ！用意！スタート！！」

ピーーーーーー！！！！

ホイッスルを吹くと同時に誰もが回る。

明久「なんと言うか、見てる人も目が回りそうだね」

秀吉「確かにそうじゃな」

純「確かに見入っているとなりそうだよな」

榊「そうだな」

そんな回る光景を見て各々に言っている時計を見ていたサマーソウルが叫ぶ。

サマーソウル「はい10秒経った！割りにいけい！！」

姫「え、ええい！」

ブンっ！

合図と共に目を回した姫は勢いよく振るう。

パン！

そして見事に割った…味方である優子の風船を…

優子「姫、それ私の；」

姫「ふえ!?!」

榊「あー；」

京谷「やつちやつたな…」

姫ならやりそうと思ったと誰もが思ったが本人の名誉の為に心の中で留める。

つみき「えい！」

香子「おっと」

一方でつみきは香子を狙いを付ける。

佳奈「ええい！」

千帆「きゃっ!？」

一方で佳奈は知帆へと狙いを付けて割ろうとしていた。

佳奈「やあっ！」

知帆「っ！」

勢いよく振るう佳奈のに知帆は持っている玩具バットで弾いた後に…

知帆「はあっ！」

ズバツ!

佳奈の風船を斬った。

明久「割るんじゃないで斬った!？」

雄二「玩具のでようやるな!？」

秀吉「達人は剣を選ばぬと言うが!？」

ティーチ「選ばなすぎ!？」

榊「凄すぎだろ!？」

京谷「マジかよ…」

純「凄いね…」

はやて「ほんまやな；」

それには誰もが驚く。

アン「まあ、凄いわね〜」

メアリー「凄すぎだよ！」

それに割ろうとぶつかっていたアンとメアリーは啞然とする。

知帆「そ、そうかしら？」

佳奈「隙あり！」

パンっ!

それに知帆は照れるがやり返すと佳奈は知帆の風船を1つ割る。

ドレイク「はっはっはっ! ドンドン来なよ！」

ブレイブエリザ「きいいい! おちよくって!」

こっちではドレイクがエリちゃんズを軽々といなししていた。

雄二「3対1で圧倒してるな」

榊「流石ドレイク：凄いな」

純「あ、そろそろエリザたち瞬殺されるかな？」

パン×6

それに雄二たちが各々に述べた後にエリちゃんズの風船は割られる。

エリちゃんズ「くやしいいいいい!!」

ドレイク「ふふん」

姫「え、えい！」

そこに姫が来て、ドレイクはひよいと避ける。

避けられた姫はあわわ：とよろけ：

姫「きやう！」

パン×2

こけてしまい：それと共につみきと香子の風船をそれぞれ1個ずつわる。

はやて「またw」

明久「あちやあ」

純「あーあ」

榊「姫：」

デデン！

はやて、OUT！

それには外野を含めて誰もがまたか：となる。
バシーン！

はやてが叩かれてる間もバトルは続く。

姫「あわわわわわ!？」

香子「よっ」

パン！

慌てて起き上がろうとした姫の風船を香子は割る。

姫「あう！」

佳奈「姫ちゃん！」

姫をフォローしようとする佳奈に知帆も香子をフォローする為に佳奈を行かさない様にする。

香子「よっ！」

つみき「！」

タツ！

もう一度狙おうとする香子をつみきが割って入って受け止める。

つみき「はっ！」

香子「おっと！」

風船を割ろうとするつみきに香子は避ける。

雄二「互角の勝負だな」

榊「さすが御庭だぜ……」

純「凄いねどっちも」

ティーチ「どっちが勝ってもおかしくないですな」

それに誰もが言っている間にそれぞれ割られて行き、最後はつみきと香子の一騎打ちになっていた。

ドレイク「いやくまさかあそこでうっかりでこけた姫にやられるとは」

姫「す、すみません……」

山神「いや、謝らなくていいですからね；」

はははと笑うドレイクに姫は頭を下げるのに山神がそう言う。

つみき「たあっ！」

香子「おっと」

お互いに互角の勝負を見せる。

明久「手に汗握るね」

純「そうだね」

榊「いつまで続くんだろうな」

京谷「つかもう目、回ってないだろあれ」

そう言う京谷に確かにと誰もが思った。

楽屋裏

長谷部「凄いなあの子。香子と互角に戦うとは」

キヤトラ「確かに凄いけど、目回しがもう終わってると言うね；」

ミルカ「；」

チヨロ松「んで、どっちが勝つんだろうか？」

おそ松「俺的につみきちやんで」

田中「俺は香子さんだな」

鬼矢「まさかの引き分けに一票で」

そう言つて各々にどっちが勝つかでトトカルチョを始める。

戻つて明久達

つみき「これで決める！」

香子「そうだな」

そう言つてお互いに駆け出し：

パン!!!

音が鳴り制したのは……

純「同時に：割れた……」

：2人のどちらかでもなく、同時に割られていた。

明久「つまりこれって……」

サマーソウル「そこまで！勝負は引き分けだ！」

美波「えー!?!」

真宵「引き分けー!?!」

誰もが結果に驚く。

サマーソウル「と言う訳で残念ながらご褒美なし！」

メアリー「あう；」

佳奈「えー！」

純「ご褒美？」

そう言うサマーソウルのに純は首を傾げる。

サマーソウル「財団X側にはそれぞれ欲しいのを、そして挑戦者側が勝つたらこのご要望の大きくなる薬を……」

メアリー「奪い取る!!」

つみき「奪うわよ！変身！」

佳奈「変身！」

それを聞いた瞬間貧乳チームがサマーソウルに襲い掛かる。

明久「ああ、行っちゃった！」

ティーチ「必死過ぎる!!!」

榊「まあ仕方ないよな；」

京谷「本人たちからしたら悲願だもんな」

雄二「だな」

それには明久とテイイチは叫び、榊と京谷、雄二はうんうんと頷き、はやてはあららくと頬をポリポリ掻く。

サマーソウル「ふっ、さらばだ！」

ダッ！

メアリー「逃げたぞ！追えー！地の果てまでも追いかけるんだー
！」

貧乳団体「おー！おー！おー！おー！！！！」

攻撃を避けて逃走するサマーソウルに誰もが追いかける。

明久「行っちゃった……」

秀吉「姉上エ……」

純「狩る者の目だったね；」

榊「そうだな；」

そんな面々に誰もが冷や汗を掻くのであった。

ちなみに楽屋裏でトトカルチョで予想を当てた鬼矢に誰もが拍手していた。

第2の机ネタから報告会へ行くまで

前回からしばらくして部屋に戻った明久達は机の上に紙が置かれているのに気づく。

明久「えつと…引き出しの中身をリセットしとききました…うわあ…」

雄二「また開けるか…」

榊「またか…」

純「これって開けなきゃいけないんだよね？」

そうなりますなと言うティーチのに純はうへえとなる。

雄二「んじやあ。最初に開けたのとは逆で良いか」

榊「そうだな」

純「えつと…どんな順番？」

そう言う雄二のに榊が同意してから純が聞く。

ティーチ「最初は明久氏から時計回りで榊氏↓雄二氏↓京谷氏↓秀吉氏↓鬼矢氏↓はやて氏↓拙者の順だったから反時計回りで拙者↓はやて殿↓純殿↓秀吉殿↓京谷殿↓雄二殿↓榊殿で最後に明久殿ですな」

純「へー」

説明するティーチのに純は納得した後にティーチがさせ…と息を飲んで引き出しに手を付ける。

ティーチ「1段目…なし、2段目…もなし…3段目…ええ…」

3段目を開けてなんととも言えない顔をするティーチに誰もが首を傾げる中でティーチは中身を出す。

3段目の中身、テイルレッドをお姫様抱っこしてるテイルブルー

ティーチ「脳内で考えてる奴も出るとは明記してるけど…これは笑いのネタで良いのでしょうか；」

明久「あ、うん；」

純「笑つたらなんか可哀想だよね…」

榊「ああ、確かに；」

京谷「男としての尊厳とかな…」

それには誰もがあーとなる。

はやて「んじゃあウチやなくまさか2回目も狸な訳…(ガラッ)
………なんでやねん」

はやての1段目：小さい狸像

明久「くっw」

雄二「2度目もw w」

秀吉「ま、また狸w」

ティーチ「今度はリアルw」

榊「ぷっw」

京谷「っw」

純「へー、中々の造形だね」

デーン！

明久、雄二、秀吉、榊、京谷、ティーチ、OUT！

それにはやてと純を除いて笑ってしまう。

バシーン！

ティーチ「純氏は像とかに興味あるのですか？」

純「よく妖夢が刀の練習でやっているんだよ」

明久「刀の練習で？」

叩かれた後に気になって聞くティーチのに返された返答に明久は
首を傾げる。

純「ほら、大きな木を斬ってなんか作ったりするの」

京谷「ああ、ああいうのか」

はやて「それで像を作ってるって事かいな…凄いな…」

説明する純に京谷は納得して、はやても感嘆する。

はやて「つと、次は…」

2段目：たぬぬのヌイグルミ

明久「またw」

秀吉「しかも今度はくノ一はじめましたと言う漫画に出る狸w」

雄二「狸だけだよw」

ティーチ「はやて殿たぬきの多すぎw」

榊「ぶふっw」

京谷「ぷっw」

純「w」

デデーン!

はやて以外、OUT!

5度目の狸のに誰も笑う。

はやて「どっただけ続けるねん!」

明久「鉄板だね」

榊「天井だな」

京谷「お約束だな」

突っ込むはやてに明久と榊、京谷はそう言う。

バシーン!

雄二「次はどんな狸だろうな」

はやて「狸前提かいな雄二くん!」

純「まあ仕方ないよね;」

そう言う雄二のにツツコミを入れるはやてに純は頷く。

はやて「まったくもう:ええい!三度目の正直や!」

そう言うてはやてが三段目のを開ける。

はやての3段目:たれパンはやてのヌイグルミ

はやて「ぶふw」

明久「これは予想外w」

雄二「パンダのヌイグルミかよw」

秀吉「しかもたれパンダw」

ティーチ「ホントに予想外ですぞw」

純「まさかのパンダw」

榊「ぶはっww」

京谷「ぶふっww」

デデーン!

全員、OUT!

狸ではなくパンダにはやても含めて笑ってしまう。

バシーン!

ティーチ「次は純氏ですな」

純「僕か。一体なにかな？」

呟いてから純は開けて…突っ伏す。

明久「ええええええええ!!?どうしたの純さん！」

秀吉「何が入ってたんじゃ!!?’

純「な、なんで…?’

震えながら純はそれを取り出す。

純の1段目の中身：幽々子と可愛くされてる純の写真

明久「あ、ああ…’

雄二「ぷw」

秀吉「これは災難じゃな；」

ティーチ「うーん。凄く違和感ない；」

はやて「めっちゃかわええw w」

榊「確かに可愛いな」

京谷「そ、そうだな；」

デーン！

雄二、はやて、OUT！

それに雄二とはやてが笑うと…

ボオオオオオッ！

「!?’

純「ねえ、今なにも見なかったよね？ね？」

写真を燃やして黒い笑顔で言う純に誰もがあ、はいとなる。

楽屋裏

おそ松「すっげえ黒歴史だったんだな」

トド松「そりゃあそうでしょ普通に；」

月奈「すっごく怖い顔でしたね」

美陽「そうね；んで提供者は写真焼かれて落ち込んでるし」

幽々子「orz」

その様子を見てそう言うおそ松にトド松はそう言い、写真を焼かれた事で落ち込む幽々子に美陽はなんとも言えない顔をする。

フォックス「そんなあなたにこれをプレゼント」

するとフォックスがすつと幽々子の前に出てトランクケースを差し出し、幽々子はなんだろうと中身を見て…目を見開く。

なんだろうかと横からカラ松は覗き込む。

カラ松「こ、これは…様々な服を着た純氏の写真集!」

真宵「いつのまに!」

幽々子「買値はいくらかしら?なんなら言い値で良いわよ」

フォックス「お代はいらない。プレゼントだからな」

驚く面々を前に目を輝かせて聞く幽々子にフォックスはそう言う。

幽々子「ふふ、純君コレクションが増えたわ♪」

妖夢「ゆ、幽々子さま…」

咲「あはははは;」

ご満悦な幽々子に妖夢は冷や汗を流し、咲は空笑いする。

守理「と言うかどうかやって手に入れたの?」

ゼフィランサス「ああ、なんか幻想郷に来た事で得た能力での撮った写真だよ。ちなみに撮った対象の色んな写真が出来上がるとか」

チヨロ松「何それ;」

鬼矢「あとでバレないようにな」

そう注意する鬼矢に幽々子はふふつと笑い…

幽々子「大丈夫だ。問題ないよ♪」

サイサリス「(あ、これももうバレるな)」

グロツケン「(確実にフラグを踏みやがった)」

乃亞「(これは焼かれるな)」

香子「(絶対焼かれるな)」

誰もが先の展開が読めてあーあーとなる。

戻って明久達。

明久「2段目は?」

純「えつと……」

促されて純は笑いで入ってますように…と願いながら2段目を開ける。

純の2段目：爆弾

明久&はやて「また!？」

京谷「マジかよ!？」

純「えつと…どうする?これ」

それに誰もが距離を取り、純は聞く。

ティーチ「きつとコードがある筈ですぞ!」

榊「それを切れば…」

純「コードね。えつと…」

それに純はコードを確認する。

コードは紫と桃色であった。

純「紫と桃色ねえ…」

京谷「一体どつちなん…」

パチン

それに京谷が言い切る前に純は紫を切る。

するとピンポーンと言う音声か鳴り響く。

雄二「切るのはええな!」

秀吉「京谷が言い切っておらなかったぞ;」

純「ん?」

榊「しかも正解出すとは…」

すげえと言う面々の視線に純は首を傾げながら3段目のを開ける。

純「なにもないよ」

秀吉「それなら次はワシじゃな…」

そう言つて秀吉は1段目を開ける。

1段目：雷が描かれたボタン

秀吉「これは…」

榊「ボタンだな」

純「なんか絵が書いてあるね」

この雷はなんだろうかと思つたが次の引き出しを開ける。

秀吉「…またボタンじゃ」

秀吉の2段目：鬼の顔が描かれたボタン

明久「また?」

ティーチ「鬼ですな」

京谷「まさかラムちゃんになるボタンだったり」

どうなんだろう…?と思っている間に秀吉は3段目を開ける。

秀吉「3段目はなしじゃな。次は京谷じゃな」

京谷「お、俺か…」

何が入ってるんだ…?と京谷はゴクリと息を飲んで1段目を開ける。

京谷の1段目：咲の写真

楽屋裏

咲「なんで!?!/!/」

まさかの自分の写真に咲は思わず顔を赤らめ、真宵と佳奈はいえー
いとなる。

ドド松「うん。リア充爆発しろだね☆」

一松「マジそれな」

咲「だ、誰がリア充よ!」

月奈「え?違うんですか?」

それを見たドド松は笑顔でそう言い、一松も頷くのに咲は慌てて否
定するが月奈のいやその…?と腕をバタバタ振る。

つみき「…顔真っ赤」

幽々子「あらあら」

からかう面々に咲はもー!と手を振る。

戻って明久達

はやて「おやおやくフィギュアの子やなく」

京谷「な、なんで崎守の写真が…」

榊「取り敢えず貰っとけばどうだ?」

戸惑う京谷に榊は茶化すと貰えるかと怒鳴り返される。

明久「?写真のなんで戸惑うの?」

ティーチ「(ホント明久氏エ…)」

秀吉「(幼き頃のは聞いてはおるが無知過ぎるのじゃ…)」

雄二「(まあ、それを除けばな…)」

榊「(良い奴なんだけどな…)」

京谷「いや…それは…」

心底疑問な明久のに京谷はどう返せば良いか言葉が詰まったが次だ次！と勢いで誤魔化して2段目を開ける。

京谷の2段目：お姫様咲のフィギュア

明久「あ、またフィギュアだ」

京谷「またかよ！次は！」

3段目：王子様な京谷のフィギュア

3段目のを開けると次は俺かよ！と京谷は叫ぶ中でティーチは気づく。

ティーチ「はっ！これは合体できる奴ですぞ！」

榊「何っ!？」

純「つてことは…」

その言葉と共に京谷は恐る恐る自分と咲のフィギュアを近づけ…

はやて「あ、合体した」

京谷「マジかよ!？」

誰もがおーとなり、京谷は絶叫する。

明久「1つ出来るって凄いね」

ティーチ「よく作ったでござるな」

京谷「それがなんで俺と崎守のなんだよ…」

突っ伏すしながらそう言う京谷を後目に雄二が俺だな…と1段目を開ける。

雄二の1段目：服のボタン。

明久「ぷw」

秀吉「ふ、服のボタンw」

雄二「確かにボタンだけだよ」

はやて「そこはなんかのボタン来ても良いんやないかなw」

ティーチ「確かにw」

純「と言うかなんで服w」

榊「確かになw」

デーン！

明久、秀吉、榊、はやて、ティーチ、純、OUT！

普通の服のボタンに思わず雄二と突っ伏すしてる京谷を除いて笑ってしまう。

バシーン!

雄二「んで、2段目は…?」

続いて2段目のを開けた雄二はん?となつた後にそれを取り出す。

雄二の2段目:手帳の様なの

明久「何これ?」

榊「手帳か?」

京谷「でもなんで手帳?」

誰もが首を傾げる中で雄二は手帳を開き…

雄二「ぶっw」

笑った。

デデーン!

雄二、OUT!

明久「どうしたの雄二!」

純「んー?」

いきなり噴いた事に誰もが驚き、純が見ようとする前に雄二が見せる。

中身:近藤勲と言う写真の下にゴリラと刻まれている。

明久「ぶふw」

秀吉「本家であつたのを模した奴かw」

はやて「あ、あかんわw」

ティーチ「くくくw」

純「ぷはっw」

榊「ぶふっw」

京谷「ぶはっw」

デデーン!

雄二以外、OUT!

出されたのに誰もが爆笑してしまう。

楽屋裏

近藤「ちよつとおおおおおおお!!あれカツコいいのを見せる為
につて奴で撮ったのだよね!?ねえ!」

おき太「お、落ち着いてください別世界の近藤さん;」

銀時「まあ、笑いのネタにやあ丁度いいやつだろ」

月奈「まあ確かに;」

幽々子「面白かったわよさっきの」

佳奈「うんうん!」

絶叫する近藤に英霊のおき太が宥めに入り、銀時がそう言つて、月奈の後のくすくす笑いの幽々子に佳奈も同意する。

近藤「俺リリカル銀魂だとあんまりゴリラ扱いされないからここぞと言わんばかりに使われてるよ!」

銀時「けどまだマシじゃねえか?本家でのを取り入れてたらM1号のになつてた可能性大だぜ?」

信長「ぶふw」

武蔵「そ、それはありえそうねw」

美陽「ぷはははははw」

姫「ぷぷつw」

メタイ事を叫ぶ近藤のに返した銀時のに誰もが笑う。

鬼矢「にしてもさっきのフィギュアのは凄かったな」

乃亞「ああ、確かあれ作ったのは誰……」

伊御「えつと確か……」

その後に咲と京谷のフィギュアの出来を鬼矢が褒めて、誰もが作った人物を見る。

アーチャー「む?私を見てどうした?」

キャトラ「作り上げた時はビックリしたわよね」

ザック「だよな」

鬼矢「まさかアーチャーがそこまで出来るとはな」

伊御「一体何処で習ったんだ?」

首を傾げるアーチャーに各々そう言う。

アーチャー「投影魔術の訓練の一環的みたいなものさ……色々と再現するのが出来れば出来る程、武器のも長く持つのが出来るからね」

キヤトラ「変わってるわね」

伊御「まあそれがアーチャーもといエミヤだしな」

乃亞「ただ、今は逃げた方が良さぞ。後ろ後ろ」

そう肩を竦めるエミヤにキヤトラはそう言い、伊御の後に乃亞がそう言う。

後ろにはジハドに変身した咲がおり、アーチャーはやれやれと肩を竦めながら攻撃をかわす。

アーチャー「言っとくが私は頼まれたただけだぞ。特に真宵くんが作ったらどうじゃろうかと薦めてたし」

ジハド「へー……そうなんだ」

真宵「ギクツ!?!」

避けながらのアーチャーのにジハドは真宵を見て、真宵はあはは…と半笑いした後…

真宵「さらばじゃ!」

ジハド「逃がさないわよ!」

ダっ!と逃げようとする真宵にジハドは追いかける。

鬼矢「……さて、あつちにカメラ戻すか」

そう言つて鬼矢は明久達を見る。

戻つて明久達

雄二「3段目は…なしか…次は榊だな」

榊「えつと…」

3段目はなかったのでもう言う雄二に榊は1段目を開ける。

1段目：モノドの剣（レプリカ）

榊「中の人おおおおお!?!」

明久「声ネタw」

雄二「またかよw」

秀吉「確かにそうじゃがw」

ティーチ「穏やかじゃないですねw」

はやて「てい、ティーチさん似合わんわw」

純「うんうんw w」

京谷「ぶははははw」

デデーン!

榊以外、OUT!

まさかの中の人ネタ+ティーチの笑かしに誰もが笑う。

明久「同じ声だよね」

榊「明久と純みたいにな」

バシーン!

叩かれるのを見ながら榊は2番目の引き出しを開ける。

榊「あ、これって……ガイアメモリか?」

榊の2段目:ガイアメモリ

雄二「おいおい、またかよ;」

純「また?」

京谷「実はさつきも出たんだよ」

榊「ああ、これな」

カチッ

ぶははははははははははははははははははははははw w w

そう言つて鳴らすと……京谷の笑い声が響く。

デデーン!

京谷、OUT!

雄二「今度は京谷か」

京谷「何故だあ!?!」

鳴り響いたのに京谷は絶叫する。

バシーン!

榊「まだ前のあるぜ」

カチッ

ぶははははははははははははははははははははははw w w

そう言つと雄二の笑い声が響く。

デデーン!

雄二、OUT!

雄二「榊てめええええええええええ!!」

ティーチ「まだ持ってたんですな;」

純「あーなるほどね；」

それに雄二は叫び、ティーチは冷や汗を流して純は納得する。
バシーン！

明久「3段目は？」

榊「えつと…」

言われて榊は3段目のを開ける。

榊の三段目：ゲーム

ティーチ「これは…ゲームですな」

榊「しかもこれ昔のゲームだな」

純「見る限りファミコンかな？」

ファミコンでどういうゲームと誰もが疑問を感じる。

榊「ま、魔界村エリザ？」

雄二「……………おい、普通におい」

はやて「パロディかな？」

純「あ、メモもあった。…ええ？クリアしろ？」

あつたメモを見た純はマジでと冷や汗を掻く。

秀吉「やるのは明久のを開けてからでどうじやろうか？」

榊「そ、そうだな…」

京谷「(やるとして今日中に終わるか?)」

頷く榊の横目に京谷はそう思った。

明久「んじゃあ僕だね」

はやて「何が出るんやろうな？」

純「嫌な予感するなー；」

最後の番であった明久に純はそう言った後に明久は1段目を開ける。

明久の1段目：服のボタン

明久「あ、服のボタンだ」

雄二「2回目w」

秀吉「まさかもう1個とはw」

はやて「これは予想外やw」

ティーチ「確かにw」

榊「一体何なんだこれ？」

京谷「そうだよな…」

純「気になるよね」

デーン！

雄二、秀吉、はやて、ティーチ、OUT！

2個目のボタンにまさか続くとは思わなかった上記4人は笑う。

明久「えっと、2段目は…」

明久の2段目：服のボタン

明久「また!？」

雄二「まだ続くかw」

秀吉「だ、誰のじやろうなw」

はやて「せやなw」

ティーチ「と言うかこれまで3個も出てるでござるなw」

純「出すぎでしょ；」

榊「確かにな；」

京谷「ホントなんだ？このボタンは」

デーン！

雄二、秀吉、はやて、ティーチ、OUT！

までも出て来たボタンに明久は驚き、上記の4人はまたも笑ってしま

まう。

明久「えっと3段目…」

次の引き出しを開けた明久は…笑いそうになるのを堪えて全員へ

と見せる。

明久の3段目：オリムライダーのフィギュア

明久「ぶは!!www」

雄二「くぶw」

秀吉「あ、あの御仁のかww」

はやて「ま、また笑いがw」

ティーチ「ぶふww」

榊「ぶふつwww」

京谷「ぶはつww」

純「ぐはっwww」

デブーン!

全員、OUT!

まさかのオリムライダーのフィギュアに誰もがあの時を思い出して爆笑してしまう。

楽屋裏

一部の者達「wwwwww」

キヤトラ「沈んだああああ!!」

鬼矢「あれは仕方ないwww」

乃亞「確かにwww」

それには楽屋裏の面々も沈み、鬼矢と乃亞も笑いながら言う。

おそ松「誰w抱腹絶倒させマンのフィギュア作ったのwww」

一松「俺が財団Xに頼んで作って貰ったw」

銀時「主犯はお前かw」

ザック「やつべまたwww」

佳奈「あはははははwww」

真宵「ぶはははははwww」

伊御「ぶははははwww」

またも爆笑の嵐が巻き起こったのであった。

戻って明久達…

バシーン!

明久「ま、また見るとは…」

ティーチ「ホントやつべえですな」

榊「マジでやばいぜこれは…」

純「そ、そうだね…」

なんとかオリムライダーのフィギュアを仕舞った所で誰もが落ちて着いた。

明久「そう言えば仕舞う時に封筒があった」

雄二「なんだ? 中身は2つもあったのか?」

榊「何か書いてあるな」

そう言つて封筒を見せる明久は言われてみる。

明久へ 美波

明久「あ、美波からだ」

秀吉「島田からか？」

純「美波ちゃんから？」

京谷「中身は？」

ええつと：明久は中身を取り出す。

封筒の中身：大きくなつたからボタンが飛んじやつた♪と言うコメントが付いた大きくなつた胸元がチラリと見せるボタンが弾けたシャツを着た美波

明久「美波：そんなに嬉しかったんだね」

雄二「おかんか！」

秀吉「と言う事は2つのボタンは美波の…」

はやて「みたいやな；」

ティーチ「凄いアピールだ」

純「確かに；」

榊「凄すぎるだろ；」

京谷「何人かが楽屋裏で血涙流してそうだな」

口元を抑えて泣く明久に雄二はツツコミ、ティーチのに純と榊は頷き、京谷がそう言う。

楽屋裏

優子「…本当に羨ましいわ…」

臯月「お姉ちゃん大きくて羨ましいです」

ジャック「だよね」

ナーサリー「羨ましいわ羨ましいわ」

メドゥーサ「葉月にジャック、ナーサリー…あなた達は今のままでいてください」

ステンノ「ほう、つまり私達もそうなの？」

エウリュアレ「ホントこの子は」

メドウーサ「Σ（・□・；）」

佳奈「メドウーサちゃん：南無；」

姫「う、羨ましいですう！」

月奈「私たちは：どういえばいいんでしょうかね？」

美陽「悩みどころねえ：」

羨ましがる少女たちにそう言って姉たちに弄り回されてるメドウーサに手を合わせる佳奈と姫の後ろである姿だと大きい月奈と美陽はなんとも言えない顔をする。

箒「……大き過ぎるのも大変だぞ」

セシリア「経験者は語りますわね；」

鈴「そんな箒の胸が大好きです」

ラウラ「うむ、ぶれないな」

鬼矢「はあ……やれやれ」

咲「あははは；」

真宵「あ、次はボタンのに行くみたいじゃよ？」

それに箒がそう言い、セシリアは苦笑する中でドドンと言う鈴にラウラはしみじみと語り、そんな鈴に鬼矢は呆れ、咲は苦笑する中で真宵が言う。

雄二「んじやあ、次は押すボタンのだな」

秀吉「ふむ、雷のはなんじやろうな？」

榊「誰が押す？」

出て来たボタンを見て言う榊にそれは決まっておりますでしょうとティーチが言う。

ティーチ「やはり2つとも出て来た引き出しの主である秀吉氏が押すべきでしょう」

京谷「そうだよな」

やっぱりそうなるのか……と思いながら秀吉はまず最初に出た雷の方を押す。

頼光「ふふ、押ししましたね」

純「いきなり出た?！」

榊「頼光さん!？」

するとドアを開けて頼光が現れて秀吉に近づく。

秀吉「な、何を」

頼光「ふふ、金時にしておきたいですが此処は主様に…」

戸惑う秀吉に頼光はふふつと笑った後…

ポヨン!

秀吉「ぶふ!？」

豊満な胸で秀吉を叩いた。

明久「ええええええええええええ!？」

雄二「む、胸ビンタw」

はやて「ぶふw」

ティーチ「まさかのw」

榊「ぶはっw」

京谷「あのスイッチはそういうことかw」

純「つてことは鬼のは…」

デデーン!

雄二、はやて、ティーチ、榊、京谷、OUT!

まさかの明久は驚く中で上記のメンバーが笑ってアナウンスが流れる。

バシーン!

秀吉「また胸によるビンタが来る可能性があるのかのう…」

榊「んー…でも雷が頼光さんだったから」

純「鬼の方はもしかして…」

起き上がって言う秀吉に榊と純は思う中で秀吉はボタンを押す。

そして出たのは…

茨木「……………(プルプル)」にゃーん

猫耳を付けて某有名アニメの鬼娘同様の虎柄のビキニを付けた茨木童子が来た。

明久「猫耳w」

雄二「それは予想出来なかったw」

秀吉「と言うか出来んじやろうw」

はやて「ほんまそれなw」

ティーチ「くぷぷw」

榊「ぶはっwww」

京谷「wwwwww」

純「あははは；」

デデーン！

純以外、OUT！

茨木「笑うニヤ!!」

バチーン!!

秀吉「猫パンチ!？」

顔を真っ赤にした茨木のパンチが秀吉の頬に炸裂する。

榊「ニヤってw」

純「あー語尾まで；」

デデーン！

榊、猫パンチ！

それに思わず榊が笑うがアナウンスのにん?となる。

明久「あれ？」

はやて「アウトやなくて猫パンチ？」

京谷「ん？」

アナウンスが違う事に誰もが疑問に思ったがすぐに分かった。

茨木「お前も笑うニヤ！」

バチーン！

榊「ぐほっ!？」

殴られる様子に誰もがああ…そう言う事か…と納得する中で茨木は出て行く。

明久「だから猫パンチ…」

雄二「まさに専用のアウトだな」

純「確かに；」

誰もが納得する間に榊は起き上がる。

秀吉「胸ビンタと猫パンチを食らうとは…」

榊「まあドンマイ；」

京谷「さて次はどれする？」

雄二「確か残りはゲームだけじゃなかったか？」

聞く京谷に雄二がそう言う。

榊「ゲームって言うと……」

純「この魔界村エリザカ」

これか…と純は榊の引き出し三段目にあつたのを見る。

明久「魔界村と変わんない感じかな？」

秀吉「そこらへんどうなんじやろうな？」

京谷「取り敢えず起動してみるか」

そう言つてテレビに繋げてゲームを起動する。

明久「ゲーム場面は…元のと変わらないね」

純「そうみたいだね」

榊「操作してみるぞ」

そう言つてスタートさせると一通り操作してみる。

武器が剣を振るい、盾を構えたり、音波を飛ばす以外は榊の知っているのであつた。

明久「操作してみよう？」

榊「多分行けると思う」

そう言つて榊は動かす。

やり方としては音波で相手の動きを止めた所で剣で倒して行く感じで飛んで来た攻撃は盾で防ぐ感じの様だ。

ティーチ「ほうほう、パロディですが攻撃とかのは良い感じですか」

京谷「そうだな」

純「あ？なんだあれ」

それを見て感嘆するティーチに京谷も同意していると純が進んだ先を見よう。

現れたのは…どこことなくティーチに似たレッドアーマーの様な存在であつた。

明久「ちよw」

雄二「ぶふw」

秀吉「なんとと言う組み合わせw」

はやて「ちゅ、中ボスカいなw」

榊「レッドアリーマーならぬレッドティーチww」

純「ぶふっww」

京谷「ぶはっww」

ティーチ「あ、なんか先の展開が読めた；」

デーン！

ティーチ以外、OUT！

それに思わずティーチ以外が笑ってしまう。

バシーン！

雄二「とにかく倒せば良いか」

榊「やれるか…？」

そう言いながら榊はブレイブエリザを操作し、レッドティーチを倒す事にする。

レッドティーチの放つ攻撃を盾で防ぎながら音波で動きを止めながら攻撃を仕掛ける。

純「お！良い感じ！」

榊「よし！これなら……」

そう言つて油断した所で防御が遅れる。

明久「あ、当たった！」

それにより…ブレイブエリザの鎧が消える。

明久&秀吉「ぶー！」

はやて「脱げた!!」

ティーチ「仕様は同じでしたか」

雄二「そこも同じにするか」

それには誰もが驚く。

なお、ちゃんと下には下着替わりの水着を履いてて誰もがホツとした。

榊「あ、盾も消えた!？」

京谷「ミスしたら防御できなくなるのか」

純「厳しいね」

その後盾も無くなったので防御出来なくなったので必死に避け

る。

榊「うおっ!?!やばっ!?!」

その後、攻撃が来たので慌てて避ける。

明久「相手は後どれ位で倒れるかな?」

榊「ゲージとかな、わからないからわからないんだよな」

そう呟く明久の、榊は操作しながらそう返す。

ティーチ「けど何発も当ててるのですしそろそろではないかと」

京谷「まあそうだよな」

その言葉の後にレッドティーチは青くなつた後に消滅する。

明久「あ、倒した」

榊「よし、進むぞ…ってあ」

と、意気込んだ時にブレイブエリザが骨になる。

明久「あい、うち?」

純「いや、雑魚敵の攻撃を喰らって死んだみたい」

榊「くっそ…また戦わないと…」

呻いた後に榊はもう一度!と気合を入れる。

数分後

榊「なんだこのムリゲー」

思わず榊はプレイしていてそう言う。

明久「流石魔界村を元にしてるの」

京谷「やっぱりこれ今日一日じゃクリアできないだろ…」

純「確かに…」

雄二「んでどうするんだ?」

それを見て各々に言う3人の後に雄二は聞く。

榊「頑張つてクリアするしかないだろ」

そう言つて榊はゲームを進めていく。

1時間後

榊「よし!一面クリア!」

ついに一面をクリアする事が出来、次だな次と思うとテロップが流れる。

明久「あれ?速い?」

雄二「一面だけのだったのか？」

京谷「いや、なんか違うみたいだぞ」

そして最後には…

榊&ティーチ タイキック

デデーン！

榊、ティーチ、タイキック！！

ティーチ「予想はしてた」

明久「ああ…」

榊「まじかよおおおおおお!!」

テロップの最後と告げられた事に榊は絶叫する中でインペラーと闘士アントラーが来る。

インペラー「おりやあ！」

闘士アントラー「(・ω・)！」

バシーン!!

ティーチ「のおっほ!!」

榊「ぐあっ!?!」

強烈なタイキックを受けて2人が悶える中でアナとブラックキングたちが来る。

ブラックキングSD「お前等、報告会が始まるからそれに参加するぜ」

明久「報告会」

雄二「そりやまた」

京谷「報告会って…」

純「あーあれか；」

それを聞いて誰もがあーとなる。

はやて「どう言うのが出るんやろうな？」

榊「いやな予感しかないぜ」

そう会話しながら案内される。

報告会で待ち受けている笑いの刺客は…

報告会から夜の定番始まる前まで

会議室は広く、用意された椅子に座る様に言われ、着席する。

須川「えー、では報告会を始めようと思います。誰が最初に発表しますか？」

そう聞く須川に手を上げるものがいた。

真宵「では私からするんじゃないよ」

そう前置きしてから真宵は始める。

真宵「戌井榊の調査報告じゃ。最近榊さんは…姉であるみいこさんが奇跡を起こすのではないかと時たま観察してるそうなんじゃよ」

雄二「おま、そんな事してたのか」

京谷「まあ確かに起こしそうだけどさ…」

榊「流石に起こせないと思うだろ？でもな…」
そう前置きする榊に誰もがまさか…と榊を見る。

榊「…何もなかった」

ガラガラドツシャアアアン!!

思わせぶりをなかつたのに誰もがずっこける。

雄二&ティーチ「ないんかい！」

須川「な、なんと言うオチ；」

一松「せやな」

誰もが思わず脱力するのであった。

榊「ふ、良いリアクションだったぜ」

それに榊は良い笑みを浮かばせる。

デデーン!

榊、OUT!

雄二「安定のオチだな榊」

純「策士、策に溺れたね」

榊「しまった!?!」

ズッコケさせたのは良いもののつい笑みを浮かばせちゃってアウ

ト宣言されたのに榊は頭を抱える。

バシーン!!

須川「えー、他に報告ある人」

??? 「はい」

須川が聞くと今度は咲が手を上げる。

須川「では報告を」

咲「京谷についての報告なんだけど…」

明久「どう言うのが出るんだろう」

榊「おそらく碌なのじゃないな」

京谷「いやな予感がする…」

少し間を開ける咲に誰もが息を飲む。

咲「色々と幻想郷の人達を見てドキマギしてて、それがキモイんですよね」

京谷「うおおおい!?!」

純「あー;」

榊「あれはなー;」

ティーチ「男だから仕方ないでござりますなw」

デデーン!

ティーチ、OUT!

告げられた事に京谷は絶叫し、純と榊もうんうん頷く中で笑った
ティーチがアナウンスされる。

バシーン!

幽々子「次は私!純君は女装しても可愛い!」

意気揚々と手を上げてそう報告する幽々子に明久達は笑いかける
が堪える。

もしも笑ったらやばいと思ったから…

榊「ぶっw」

はやて「ぶふっw」

だが、笑ってしまった2人がいた。

デデーン!

榊、はやて、OUT!

幽々子「写真あるけど見る…」

純「姉さん？」

見せようとする幽々子に純は黒い笑みを浮かばせる。

そして振り返った幽々子は一言。

幽々子「駄目？」

純「駄目」

アーーーーー！！！！（某青ツナギの男にやられた際の声）

雄二「ぶっw」

ティーチ「声w w w w」

秀吉「なぜw」

はやて「w w w」

榊「ぶふうw w」

京谷「w w」

デーン！

雄二、秀吉、榊、京谷、はやて、ティーチ、OUT！

お置ききされる際の声がまさかの別の人のに思わず純に同情して
る明久とお置ききしている純を除いて笑ってしまう。

バシーン！

幽々子「うう…残念」

妖夢「自業自得です幽々子様」

よよよと泣く幽々子に妖夢は溜息を吐く。

須川「他に純さんについての情報は？」

妖夢「えつと…あまりないですね」

すると次に手を上げたのは子ギルであった。

子ギル「はいはい。吉井明久であります」

明久「うわ次は僕か」

純「明久君の秘密か」

榊「それは気になるな」

どう言うのが出るんだと考える。

子ギル「マスターの吉井明久は…新しいモンスターが出たら暇な時
に自分なりの召喚口上を考えたりしている」

明久「いやん聞かれてた(／ω＼)！」

雄二「おいw」

秀吉「なんじゃその反応はw」

はやて「アキ君w」

ティーチ「そんなに恥ずかしかったでござるかw」

純「ぷぷぷw」

榊「明久w」

京谷「なんだそのリアクションw」

デーン！

明久以外、OUT！

出て来たのに明久は顔を抑えるがリアクションに思わず明久以外が笑う。

バシーン！

須川「ほ、他にはw」

子ギル「後は…試しに知り合いの人が書いた同人誌を見せたら…なんで裸でプロレスをしているの(・ω・?)?と言う。バカだねw」

雄二「ぶっ、明久おまw」

明久「え？何かおかしい？」

秀吉「と言うか何を見せておるんじゃ子ギルよ；」

はやて「確かに返しがおかしいw」

ティーチ「確かにどんだけw」

榊「知識無さすぎるだろw」

純「ぶっふふw」

京谷「w w w」

デーン！

雄二、榊、京谷、はやて、ティーチ、純、OUT！

須川「まさか吉井がそこまでなかったとは…面白くもあるが怖いな…」

明久「なんで怖がられてるの!？」

雄二「気にするな」

純「気にしないほうがいいよ」

そう言う須川に明久は驚く中で雄二と純がそう言う。

酒呑「今度はウチやで〜主の木下秀吉に関する事で」

秀吉「今度はワシか!？」

京谷「どんなんだ？」

誰もが息を飲んでみる。

酒呑「木下秀吉は：酔っ払うと結構甘えたがるんや〜んで清水とおった時は凄く猫の様に甘えるんやで〜」

秀吉「それ秘密にしてと言っておいたのじゃあああああ!？」

明久「と言うか酔っ払うって間違っつて飲んだの？」

はやて「かわええなw」

ティーチ「きつとあわあわしてたんでしょなw」

榊「顔真っ赤にしてなw w w」

純「想像しやすいw w」

京谷「ぶははははw w」

雄二「くくくw」

デーン!

雄二、榊、京谷、はやて、ティーチ、純、OUT!

くすくす笑って言う酒呑のに秀吉は顔を赤くして絶叫し、明久以外が笑う。

バシーン!

須川「他には?」

ブーティカA「はいは〜い」

それにアヴェンジャーのブーティカが手を上げる。

雄二「今度はあいつか」

純「どんな秘密かな?」

榊「やっぱ面白いなこれ」

誰もが息を飲んで報告を待つ。

ブーティカ「マスターの雄二はね：時たま魔法のアイディアとかで少女漫画を読み漁ったりしてるのよね」

雄二「魔法なら少女漫画が考えやすいんだよ」

ティーチ「だけどシニールw」

はやて「確かによんどの姿を想像するとw」

純「ぶふっwww」

榊「ぶはははははwww」

京谷「に、似合わねえwwww」

デーン！

榊、京谷、はやて、ティーチ、純、OUT！

ブーティカのに想像した上記の面々が笑う。

バシーン！

明久「色々と、赤裸々なを暴露されたね」

秀吉「うむ」

榊「確かにな；」

京谷「どつから仕入れてきたんだか…」

各々にそういう中でバタバタと慌てた様な音がしてきて…

横溝「すみません！遅れました！」

コナンの横溝参悟の髪型にした横溝が来る。

須川「遅いぞ横溝！」

明久「その髪型w」

雄二「して貰ったのかw」

秀吉「くっw」

はやて「す、凄い珊瑚へアーw」

ティーチ「海にいたら違和感なさそうw」

榊「ぶふっww」

純「確かに違和感ないww」

京谷「ぶふふっww」

デーン！

全員、OUT！

リアルで名前繋がりでコナンの横溝兄の髪型をしているのに誰も
が笑う。

バシーン！

須川「そ、それでどうして遅れたw」

横溝「はい、西原京谷のである噂話を」

雄二「京谷のだと？」

京谷「俺の？」

榊「噂話？」

なんだなんだ？と誰もが思う。

横溝「なんでも、釣った魚を入れようとして落としてかけて蹴っちやったそうなんです」

須川「ほほう？」

雄二「あつ（察し）」

京谷「ん？」

榊「お？」

純「へ？」

横溝から出て来た言葉に雄二は察して何を蹴ったの？と京谷が見るが蹴ってない蹴ってないと本人は手を振る。

須川「ちなみにその魚は？」

横溝「タイです」

ティーチ「ああ…」

はやて「オチが読めたな；」

榊「タイ…：蹴る…ああ」

告げられた名前に誰もが気づく。

須川「成程、タイにキツクか！」

横溝「はい！タイキツクなんです！」

デデーン！

京谷、タイキツク！

京谷「またかあああああああああ!!？」

純「ひどい洒落だな；」

ティーチ「だけど本家で違う形でありえそうな気もしますな；」
アナウンスに京谷は絶叫し、そう言う純にティーチはそう言う。

バシーン！

京谷「ふご!？」

明久「ホント凄い；」

榊「よくやってくれるよな」

蹴られる京谷を見ながら各々に言っていると銀時が手を上げる。

銀時「私も八神はやてに関するのを仕入れました」

はやて「今度はうち？」

秀吉「なんとなく分かる気がするのじゃ」

純「僕もなんとなくわかった」

その言葉に誰もが察する。

銀時「仮装大会が近々するのでそれに…八神はやてはヅラと共にツラが狸で自分は狐と言うマリオブラザーズの変身での仮装で出ようとしてるとの事です」

明久「狐ww」

雄二「確かにカツオでならそうだけどよw」

秀吉「逆にしたのじゃなw」

ティーチ「くくw」

榊「ぶふつw」

京谷「ぶはっw」

純「ぷつw」

はやて「いやあああああああ!!桂さんそれ当日まで秘密にしといてと言ったやないかああああ!!」

デーン!

はやて以外、OUT!

情報にはやて以外は笑い、はやては絶叫する。

バシーン!

銀時「まだあるんです」

明久「まだあるの!？」

純「まだあるんだ」

どう言うのが出るんだ!?と誰もが思っていると…

銀時「最近、なのはやフェイトにアリス達から赤い狐か緑の狸ではやてちゃんは緑の狸ねと言われたそうです」

明久「また狸w」

雄二「狸ネタは続くなw」

秀吉「美味しいのは分かるのじゃがw」

ティーチ「ですなw」

京谷「うんうんw」

純「似合う似合うww」

榊「くくくw」

はやて「ウチ、狐も食べたいんやで！」

デデーン！

はやて以外、OUT！

今度は有名な奴でのやり取りネタにはやて以外が笑う。

バシーン！

須川「えー、次に何かありますか？」

?? 「あるぞ」

そう言つて手を上げたのは花屋大我であつた。

ティーチ「アイエエエエ!? 本家スナイプ!? 本家スナイプなんで!?!」

雄二「と言うか参加してたんだな；」

榊「参加するキャラかおい；」

純「イメージ的にしなさそうだよね；」

なぜいるかについて誰もが疑問を抱いてる中で須川が恐る恐る聞く。

須川「えつと、聞きますがどう言つた理由で？」

大我「ああ、別の世界のスナイプの事でな…なんでも魔法紳士とかふざけた事をしたとかな」

ティーチ「いやあああああ!! 色々黒歴史!!」

榊「ああ、もしかして…」

京谷「あのイベントの事か」

大我から出て来たのにティーチは絶叫し、榊と京谷は納得する。

明久「ちなみに魔法紳士はキレイなXライダーさんに全員が秒殺されて出て来た子もXライダーさんに怯えてたな…」

雄二「あれは…酷い事件だった」

秀吉「うむ」

榊「なんというか…可哀そうだな最後の子が；」

純「無茶な設定って泣いてたのにね；」

その光景を思い出してか遠い目をする明久達3人とガタガタするティーチを見て榊たちはうわーとなる。

大我「そいつには色々叩き込んでおけよ。俺と同じスナイプならこんなものに出てるんだから後はタイキックでも耐えるだろうしな」

ティーチ「え？」

そう言っただけで去る大我の最後の言葉にティーチは茫然とし、まさかの置き土産と誰もがティーチを見る。

ブラックキングSD「と言う訳でティーチはんはこれ以降はケツバットではなく、タイキックに変更やで〜」

ティーチ「アイエエエエエ!?」

明久「わおう；」

京谷「マジか；」

宣言された事にティーチは絶叫し、他のメンバーは冷や汗を流す。

須川「これにて、報告会は終わりでしょうかね」

明久「終わり？」

榊「そう言えばもうこんな時間か」

そう言う須川に榊も時間を確認して言う。

誰もが終わったと各々に立ち上がる。

サンダーダランビア「それじゃあこちらにも戻るツス！」

雄二「おう」

京谷「そうだな」

そう言っただけで部屋を出ようとして：

ヨッシー「どうもハチ公です」

蜂の恰好をして座って像の様な感じのヨッシーがいた。

明久「ぶふw」

雄二「ハチ公ってw」

秀吉「忠犬ハチ公ではないのかw」

ティーチ「ぷくくつw」

はやて「あ、あかんわw」

榊「ぶふつw」

京谷「ぶはっw」

純「www」

デデーン!

全員、OUT!

待ち伏せの笑いに誰もが思わず笑ってしまふ、
ケツを叩く集団と共にインペラーが来て:

パシーン!

インペラー「ふん!」

バシーン!

ティーチ「ぬおおお!?」

ティーチのケツへとタイキツクを炸裂させる。

明久「宣言通り;」

純「大変だね;」

榊「南無;;;」

その様子にも誰もが冷や汗を掻く。

ティーチ「待ち伏せもあるのが笑ってはいけません;」

京谷「そうだな」

秀吉「次は何か来るか警戒しないとイケんのう:」

そう会話しながら歩いてると:

明久「ぶふ!?w」

デデーン!

明久、OUT!

突然明久が笑う。

雄二「どうした明久!」

榊「何だ?!」

いきなりの事に誰もが明久を見て、明久が震えながら指さした方を見る。

つ、イツツミーマリオの笑える変顔

雄二「ぶっw」

秀吉「これは酷いw」

ティーチ「ははははははw」

はやて「あ、あかんわw」

榊「ぶははははw w w w」

京谷「あはははははははw w w w」

純「こ、これは無理w w あはははははw w w w」

デーン！

明久以外、OUT！

その変顔に明久以外も笑う。

パシーン！

パシーン！

明久「せ、先生：凄く笑わせに来たな…」

雄二「あれは卑怯だぜ…」

純「卑怯すぎる…」

榊「全くだぜ…」

誰もが絵のにそう言うのであった。

マリオ&ヨツシー「いえーい！」

ルイージ「変顔のをやってると思ったらこの為だったのね；」

鬼矢「よくやるぜ…」

乃亞「さてそろそろ終盤か」

そんな明久達の様子にハイタッチする仕掛け人のマリオとヨツ

シーに鬼矢は呆れる中で乃亞がそう言う。

おそ松「おう、ガキ使で定番とも言える夜のあれであるからな」

トド松「ホント驚きのネタは色々と凄いやね」

美陽「そうよねー」

咲「ホント驚くわよねあれは」

狂治「それでは行ってきますデス！」

エアル「頑張りましょう主！」

悪の科学者役なので準備に移る狂治に同じ様に美人な助手の恰好をしたエアルはふんす！と気合を入れて言う。

次回：笑ってはいけない最終回！何が待ち受けているのか!!

驚いてはいけないから終了まで 前半

狂治「ではスタートデス！」

その言葉と共に明久達の所のテレビに映像が入る。

明久「え、何？」

雄二「時間的にあれか？」

榊「あれだよな」

その言葉と共に明久達の所が暗くなる。

はやて「うわ、なんか暗くなった!？」

ティーチ「なんでござりますか!？」

純「これってまさか!？」

京谷「うおう!？」

誰もが暗くなった事に驚く中でしばらくして電気が付く。

明久「今のは一体…」

榊「あ、おい！」

戸惑う明久の後に榊が何かに気づく。

ティーチ「どうしたでござる榊氏!？」

榊「何人かいなくなってるぞ!？」

京谷「あ、確かに！」

この場に明久、ティーチ、榊、京谷しかいない。

誰もが戸惑っているテレビに映像が入る。

明久「え、何？」

京谷「なんか映ったぞ？」

4人はテレビを見る。

狂治『どうもデス皆さん』

そう言っつて狂治が映る。

服装から見て榊はあっ！と声を上げる。

榊「悪い科学者役か！」

ティーチ「それってつまり…」

京谷「驚いてはいけないって奴か！」
そんな4人の反応にカメラで見てるのか満足そうに狂治は笑った
後に言う。

狂治『はいデス。なので例のごとく何人が拐わせてもらいました』
そう言つてカメラが移動し：

雄二『うおおおお!!!よるなあああああ!!!』

LOVEズに迫られてる雄二が映る。

ティーチ「なんか放送事故直前な事になりかけてるううううう
!？」

榊「雄二いいいいいい!？」

京谷「大変だぞおい；」

それにティーチと榊は絶叫し、京谷が呟いてる間にLOVEズは他
の面々により撤収させられ、狂治は咳払いして気を取り直す。

狂治『えー他のメンバーはこちらデス』

その言葉の後に縛られて転がっているはやて達の姿があった。

はやて『い、何時の間に；』

純『う、動けない；』

明久「あの一瞬で；」

京谷「一体誰が；」

と疑問を感じていると狂治と縛られてるメンバーの後ろでピース
しているガタツクとカブトが見えて、あの人等か!と気づく。

狂治『えーではここから恒例の驚いてはいけなを開始するのデス
!皆さんには暗くなった建物の中を歩いて貰います。目的地は1階
の物置部屋で、そこに囚われた人達がいる場所を記した見取り図があ
るので頑張ってください!』

明久「うわー、やっぱり驚いてはいけないか」

榊「あ、机の上に懐中電灯が」

告げられたのに明久がうへえとなる中で榊は机の上に用意された
懐中電灯に気づく。

狂治『では皆さん頑張ってくださいーい!』

その言葉と共に映像が終わる。

明久「うーん、どういふ怖さが来るんだろう…」
ティーチ「ですな」

京谷「怖さだけじゃないと思うぜ明久」

榊「怖いじゃなくていきなりでも驚くからね」

言われて明久はあー確かにと納得した後に早速出ようとして…

ブシャアアアアアアアアアアアアアアア!!!

明久「うわ!!」

ティーチ「ぬお!!」

京谷「うお!!」

榊「なんだ!!」

CO2ガスが噴出して4人は驚く。

明久「ビツクリした!」

ティーチ「これも定番でしたな!」

榊「だな!」

誰もがふーと息を吐いた後に扉を開けて廊下に出る。

ちなみに明久達がいた部屋は3階にある。

一同は降りる為に階段へと向かう。

明久「うーん。暗いと不気味だな」

京谷「そうだな…」

恐る恐る進みながら4人は前方を照らして歩く。

すると…

榊「ん?なんだありや?」

明久「何か見つけたの?」

何かに気づく榊に明久は榊が見ている方を見る。

ティーチ「あれは…」

京谷「棺桶か?」

棺桶に誰もが警戒しながら近づく。

ガタガタツ!

榊「うおっ!!」

すると棺桶が揺れ始める。

誰もが慌てて後ずさり…

芳香「あー！」

現れたのが芳香なのに誰もがよくける。

明久「そこキョンシー——!?」

榊「ドラキュラじゃないのかよー!?」

それには4人は別の意味で驚いた。

芳香「どうだくくく驚いたかくくく」

ティーチ「別の意味で驚きましたぞ！」

京谷「確かにな！」

そういう芳香にティーチはツツコミを入れる。

芳香「青娥くやったぞく驚かしたぞく」

そんなのを気にせず、芳香は歩いて行く。

明久「うーんなんと言うか開幕驚きはしたけど別のインパクトが強
かったなホント……」

榊「そうだな……」

京谷「取りあえず進もうぜ」

ティーチ「ですな」

見送った後に4人は歩き出す。

ジリリリリリリリン!

しばらく歩いていると昔の置き型電話の音が聞こえて来る。

明久「これは……」

榊「昔の電話か？」

聞こえてくる方へと速足で向かうと昔懐かしの黒電話があった。

ティーチ「誰が出ます？」

京谷「んじや俺が……」

ガッ!

京谷「うお!？」

ブチッ!

明久&ティーチ&榊「あっ」

出ようとした京谷は誤って電話線に足を引っかけてしまい、そのまま倒れると共に運悪く電話線が切れてしまう。

それにより黒電話も静かになる。

明久「えつと……」

榊「切れちやつたな…電話線」

ティーチ「これ…普通にやっちゃまったーですな」

京谷「あー…悪い」

これにどうしようか…と誰もが思っていると京谷の懐からブー
ブーと言う音が聞こえる。

京谷「ん？」

なんだ？と京谷はブーブー言ってるスマホを取り出し、咲と書かれ
ていたので出る。

京谷「もしもし？崎守か？」

???『どうも、咲さんのスマホを借りた黒電話で出る者です』

出てみると咲ではなく別の人物の声で京谷は驚く。

???『黒電話の受話器を持って貰えませんか？』

京谷「受話器を？」

そう指示されて京谷は左手で受話器を持つ。

???『持ちましたね？では質問なんですが…何かを破いた際に流れる
音は？』

京谷「え？それってビリビリだろ？」

質問に対して京谷はなんで当たり前のを？と思った時…

「ビリビリっ！（電撃）」

京谷「あばばばばばばばばば」

すると持っていた受話器から電撃が流れて京谷は受話器を手放す。

???『どうもー』

ツーツー…

明久「大丈夫京谷；」

京谷「こ、こういう仕掛けかよ…」

ティーチ「答えた事で電撃が走る。アルアルですな；」

榊「確かにあるな；」

うのおおおお…と左手を抑える京谷を見て言うティーチに榊も同
意する。

ティーチ「んで、丁度階段があるのでここから降りますな」

榊「気をつけて降りないとな」

だねと頷いた後に明久は歩き出そうとして…

明久「おお!？」

つんのめりかけて慌てて踏ん張る。

京谷「どうした明久!？」

ティーチ「あ、明久氏の足元の床、粘着シートが敷き詰められておりますぞ！」

それに3人は驚いた後にティーチが気づいて指摘する。

確かに階段へ向かう通路に粘着シートが敷き詰められている。

榊「い、何時の間に…」

明久「夜の間敷き詰めたのかな?；」

なんとか粘着シートを剥がそうと足を振るいながら明久は言う。

ティーチ「剥がしましょうか?」

明久「お願いします；」

京谷「時間かかるぞこれ?」

そう申し出るティーチに明久は受けるのを見ながら京谷は呟いていると榊が看板を見てるのに気づく。

京谷「ん?何見ているんだ榊」

榊「ああ、看板あったから見た。この先にしりとりでもものが置かれてるからそれを読み上げながら進めだつてよ」

聞く京谷に榊はそう答える。

何があるのだろうかとうと粘着シートを外した明久とティーチは首を傾げる中で進んでみる。

明久「えつと…イガグリ」

榊「林檎」

置かれていたのを言って行き…

ティーチ「えつと…ゴモラ?」

ゴモラ「ギャオオオオオオン!!」

次のを言った瞬間にゴモラが動き出す。

京谷「動いた!？」

明久「逃げよう!」

慌てて4人は駆け降りる。

ティーチ「あ、ランプ!」

???「プリプリ〜ン」

そして降りるといたのは…

榊「プリン!?!」

ポケモンのプリンがいたのに4人は驚いた後にプリンはマイクを
持って…

プリン「ぷくぷぷり〜」

カーン!

歌いだそうとしたら鐘が鳴って、誰もがあららとつんのめる。

そしてプリンも邪魔されたのでプーとなった後…

プリン「プリプリプリプリプリ!!」

ティーチ「なんで拙者?!」

ティーチへと怒りの往復ビンタを炸裂させた。

榊「つかさっきの鐘なんだ!?!」

明久「歌を止めさせる為とか? ;」

京谷「計算通りってことか」

鐘について呟く榊に明久は推測を言い、京谷は呟く。

プリン「プイ!」

ティーチ「と言うか拙者：普通にビンタされ損な気がする」

ぷんすかと去るプリンから目を放して頬を膨らませたティーチが

そう言う。

明久「ぷふw」

榊「頬真つ赤ww」

京谷「大丈夫かww」

ティーチ「氷あつたら冷やしたいでござる」

それには思わず3人は笑い、ティーチはそう言う。

とにかく降りるのを再開して1階へと降りる。

明久「このまま進めば見取り図がある部屋まで行けるね」

榊「進めればな…」

そう言っって誰もが歩いて…

ぷうくくくくく!

京谷「うおおおおお!」

いきなりの音に京谷は驚く。

ティーチ「すまんでござる。拙者のおならでござる」

京谷「すんなよ!」

榊「びつくりしただろうが!」

明久「暗い所だと本当にいきなりの音は驚くよね;

謝るティーチに京谷と榊は文句を言い、明久はそう言う。

ちなみに:

京谷『うおおおおお!』

狂治「おーおー、驚いているようデースね」

エアル「そうですね主」

驚く様子の京谷に狂治とエアルは楽しそうに見ていた。

まあ、仕掛けではなく、別ので起こった驚きであるが:

戻って明久達:

しばらく歩いていると……

明久「ひやあああああああ!」

榊「うおおお!」

いきなり明久が悲鳴を上げたので3人は驚く、

ティーチ「ど、どうしたでござりまするか明久氏!」

明久「な、なんか背中に氷を入られた」

京谷「氷を?」

榊「一体どうやって……」

答える明久のに3人は首を傾げた時:

ひとり:

榊「ぬおっ!」

京谷「うおっ!」

今度は榊と京谷が悲鳴を上げる。

ティーチ「今度はお2人でござるか!」

京谷「なんか顔についたぞ!」

榊「これ、こんにやくか!」

自分達に来たのがなんなのかに気づいてマジでどこから来たんだ!?と4人は驚く。

おそ松「おうおう、効果てきめんだね〜」
鬼矢「そうだな」

そんな驚きまくっている4人におそ松は笑い、仕掛け人である紫姿の鬼矢も同意する。

おそ松「いやー、ホントこういう系のに向いてるなあんたの能力」
鬼矢「まあな。さて次は……」

そう言つて次の準備に入る。

明久「もうそろそろで着きそうだね」

ティーチ「さっきのはめっちゃ不意打ちでしたな」

榊「全くだぜ……」

京谷「一体誰が仕掛けたんだか……」

しばらく歩いているとまていと言う呼び止める声が出て振り返る。いたのは……セクシーな恰好をした赤セイバーとキヤス狐であった。

赤セイバー「セクシーランボのネロである！」

キヤス狐「同じく、セクシーランボの玉藻ですわ♪」

明久「あれって!?!」

ティーチ「本家でもあったのですな!」

榊「ああ、あれか!」

京谷「マジか……」

それに4人が驚く中で2人は持っていたマシンガンの引き金を引く。

パンパンパンパン!

明久「わたたたたた!?!」

ティーチ「火花!?!」

京谷「ぬおっ!?!」

榊「うおっ!?!」

それにより4人の周囲に火花が迸る。

明久「ビックリした……」

榊「驚いた……」

ふうーと息を吐く明久に赤セイバーとキヤス狐は近寄る。

赤セイバー「なあなあ奏者よ。どうだ余の姿は」

キヤス狐「恥ずかしいのですがご主人様に見せたかったのでどうでしょう？」

詰め寄る2人に明久はえーとと呟いてから：

明久「えーと似合ってるけど、お腹を出し過ぎると冷えちゃうよ」

ティーチ&榊&京谷「オカンか！」

赤セイバー「うぬぬ、やはり奏者はそっちに行くか」

キヤス狐「やはり難しいですね」

アーチャー「君達、終わったのだから早く行くぞ」

感想に3人は叫び、残念がる2人をアーチャーは引きずって行く。

明久「ちゃんと着替えるんだよ」

榊「ホント明久は明久だな；」

京谷「だな；」

そう言う明久に誰もが呆れる。

と言う訳で目的の場所に着き、明久が扉を開けようとして：

バチーーン!!

明久「あばばばばばば…」

ティーチ「あ、痺れた」

京谷「電気が流れているのか」

榊「これも定番だな」

手を抑えてしゃがみ込む明久を見ながら各々に呟いた後に部屋に入る。

色々と置かれてる中で宝箱が置かれている。

明久「あれかな？」

京谷「開けてみるか」

代表でティーチが開けようとして：

ビリッ!

ティーチ「あ、しびれびれ!!!」

榊「また電気!?!」

手を抑えるティーチに榊は驚いた後に箱は開く。

中には…ボタンがあつた。

明久「ボタンだ」

京谷「何のボタンだ？」

誰もがボタンに警戒する中で明久は押した方が良かったかなと3人を見る。

ティーチ「やっぱ押すべきでしょうかね…」

京谷「だろうな…」

榊「じゃんけんで決めるか」

それでいつかと榊の提案に乗って4人はジャンケンで決めた結果

…

明久「僕かー」

決まったので3人が離れた場所で見守る中で明久はボタンに手を置く。

明久「せーの！」

ポチっ！

押された後に…

ぶしゅー！ー！ー！ー！！

明久にCO₂ガスが噴射される。

榊「やっぱり罨か」

京谷「大丈夫か明久？」

それに驚きながら京谷は話しかける。

明久の運命は…

驚いてはいけなから終了まで 後半

前回、ボタンを押した事でガスを受けた明久…

振り返った明久に……3人は嘖いた。

なぜなら…明久の顔に紙が貼りついていて、その紙が変顔のであった。

明久「前が見えない」

ティーチ「ぶふw」

京谷「ぶつww」

榊「ぶはつww」

それに思わず笑ってしまい、誰もが笑いに震える。

明久「ねえ、ちよつと、誰か顔についてるの剥がして；」

榊「あー分かった」

ベリッ

そうお願いする明久に笑い終えた榊が取って上げる。

その後にティーチは明久に張り付いていた方を見て声を上げる。

ティーチ「あ、これ、裏側、見取り図ですぞ」

京谷「え？」

確認すると、確かにある一点がマーキングされている見取り図であった。

明久「これもまた驚きだね；」

榊「確かにな」

そう呟く明久に榊が同意した後に見取り図を確認する。

マーキングされているのは丁度捕まってはいけないで使用されていた場所付近であった。

明久「あそこなんだ」

京谷「早速行ってみるか」

と言う訳で4人は移動を開始した。

外に出ると…

沖田「ほら、近藤さん。ちゃんと移動しましょうぜ」

ドンキー「ウホ」

そう言いながら歩く沖田とドンキーが通過する。

明久「ぶふw」

ティーチ「ゴリラネタw」

榊「ゴリラww」

京谷「ぶはっww」

それには思わず4人は笑うとドンキーはピタリと止まり：

ドンキー「笑ったなw」

振り向いて怖い顔を見せる。

明久&ティーチ「わあああああああ!!」

榊&京谷「ぬおおおおおおお!!」

それに4人は絶叫して走る。

ドンキー「うおw」

明久「追いかけて来た！」

榊「逃げるぞ！」

追いかけて来るドンキーに誰もが必死に足を動かす。

ティーチ「まだ追ってきますぞ！」

京谷「どうする!？」

誰もが必死に走っているとドンキーは途中から曲がって行く。

それに気づかないまま4人は目的地の場所まで着く。

明久「ひ、必死に走っている間に着いちゃったね；」

榊「そうだな；」

とにかく、目的地の付いたので扉を開ける。

雄二「おお、明久！」

秀吉「ま、待ってたのじゃ」

純「助けてー」

すると縛られた4人がおり、急いで明久達は縄をほどきにかかる。

はやて「いやw助かったわw」

秀吉「全くじゃな」

榊「さて三人を助けたら次は……」

雄二「おい、ナチュラルに俺を省くな。まあ、脱出だろうな」

はやて、秀吉、純を見て言う榊に雄二はツツコミを入れた後にそう

いう。

明久「だね」

純「んじや、脱出する…」

か…と純が言おうとした時…

別の場所

狂治「捕獲成功デース」

エアル「そうですね主」

やらない夫「安堵した所で案内役を捕まえるのもまた良いんだが…」

やる夫「あれは良いのかお? ; ;」

様子を見て言う狂治とエアルと一緒に見ていたやらない夫とやる夫がそう言う。

アナ「(ガタガタブルブル)」

エウリュアレ「あらあら、そんなに震えて」

ステンノ「フリじやないフ・リ」

縛られたアナがゴルゴン姉妹に震えてるといふ事である。

狂治「あー；それはまー…；関わらない方が良いつてことで；」

やらない夫「言い切ったな。いや、俺もあの状況に関わりたくねえけど；」

やる夫「んで、どこにいて貰うんだお?」

エアル「あの場所です。あの装置の前に」

示した場所にああ、こりやあ大変だお…とやる夫は思った。

戻って明久達

出ようとした所で置かれていたテレビが突如電源が付く。

明久「うわ、何!？」

純「テレビがついたぞ!？」

何が来るの!?!と誰もが身構える。

狂治『どうもデース! みなさーん!』

京谷「あ、狂治!」

映った狂治に誰もが見る中で狂治は言う。

狂治『いやー見事救出成功したみたいデースね』

雄二「おう、助けられたぜ」

榊「あとは此処から逃げるだけだぜ？」

「そう言う榊のに狂治はふっふっふっ！と笑う。

狂治「見事に引つかかってくれました！おかげでこっちは作戦に成功しましたデース！」

秀吉「作戦じゃと？」

ティーチ「あ、もしかして!？」

京谷「本当の目的は…」

首を傾げる秀吉だがティーチと京谷はすぐさま察する。

狂治『はいデース！皆さんがそちらに集中していたおかげで』

エアル『彼女たちの捕獲に成功しました』

そう言つて映し出されたのは：

メドゥーサ『あー、色々と落ち着きます』

アナ「(・ω・)」

サンダーダランピアSD『子供と大人の同一人物同士が並ぶと凄
いッスね』

ブラックキングSD『せやな』

ほにやりとしたメドゥーサに抱き締められてるなんとも言えない
顔をしたアナと鳥かごに入れられた2匹であった。

ティーチ「また放送事故みたいなのが起きてるううう!？」

純「え？そう?」

ガチヨーンとなるティーチに純に首を傾げる。

メドゥーサ『と言う訳でどこに監禁したかはその部屋の中に隠して
るのでよく探してください』

雄二「あんたが言うのかよ！」

榊「まあ取り敢えず探そうぜ；」

その言葉を残してテレビが消える中で雄二はツツコミを入れてる
間に榊がそう言う。

と言う訳で監禁場所を示したの探す為に部屋の中を探る。
はやて「あ、これかな？」

少ししてはやてが置かれてる箱に気づいて手を伸ばし…
バチッ!

はやて「うのおおおおお…」

純「静電気か!」

京谷「大丈夫かはやてさん!?!」

伸ばした手を抑えてうづくまるはやてに誰もが駆け寄る。

はやて「こ、これは効くでほんま…」

明久「確かに;」

純「いきなりだもんね;」

抑えながらそういうはやてに誰もがうんうんと頷く。

榊「おい、これじゃねえか?」

京谷「え?」

すると榊が開けて出て来たのを取り出す。

確かにそれは見取り図で別の場所をマーキングしていた。

明久「ビンゴだね」

純「それじゃあ早速行こうか」

と言う訳で早速記された場所へと向かう。

その途中…

雄二「ん?なんだあれ?」

榊「ん?」

雄二が何かを見つけて誰もがそちらを見る。

キアラ「1枚、2枚、3枚、4枚…」

そこには何かを数えているキアラがいた。

榊&京谷「あ、最近ラスボスになったキアラだ」

純「あー人類悪になったね;」

秀吉「と言うか何を数えておるのじゃ;」

そう言う榊と京谷と純の後に秀吉はそう呟く。

誰もが気になったので近寄って見る。

そこにあったのは…様々な恰好をしたアンデルセンであった。

雄二「(フォックスだな)」

榊「猫だな」

乃亞「どういふことだ？ここも爆破するとは台本には……」
ペラペラペラ

するとどこからともなく紙が飛んで来て、ムツツリーニはそれを掴んで読む。

ムツツリーニ「……………」『近日、此処を立て直すためにラストはこの仮基地も花火で綺麗に爆破するので早めに避難するように』」

アンデルセン「良し逃げるぞ」

すぐさま出て来た言葉に誰もが駆け出す。

乃亞「ああ、だから妙に古い建物だったんだな此処！多少補修工事したけど！」

キアラ「あと部屋も空っぽになってるのが多々ありますわね」

ムツツリーニ「……………」ちなみにデパート風の基地に立て直すらしいぞ」

アンデルセン「それはまたお買い物をしたくなる様な所だな！」
そう会話しながら走る。

一方の知らない明久達はキヤトラともどもせえせえしていた。

キヤトラ「はあはあ…色々怖かったわ」

はやて「ほ、ほんまやな；」

榊「つてちよつと待て…………」

京谷「なんでキヤトラが此処にいるんだ!？」

混ざっているキヤトラに榊と京谷はツツコミを入れる。

キヤトラ「後ろから驚かせようとしたらキアラので驚いたのよ！」

雄二「んでつい一緒に逃げて来たつてか；」

純「つてここ、外みたいだよ？」

理由に雄二が呆れる中で純が気づいて言う。

はやて「あらー、何時の間にか出てたんやな」

ティーチ「それだけ怖かったんでござるな」

京谷「まあさっきのはな…」

榊「あ、おいあれ！」

すると榊が何かに気づく。

誰もが榊の見える方を見る。

秀吉「あれは…」

京谷「なんかデカいのがあるな」

榊「その前にアナ達が居るぞ！」

確かに2人の言う通り、巨大な何かがあつて、その前にアナ達がい
た。

ブラックキングSD「おーいはよ来てくれ！」

サンダーダランピアSD「マジ待ってたっス！」

純「今助けるよ」

キヤトラ「ようし！進め進め進め！」

そのままメンバーはアナ達へと近づく。

アナ「早く解いてください。結構疲れるので」

榊「わかつたわかつた。よつと」

急かさされる中で榊がアナのロープを解く。

別の場所

狂治「さて、では起動させますヨ？エアル」

エアル「はい、主」

そう指示する狂治にエアルは前後に倒すレバーを取り出し、狂治は
レバーを握り…

狂治「起動デス！」

ガシヤンと前に倒す。

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ…

明久「何々!？」

はやて「何が起こるんや!？」

京谷「お、おい！あれ！」

純「え？」

いきなりの誰かが驚く中で京谷の言葉に誰もが京谷の指す方を
見る。

見えたのは…

京谷「なんじゃありやああ!？」

巨大な…キヤトラタンクであった。

明久「でかああああああああい!?説明不要!!」

キヤトラ「にぎやあああああああああ!?もしかして寸法されたのあれの作成の為!」

榊「嘘だおろおおお!」

純「に、逃げるよ!」

現れたそれには誰もが驚いた後に一生懸命に走る。
にぎやあにぎやあにぎやあ!!

後ろからの声にティーチは振り返ると…巨大キヤトラタンク以外にヌイグルミなキヤトラ軍団が走って来る。

ティーチ「さらに来たアアアアアアアアア!」

京谷「なんだありやああああああ!」

狂冶「花火、点火!」

それに誰もが驚いている間に狂冶は続いているのを押す。

ドカーーーーン!!

明久「何事!」

純「爆発!」

いきなりの爆発音に驚いている間に次々と爆発が起こり、花火が舞い踊る。

雄二「確かに爆発とかあったけどよ!」

榊「これちよつとヤバくね!」

確かに本家よりなぜか爆発のが大きい気がする。

ティーチ「確かにちよいと爆発のが大きい様な気がしますぞ!」

純「と言うか建物も爆発してるよ!」

ええええええええ!?と誰もが起こってるのに驚きながら駆け抜ける。
しばらくして…

明久「ええ…」

榊「マジか…」

目の前の更地となった舞台に啞然とする。

雄二「本家よりやり過ぎだろ…」

秀吉「じゃな」

京谷「確かに；」

純「と言うかここまでしていいの；」

誰もがその結果に冷や汗を掻く中で長谷部が来る。

長谷部「それなら大丈夫だ。近日此処、立て直すつもりだったから」
はやて「え？立て直すってどう言う事ですか？」

出て来た言葉にははやては聞く。

長谷部「あんないかにも基地って感じで最近怪しまれてからな。デパート風の基地に立て直すんだよ」

雄二「もしかして笑ってはいけなをやったのはそのついでってか？」

そう説明する長谷部に雄二は呆れた感じに聞く。

長谷部「まあそうだ」

榊「そうだったのか；」

うわあお：と誰もが冷や汗を掻く。

明久「ひやひやさせ過ぎですよ；」

ティーチ「マジビビりましたな」

榊「吃驚したぜ；」

長谷部「ああ、悪い悪い」

はあく息を吐く面々に長谷部は謝罪する。

ブラックキングSD「まあ、何はともあれ！」

サンダーダランビアSD「笑ってはいけないは終了ッス！」

明久「終わったー」

京谷「やつとかー」

純「はあー」

誰もがまた安堵の息を吐く。

アナ「ホントお疲れ様です」

雄二「全くだな」

秀吉「うむ」

榊「やつと終わったぜ；」

誰もがふうと息を吐く。

はやて「尻がマジ痛いなく」

ティーチ「ですな」

京谷「一体それぞれ何回叩かれたんだ？」

純「えつと……」

キヤトラ「それは後で発表されるからお楽しみね」

数えようとした純にキヤトラはそう言う。

雄二「まあ、マジ笑ったな」

榊「ああ、そうだな」

そう会話した後にそれぞれ背伸びする。

明久「とにかく、お疲れ様」

秀吉「うむ、お疲れじゃな」

京谷「お疲れー」

純「お疲れさん」

雄二「お疲れさん」

ティーチ「お疲れ様でござる」

はやて「お疲れさん〜」

榊「お疲れ様だぜ！」

それぞれが劳いの言葉をかけて笑ってはいけないは終わった。

後日、更地は財団Xの技術で立派なデパートが立っていたのであった。